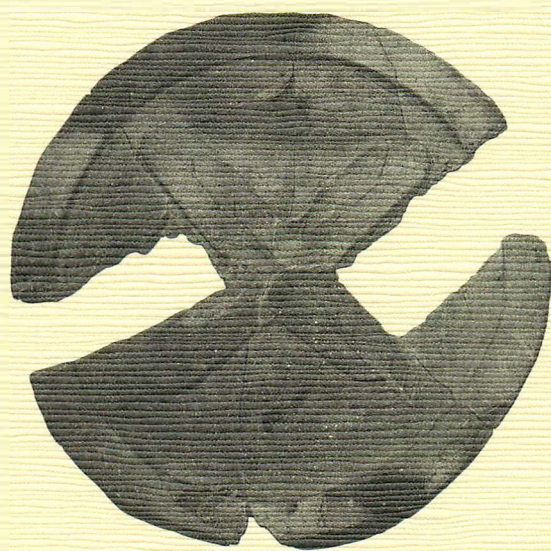


山梨県指定史跡

# 甲府城跡 VIII



1998. 3

山梨県教育委員会  
山梨県土木部

# 甲府城跡Ⅷ

1998.3

山梨県教育委員会  
山梨県土木部

## 序

本書は、山梨県土木部が平成2年から10ヶ年計画で実施している舞鶴城公園（県指定史跡甲府城跡）整備事業に伴う、平成9年度の埋蔵文化財発掘調査をまとめた報告書であります。

本年度は10ヶ年計画の8年目にあたり、整備の終盤に入ったことから調査面積や石垣の解体修復による石材調査も減少傾向にあります。しかしながら、出土品などから得られた成果は、文献や絵図など資料の残りが少なく不明なことが多い甲府城跡にとって、その姿を鮮明にする貴重な情報となっております。

発掘調査では今年度も注目すべき遺構・遺物が多く発見されました。本丸では金箔瓦が出土し、数寄屋曲輪では、直径37cmを測る浅野家家紋「違い鷹の羽」の大型円形瓦が出土し、分析の結果金箔瓦であったことが判明しました。鉄門では、築城期の所産と考えられる階段が検出され、稲荷曲輪では全国で初めての調査事例となる煙硝蔵が調査され、当時の火薬保管施設の解明に大きく貢献いたしました。

また、各調査地点の石垣や石切場からは魚や鳥の絵及び☆・井桁などの線刻画と呼んでいる記号が確認され、全国の城郭の中でも極めて特徴的な事例であることがわかりました。

さらに、本年度第4回の甲府城跡調査検討委員会では、若松城・二本松城・掛川城・松本城・金沢城の調査・整備関係者の方を招いて、主に建物復元と景観をテーマに発表いただき、議論を深めることができました。

末筆ながら、本年度の調査にご指導、ご助言いただきました調査検討委員会の先生方をはじめ、山梨県土木部都市計画課・甲府土木事務所・文化財保存計画協会、ご協力いただいた工事関係者・周辺住民の方々・資料提供者・調査参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

1998年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所 長 大 塚 初 重

# 例 言

1. 本書は1997年度に実施した山梨県指定史跡甲府城跡の整備事業に伴う発掘調査及び石垣改修工事の概要をまとめたものである。
2. 発掘調査は、山梨県土木部から山梨県教育委員会が委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 整備事業は甲府土木事務所都市整備課が担当し、石垣についての設計管理等は株式会社文化財保存計画協会が、建造物については文化財建造物技術協会が受託した。
4. 本城には、甲斐府中城・錦城・赤石城・舞鶴城の別称があるが、本書では史跡の指定名称である甲府城跡を採用した。なお、都市公園としての名称は舞鶴城公園である。
5. 本年度の調査では、次の方々に貴重なご助言を賜った。記して感謝申し上げたい。  
深沢徳明・吉村稔・今泉俊文・上野晴朗・宮島秀夫・田中哲雄・服部英雄・加藤充彦・中村博司・大津透・松尾法博・森島康男・木戸雅寿・土山公仁・塚田順正・大島慎一・鈴木稔・樋口吉文・増淵徹・岡田保造・李 映福・五味盛重（順不同、敬称略）
6. 本年度の調査では、次の方々及び機関にご協力いただいた。記して感謝申し上げたい。  
宮城県仙台市教育委員会・福島県会津若松市教育委員会・福島県二本松市教育委員会・群馬県太田市教育委員会・長野県松本市教育委員会・松本城管理事務所・静岡県掛川市教育委員会・石川県立埋蔵文化財センター・財団法人愛知県埋蔵文化財センター・滋賀県教育委員会・福岡県福岡市教育委員会・佐賀県教育委員会・佐賀県立名護屋城博物館・大分県大分市教育委員会・宮崎県延岡市教育委員会・財団法人帝京大学山梨文化財研究所・山梨県土木部都市整備課・甲府土木事務所・山梨県立青少年科学センター・甲府市教育委員会・株式会社文化財保存計画協会・株式会社甲斐コーポレーション・斎藤建設株式会社・大同建設株式会社・藤造園株式会社・誠建設株式会社・望月組土木株式会社・吉沢建設株式会社・パリノ サーヴェイ株式会社・共立緑地・金井農場（順不同）
7. 本書の作成にあたり、次の方々に貴重な資料を提供、また、参考にさせていただいた。記して感謝の意を表したい。  
大和郡山城史跡柳沢文庫保存会・坂田邦夫・露木弘光（順不同、敬称略）
8. 本年度の調査に伴い、委託した事業及び委託先は次のとおりである。  
石垣写真実測：株式会社パスコ  
光波測量機システム：有限会社東雲測量  
瓦保存処理：財団法人帝京大学山梨文化財研究所
9. 本年度の調査担当者及び参加者は次のとおりである。  
調査担当者 八巻與志夫・深沢容子・宮里学  
調査員 弦間千鶴・大木丈夫  
整理員 柏木まつ江  
調査作業員 村田勝利・森下豊・井戸明・神沢正孝・沓間義久・久保建司・小池智美・越石力・小林早苗・柴田昭二・清水重雄・志村悟・末木義光・須賀富雄・田中めぐみ・長坂 清・中村隆一・羽中田弘・深澤太郎・降矢哲男・保坂甲次・保坂太美保・保坂睦・宮坂晴幸・森本通久・守屋敏子・渡邊数馬・渡邊旭光（順不同、敬称略）
10. 本年度の石垣修復工事に従事した方々は次のとおりである。  
宮島秀夫・由良 匠・福重幸治・関口 忠・金沢政憲・松本政幸
11. 本報告書にかかわる出土品及び記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
12. 本報告書の作成は山梨県埋蔵文化財センターの八巻與志夫・深沢容子・宮里学及び大木丈夫が行った。また、八巻（統括）、深沢（第1章1・2・3節、2章4節、第4章1節）、宮里（第1章5節、第2章4節・5節、第4章2節、第5章）、大木（第1章4節、第2章1・2・3・5節、第3章、第4章2節）で分筆した。



# 目 次

## 第1章 調査経過

|                      |    |
|----------------------|----|
| 第1節 本年度までの経過 .....   | 1  |
| 第2節 調査検討委員会の経過 ..... | 3  |
| 第3節 地理的環境 .....      | 10 |
| 第4節 歴史的環境 .....      | 11 |
| 第5節 調査方法 .....       | 13 |

## 第2章 発掘調査

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 第1節 本丸 .....             | 14 |
| 第2節 鉄門 .....             | 18 |
| 第3節 天守曲輪 .....           | 19 |
| 第4節 稻荷曲輪・煙硝蔵 .....       | 20 |
| 第5節 数寄屋勝手門周辺・数寄屋曲輪 ..... | 25 |
| 第6節 中の門 .....            | 29 |

## 第3章 石材調査

|                 |    |
|-----------------|----|
| 第1節 調査概用 .....  | 30 |
| 第2節 石材調査表 ..... | 36 |

## 第4章 出土遺物

|                      |    |
|----------------------|----|
| 第1節 瓦 .....          | 41 |
| 第2節 石造物・その他の遺物 ..... | 46 |

|                   |    |
|-------------------|----|
| 第5章 線刻画・点刻画 ..... | 53 |
|-------------------|----|

# 第1章 調査経過

## 第1節 本年度までの経過

甲府城跡は、県内唯一の本格的近世城郭跡として知られ、また一方では、緑豊かな舞鶴城公園として県民の憩いの場となっている。

甲府城は、16世紀末の天正～慶長期に豊臣秀吉配下の大名によって築かれ、慶長5年（1600）関ヶ原の戦い以後は徳川家の支配下に入った。歴代の甲府城主には有力大名や豊臣・徳川一族が名を連ねており、両政権とも甲斐を要の地として重んじたことがうかがえる。享保9年（1724）以降は幕領となり、明治維新を迎える。明治6年（1873）の廃城令以後は、急激な近代化の波にさらされ、鉄道や道路の敷設、県庁舎の建設、民間への払い下げなどにより、城域はみるみるせばめられていった。

その後も、第2次世界大戦、戦後復興期と甲府城はほとんどかえりみられることがなかったが、昭和40年代に入り、ようやく保存の声があがるようになった。昭和42年（1967）、県文化財調査委員会において、早急に史跡指定を行うこと、それに先立つ総合学術調査を実施することなどが決定され、翌43年には県指定史跡として公示された。甲府城跡の保存・整備にむけて大きな第一歩が踏み出されたのである。

昭和60年代に入って再び大きな動きがあった。甲府城跡の石垣は、大阪城や安土城と同じく、自然石や粗割石を使った「穴太積み」と呼ばれる技法で積まれたもので、城の建物が失われている今日にあっては、往時を物語る貴重な文化財である。その石垣も、近年傷みが激しくなり、また、近代以降の修復部分が史跡としての景観を損なわせているとの指摘もされるようになった。折から、昭和61年の国体開催に伴う甲府駅周辺の整備事業計画が、山梨県土木部によってすすめられており、老朽化が著しい舞鶴城公園の再整備も検討されることになった。昭和62年「舞鶴城公園整備検討委員会」が設置され、3年間にわたって整備方針が検討された。その結果史跡保存を第一とすること、電気の配線・排水等の埋設物は最低限に止めること、建造物については、長期的な視野をもって適切な措置をとること、などが決定された。石垣については、専門の研究者の助言を基に、詳細な修復工事計画が立案された。こうした整備方針のもと、平成2年度より、石垣の修復工事を中心とした「舞鶴城公園整備事業」が開始され、それに先駆けて山梨県埋蔵文化財センターによる甲府城跡の発掘調査が始まった。

発掘調査の主な目的は、整備事業によって影響を受ける範囲の遺構及び遺物の記録保存と、すでに消滅した穴太積みの技法の解明である。具体的な調査内容は、解体修復工事の対象となった石垣周辺の発掘、石垣を構成する石材の法量記録、解体される石垣の実測図作成、石垣背後の裏栗石や盛土の記録保存である。

初年度の調査で人質曲輪から出土した金箔瓦は、甲府城が豊臣秀吉の意志によって築かれたことを示すものとして注目を集めた。それ以降も、桐紋（豊臣家の家紋）の飾り瓦や鯨瓦、鬼瓦など多くの金箔瓦が、城内の各曲輪から出土し、豊臣時代には、これらを用いた壮麗な建物が存在していたことが明らかとなった。

石垣解体の際の調査によって、穴太積みの技法の解明も進んだ。自然石や粗割石を多用するために詰め石が必要となること、石垣の勾配は、高さより上部に建てられる施設の重量を勘案して決定されること、裏栗石より裏盛土が石垣の強度に大きな影響を与えること、暗渠や水路などの水対策は、栗石層ではなく、地山と盛土の境へ水が浸透するのを避けるためであること、などが明らかとなった。

整備事業開始から8年目となる今年度は、本丸北腰石垣、稲荷曲輪南腰石垣及び高石垣の一部、数寄屋勝手門西の腰石垣の改修と、稲荷曲輪北腰石垣、鉄門階段、天守曲輪腰石垣、中の門階段の施工が行われた。それに伴い、本丸、鉄門階段、天守曲輪東、中の門周辺、稲荷曲輪北及び西、稲荷曲輪南（県立青少年科学センター南）数寄屋勝手門周辺の発掘調査を実施した。鯨瓦などの金箔瓦や大型の円形飾瓦の出土、地鎮祭の痕跡と思われる遺構や遺物の検出、築城期の石段や腰石垣の内側に積まれた裏石垣の検出、廃棄された石や石垣に描かれた星型や魚などの線刻画の発見、そして全国的にも例の少ない煙硝蔵の検出など、今年度も多くの注目すべき成果をあげることができた。

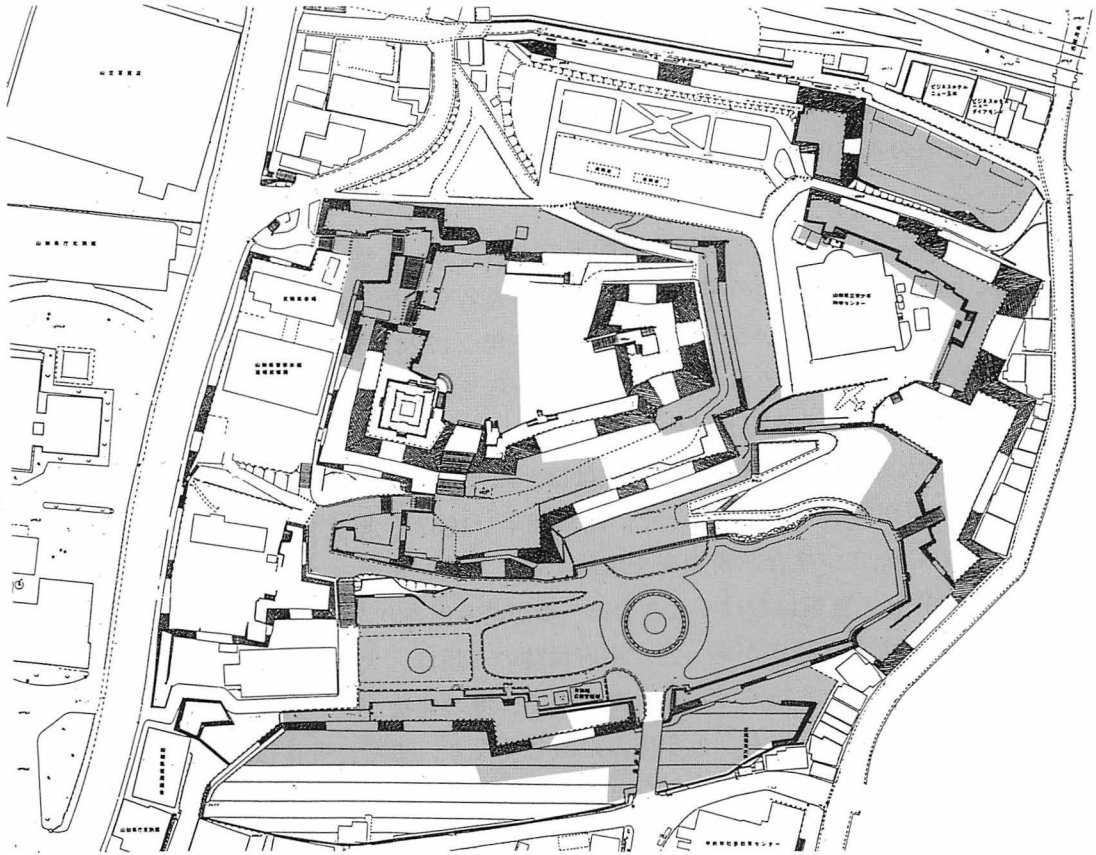


図1 平成9年度以前調査終了地点

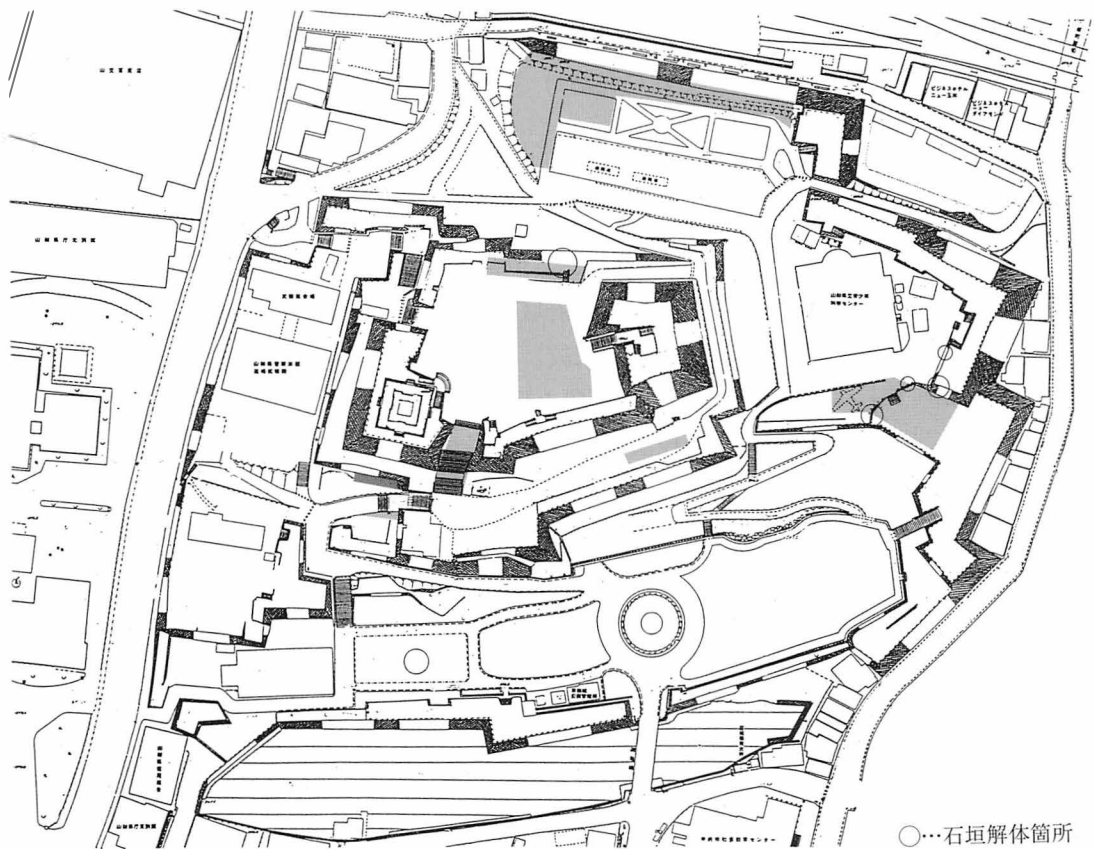


図2 本年度調査地点

## 第2節 調査検討委員会の経過

甲府城跡発掘調査検討委員会は、山梨県指定史跡甲府城跡の石垣修復工事に伴う発掘調査にあたり、関連分野から調査経過を検討し、整備に活かすことを目的に設けられた。本年度は以下の構成で4回の委員会を開催した。

|      |        |                      |           |                           |
|------|--------|----------------------|-----------|---------------------------|
| 委員   | 安達 満   | 山梨県郷土研究会理事           | 小林 巖      | 山梨県甲府土木事務所都市整備課長          |
|      | 磯貝 正義  | 山梨大学名誉教授             | 志村 武男     | 山梨県甲府土木事務所都市整備課公園担当       |
|      | 北垣 聡一郎 | 奈良県立橿原考古学研究所研究員・文学博士 | 小沢 知己     | 山梨県甲府土木事務所都市整備課公園担当       |
|      | 佐藤 八郎  | 山梨県史編纂委員             | 川上 敏郎     | 株式会社文化財保存計画協会             |
|      | 十菱 駿武  | 山梨学院大学一般教養部教授        | 小池 光夫     | 山梨県教育委員会学術文化財課長           |
|      | 関口 欣也  | 横浜国立大学工学部教授・工学博士     | 小野 正文     | 山梨県教育委員会学術文化財課文化財担当       |
|      | 田畑 貞寿  | 千葉大学名誉教授・工学博士        | 出月 洋文     | 山梨県教育委員会学術文化財課文化財担当       |
|      | 谷口 一夫  | 山梨県文化財保護審議会委員        | 森原 明廣     | 山梨県教育委員会学術文化財課文化財担当       |
|      | 野沢 昌康  | 山梨県文化財保護審議会委員        | 事務局 大塚 初重 | 山梨県埋蔵文化財センター所長            |
|      | 萩原 三雄  | 帝京大学山梨文化財研究所研究部長     | 森 和敏      | 山梨県埋蔵文化財センター・指導幹・調査研究第1課長 |
| 事業主体 | 服部 英雄  | 九州大学助教授              | 八巻 與志夫    | 山梨県埋蔵文化財センター調査研究第1課第2担当   |
|      | 樋口 宙輝  | 山梨県土木部都市計画課長         | 深沢 容子     | 山梨県埋蔵文化財センター調査研究第1課第2担当   |
|      | 川口 喜久  | 山梨県土木部都市計画課技術指導監     | 宮里 学      | 山梨県埋蔵文化財センター調査研究第1課第2担当   |
|      | 吉岡 重文  | 山梨県土木部都市計画課課長補佐      |           |                           |
|      | 三井 時男  | 山梨県土木部都市計画課課長補佐      |           |                           |
|      | 酒井 秀視  | 山梨県土木部都市計画課都市公園担当    |           |                           |
|      | 佐藤 昭夫  | 山梨県土木部都市計画課都市公園担当    |           |                           |
|      | 野口 努   | 山梨県土木部都市計画課都市公園担当    |           |                           |

4回の委員会の議事内容を以下に記す。委員の発言は「・」、事業主体側の発言は「△」、事務局の対応は「\*」、中村氏の発言は「:」で表す。なお、議事内容については毎回の委員会で前回の議事録として承認を得たものである。

### 平成9年度第1回調査検討委員会議事録

日時 平成9年7月16日 午後1時30分～5時

場所 舞鶴城公園管理事務所

#### 今年度の調査計画について

- ・国の史跡では、石積みの歴史性、価値が問われるので、従来から石工さんとも話し合いをしてきたが、十分満足できるという感じはなかなか得られていない。今後報告書の中で、委員会でのいろいろな委員からの意見をしっかり出していただきたい。今後各地で修復、復元というような例があるはずなので、学術調査の報告書を刊行すべきだ。
- \*報告書の中で、委員会の議事録は出させていたが、先生方のご意見をできるだけ正確に、ご承認いただいたことはそのまま載せている。現場と委員会では確かに議論がかみ合わない部分もあるが、記録は公にしている。
- ・委員会の話をすべてストレートに出す必要はない。その中から取捨選択して、委員会としての見解、基本的な考え方に基いて進めていった結果、こういう状況が現場サイドでは出てくる。このあたりを最終的に確認していただけたらいいのではないかと。

#### 調査の中間報告について

本丸の調査（裏石垣について）

- ・いつの時代のものか
- \*暗渠の袖石を入れた後、裏側の石垣を積み、それから表の石垣を積んだと解釈できる。裏石垣と表の石垣との間には時間差はわずかしかない（数ヶ月とか）。同じ工事の中での仕事と考えられる。
- ・「裏石垣」は果たして石垣なのか。工事のための何らかの暫定的な仮の施設であれば、石垣の概念にはいるものなのか。
- ・裏石垣が出なかったところはあるのか。
- \*裏石垣の存在に気づき始めたのは調査3年目からである。現在のところ天守曲輪から本丸で確認されており、堀側（南側）では確認されていない。
- ・石の面の大きさはどれくらいか。
- \*20～30cmの人頭大の石を、縦、横、適当に使っている。面はあわせてある。
- ・裏込めの意味合いと、大きな石で壁状のものを造っているという二つの考え方が出てくるのではないか。
- \*裏グリを押さえるために一時的に積んだという認識である。
- ・時代は新しいが、大阪城で表の石積みを補強するために、裏側にも石積みをしていた。
- ・2ヶ所の石積みはつながっていたのではないか。
- \*解体したところ、間に石積みは検出されなかった。
- ・裏石垣の裏はどうなっているか。
- \*表の石垣の裏にグリがあり、そこから2mほどのところに裏石垣があり、またグリがある。曲輪側の大きな石垣を解体したところ裏の石垣が出てきた。昨年度調査した稲荷櫓台では、芯が粘土でそれに石垣を張りつけてあった。裏石垣らしいものはあったが、1m弱であった。
- ・肥前名護屋城では、古い石積みが下にあって表側に新しい石積みがある。これは拡張したためにおこったことで、甲府城の場合は構造的な問題である。稲荷曲輪も再検討の必要がある。甲府城全体にこのような構造物があった可能性もあるのではないか。
- ・石垣の築城技術の問題であろう。用いられている場所をおさえておく必要がある。場所ごとに、石垣の地盤、形態、造る場所の性格などをおさえながら、裏の状況を分析してみる必要もある。同じ時期に造りながらも、単一的に造っているのではない。考えてその時々状況に応じて、造っているように感じる。
- \*裏石垣は暫定的な石垣で、完成時には大きな石材を用いた本格的な石垣が表側にできることを想定して、一時的に裏グリを押さえるために積んだものではないかと考えている。どのような場所かという点に関しては部分的にしか確認していないが、本丸および天守曲輪という、ごく限られた、初期に造られた曲輪でみられる技術ではないかと考えている。
- ・「裏石垣」という呼称について、石積みと石垣の違いなどまだまだ流動的な部分があるが、それぞれの持つ意味を整理した上で使い方を統一したほうがよい。

#### 鉄門の調査

- ・鉄門の造られた時期はいつか。築城期にはあったのか。
- \*あったと思われる。鉄門周辺からは金箔瓦および鯨瓦、浅野の家紋瓦等がでているので、少なくとも慶長5年までの時期には完成していたと（発掘調査の結果からは）考えられる。それが火災等で何回か建て直されていることも間違いはない。史料のほうも、慶長5年の段階で堀もめぐり、堀、櫓も立ち上がっているという記録があるので、その時には鉄門もできあがっていたと考えられる。
- ・石垣裏盛土の調査のところで、地山と盛土の間に浅野時代の瓦が集中して出ていて石段周辺も同様だということだが、両方とも浅野時代の瓦だけで他の混入はないのか。
- \*我々が浅野時代と認定している軒丸瓦、軒平瓦が出ていいる。
- ・裏込石の代用に使うために浅野時代の瓦を何年もとっておくとは考えにくい。新しい瓦も出ているのであれば不自然ではないが、どういう現象で同じ時代の瓦だけなのか。
- \*本丸でも同様の現象が起きている。金箔瓦、鯨瓦を含む浅野時代の瓦が集中して廃棄されている。
- ・鉄門が造られた慶長5年頃に本丸も改装しているということか。
- \*そう考えられる。火災の痕跡は全くない。このような現象が、本丸、鉄門、そして人質曲輪でおこっている。



・本丸以外の曲輪ではみられないのか。

\*稲荷曲輪、鍛冶曲輪、天守曲輪などの調査では認められない。本丸周辺のみにもみられる。

#### 数寄屋曲輪の調査

・浸透水を受けていくような形の暗渠は他にもあるのか。

\*稲荷曲輪門の石垣のところに同様のものがある。水の集まりそうなところに暗渠を設け、水を外に抜いたと考えられる。

#### 今年度の整備事業及び現状について

・北側の市道の部分は、県が甲府市を指導してきちんと調査する必要がある。

・床屋東側の間地積みの部分については、いきなり穴太積みで復元すると、本来がそういう形であったかのような誤解が生じるので、切った構造にするか、そのまま露出しておくなどの方法で対応したほうがよい。

\*堀の石垣を復元した際のように、本物とは違うことが分かるようにするためと、安全性とを考慮してコンクリートを入れて固める方法もある。

・身延線ホーム跡地の整備の中身はどうなっているか。

\*現車道を6m確保して、市が駐輪場を、県が公園、遊歩道をそれぞれ計画している。

#### ホテルの増築について

・発掘調査は行ったのか。

\*甲府市で試掘調査を行った結果、具体的な遺構が発見されなかった経過がある。法的に規制外の状況である。景観の面からも、県景観条例に基づき時間をかけて検討されたが、計画の変更は無理という結論で終わっている。

・莫大なお金をかけて甲府城内部の整備をしているそのすぐわきで、このような建築が許されていることは大きな問題である。県指定の範囲というのは、あくまでも便宜的なものである。ホテルのところは非常に重要な場所であり、試掘だけではなく全面調査が行われてしかるべきである。北側でも同じような問題が続々と起こり始めており、このままでは、県、市の教育委員会は整合性がとれず自己矛盾を引き起こす恐れがある。甲府城全体をどのようにしていくのか、県、市を含めてしっかりとした基準を設ける必要がある。

#### 文献調査について

\*東城浅野家文書の調査では、直接甲府城に関わる史料は発見できなかった。今後は重臣より下のクラスの家臣や、外側の史料にもあたっていききたい。8月末まで調査を続け、9月にはまとめにはいる予定である。

#### 県都市整備課より

##### 建物の復元について

△事業計画の中には歴史的建物の復元として、五門一櫓の復元が含まれている。しかし、当初3000㎡の石垣の修復が6600㎡に膨らんでいるため、事業費を圧迫しており、建物の復元は三門程度（四つ足門を含む）に規模を縮小せざるを得ない状況である。

##### 資料館について

△現在の青少年科学センターの建物を資料館として再利用するという案はいかがか。

\*埋文センターとしては、近い将来現在の現場事務所を移動しなければならないので暫定的に科学センターの建物を使わせていただきたい。

・科学センターの建物は解体したほうがよい。今しか壊す機会はない。

・資料館の構造をどのようにするかは、慎重に検討する必要がある。

・改修面積が3000㎡から6600㎡に大幅に増えたことは、行政上の一つの成果ではあるが、個々の石積みに関してはもっと検討していく必要がある。第2次計画という話も出てきているので、これからはさらに質の高いものができるように原点に戻って考えていただきたい。

##### 内松陰門復元図について

・復元予定図の根拠は何か。

\*享保9年甲府城絵図（坂田家所蔵）に姿図がある。また、現場の調査で礎石の跡四つと袖塀の礎石一つを確認しているので、これらのデータを参考にしている。

##### 本丸トイレ設置について

△銅門下にトイレの設置を予定していたが、景観の面や根入れ等の理由から本丸の北西に変更した。御承認いただきたい。

県学術文化財課より

甲府駅北口再開発にともなう問題について

甲府市の試掘調査によりJR中央線北側で、山手門周辺の内堀に面した石垣が発見された。本来、県指定史跡甲府城と一体であるため、さらに詳細なデータを取りながら都市計画に反映させていくという認識で進めていきたい。現在の整備事業は、昭和43年の総合調査に基づくものだが、この7～8年来の調査により様々な課題が生じてきている。また、隣接地から考古学上の情報も数多く出てきている。これらを、都市計画にいかに関与させていくかについては、文化財のみではなく、いろいろな方面と連携して考えていかなくてはならない。ぜひ外側からの御支援もいただきたい。

・城にとって極めて重要な「山の手門」が出てきそうということであれば、追加指定をも含めて保存を考えなくてはならない。現状の県指定史跡指定範囲の中だけ整備すればよいのではない。甲府城全体の管理計画書を作成し、甲府城の範囲をどのように認識していくのか、早急に確認していく必要がある。また、甲府市の都市計画担当にも出席していただき、相互に合同で甲府城の全体像を把握し検討する会を設けるべきである。

### 平成9年度第2回調査検討委員会議事録

日時 平成9年11月13日 午後1時30分～4時30分

場所 舞鶴城公園管理事務所

#### 調査の中間報告

##### 数寄屋曲輪の調査

・勝手門周辺から獣骨がでたというが、何の骨かわかったのか。

\*現在専門の方にみていただいているが、まだ結果が出ていない。だいぶ風化が進んでいるが獣骨であることは間違いない。大きさは、片手にのるくらいである。

甲府城出土の金箔瓦について 大阪城天守閣副館長 中村博司氏

##### 金箔瓦について

：甲府城からは、城郭の屋根を飾っていた全ての種類の瓦（鯨瓦、鬼瓦、鳥伏間、軒丸、軒平瓦、丸瓦、平瓦）が出ていますので、それらを使った建物が存在したことは間違いありません。その中で金箔瓦は、大坂城では軒丸、軒平瓦も金箔ですが、甲府城の場合現在までのところ棟の先を飾る鯨瓦、鬼瓦だけにしか、見つからないので、いわゆる「棟飾り瓦」だけに金箔瓦を使ったのではないかと思われれます。中でも注目されるのは、桐紋の鬼瓦（五―三の桐、五―七の桐）で、豊臣一門の居城として築かれたことを物語っています。秀吉の居城である大坂城、聚楽第、伏見城では、桐紋とともに菊紋の飾り瓦が出ていますが、甲府城では今のところ菊紋の瓦は出ていない、それも一つの特徴といえます。金箔瓦は、織田信長の安土城からはじまって、秀吉の時代に全盛期を迎え、徳川初期にその役目を終えますが、全国で現在のところ45ヶ所ほど出土が確認されています。その中で城郭に使われた例は25ほどあり、そのほとんどは豊臣時代に造られた城です。秀吉の一門の城、あるいは、秀吉配下の有力大名が地方に派遣されて築いた城郭に、金箔瓦が使用されていたようです。特に甲信地方や静岡の城郭（甲府城、上田城、小諸城、松本城、駿府城）からの出土例については、天正18年に徳川家康が関東へ遷ったあとに秀吉が徳川氏牽制の目的で豊臣系の有力大名を配置したこととあわせてであると考えられます。

##### 円形大型飾り瓦について

：今回報告された大型飾り瓦には、浅野家の家紋である“違い鷹羽紋”を据えてありますが、この種の飾り瓦に家紋を据える例は、他の城郭でも出土例があり、その大半は甲府城と同じく城主の家紋を入れたものです。従って、甲府城出土の瓦も文禄4年の浅野長政就封に際してに作られ、同じ使い方がされていたものと思われれます。

使われた場所は、大棟の側面と破風板の部分とが考えられます。ただ、現存の城郭建築にそういう使い方が

みられる例がほとんどありません。むしろ、絵画史料や発掘調査の結果から、櫓建築よりも御殿風の建物に使われた可能性が高いと考えられます。ですから、甲府城の円形飾り瓦も、本丸ないしは数寄屋曲輪にあったと思われる御殿風建物に使用されていたものではないかと考えられます。

#### 甲府城の瓦の全体的評価について

：豊臣秀勝、加藤光泰の行った築城の様子はわかりませんが、桐紋の瓦がでていることから、秀吉の意志が強く働いていたことは考えられます。また、浅野家の違い鷹の羽紋が、飾り瓦だけでなく軒丸瓦にも見られることから、浅野の行った築城工事は本格的なもので、相当完成度の高いところまでいったのではないかと感じます。

・金箔瓦が出ている城郭の中で、甲府城はどのような位置づけになるのか

：秀吉の居城である大坂城、聚楽第、伏見城は、金箔瓦の種類、出土量ともに他を圧倒しています。甲府城は、会津若松城（蒲生氏郷）、岡山城（宇喜多秀家）などの城郭と同一ランクかと思います。九州では秀吉による島津氏平定後、関東・甲信地方でも秀吉の小田原攻めの後、金箔瓦を葺く城がでてくるようです。甲府城もその一環として理解することができます。また、釘穴を持つ円形ないし方形の飾り瓦は織豊期にでてきたものですが、甲府城で出土したものが仮に棟の側面を飾るものであるとすると、相当大きな建物でなければ使用できないことは間違いありません。

\*この瓦は築城期とほぼ同じ技法で積まれた石垣の根石の下から出てきている。慶長5年、関ヶ原の戦いの直後、甲府城主が浅野から徳川に替わる。当然縄張り変更が行われ、その際、壊された瓦が直された石垣の根石の下に入り込んだ、と現場では判断している。

・他の場所からは出ていないのか。

\*出ていない。

#### 鯨瓦について

：推定で高さ約150cmほどの鯨と思われる。建物の高さとの高さはおおむね比例するので、150cmの鯨をのせた建物は相当高層のものになるのではないかと考えます。徳川時代の大阪城の天守閣は、天守台の石垣も含めて約58m、鯨の高さ7尺（2m以上）です。また、甲府城出土のこの瓦は、下半分（胴の部分）と上半分の2つに分けて焼きあげているのでそういう技術的な面からみても大きなものといえます。

・先ほどの計算（58mの天守に2mの鯨）でいくと43mになる。とすると三層以上か。

：宮上茂隆先生が復元された豊臣時代の太田城天守の高さが、天守台の石垣を含めて約39mです。

#### 文献調査について

\*現在61点の絵図を確認している。個々の記載内容を検討しながら現在系統図を作成中である。新しいものもいくつか見つかったので、江戸中期頃の甲府城の建物の様子がかなり明かになるのではないかと考えている。また、広島府の東城浅野家の文書には、直接甲府城築城に関わるものはなかった。

・文書のなかに「城」の文字がいくつかみえるが、甲府城をさすのではないのか。

\*「紀伊守幸長」とあるので、慶長6年以降のものだと解釈できる。

#### 北垣先生現場指示事項について

・石垣について

\*問題点は、石材の使用の方法と、石垣の隅をどう積むかの二つだと思われる。石材については、現在新補材として使用している石は、昔と違って山の奥のほうから切り出しているもので、風化が進んでいない比較的扁平なものになってしまう。石切り場は法律で決められているので、やむをえない状況である。隅石をハギ積みにするかしないかについては、技術的な問題もあり、また、旧材が使えなかった場合、新しい石材を入れるとどうしてもそれに近い状態になってしまう。今回、青少年科学センター裏の腰石垣については、隅石はなるべく旧材を生かすようにしているので、その部分では満足していただけたのではないかと。

#### 文化財保存計画協会 川上氏より

・天正・文禄年間に、天守台のように石垣を高く積む場合には、自然石を使うので、勾配が緩いため2番あわせにせざるをえないのだが、腰石垣は勾配が急なのでどうしても1番あわせという形になる。石工さんたちにも、考えていろいろと直していただいているのでご了解いただきたい。裏栗石については、甲府城の場合

は、現実には玉石のほうが少なく、角礫が使われていることのほうが多い。再利用が少ないのでこのように指摘されたのだと思うが、新しい石材でもできるだけ同じ形のものを使うようにしている。石段については、従来通りに再現すると一般の方が昇れなくなってしまう。残りのいいものはできるだけ復元しているが、それ以外や、鍛冶曲輪から中の門、鉄門へのルートのように、一般の利用者が多いと予想される場所では、利用形態を考えた石使いをさせていただいている。

#### 整備事業の進捗状況と今後の事業箇所

- ・管理事務所北の井戸はどういうものか。
- \* 明治9年に葡萄酒醸造試験場が造られたが、その時に使ったものと思われる。井戸だけを復元しているが、おそらく山梨県で最初に葡萄酒を絞った場所で、一説によると日本で一番古いとも言われている。
- ・甲府城の東の通りの民家が撤去されているようだが、どういう予定になっているか。
- \* 整備計画に合わせて現在交渉中である。24軒中半数は契約を終えているが、平成11年度までには建物は全てなくす予定である。

#### 出土した瓦の取扱いについて

- \* 現在までの調査で出土した瓦は、300tを越える膨大な量である。その中で、特別な瓦、時代を特徴づける瓦については、きちんと記録し保存しているが、それ以外の瓦は野積み状態である。その瓦を有効に活用する方法として、側溝に敷き並べるといった案はいかがか。もう一点は、将来的に全ての瓦を永久保存することは不可能と思われるので、パターン化されたものは、サンプルのみでよいのではないかという考えも含めながら検討していきたいと考えている。ご意見をうかがいたい。
- \* 本年度文化庁より「遺物の保存、活用について」という通達があった。遺物を活用できるものとできないものとの分け、その基準については各都道府県でつくり、活用の見込みのない物は廃棄してもよい、という内容である。非常に難しい問題だが、将来的には考えていかななくてはならないであろう。

#### 学術文化財課より

文化庁通達の背景には、地方への権限委任という流れの中で、出土品を地方で責任をもって管理せよという考え方がある。県では平成10年度をめどに基準作りを進めている。実際は国から県へ権限がおりてきてはじめて動きだせるわけだが、遺物の量が膨大であるという現状をふまえ、急ぎ検討し方針を出していくつもりである。この場でのご意見も基準作りに組み込んでいきたいと考えている。

- ・出土した瓦はどういう整理がされているのか。
- \* 出土した時点で一点一点調べ、丸瓦、平瓦、文様のあるもの、文字のあるもの、というように分けていく。何かあるものについては全て位置を測量し、それ以外は土嚢袋に入れて調査区ごと（曲輪ごと）に山積みしている。その際、袋の数を数え、〇〇曲輪から、丸瓦が〇袋、平瓦が〇袋というように記録している。この土嚢袋に入れたものをどうしたらよいかというのが問題である。
- ・時代ごとには分けられないのか。というのは、慶長期の瓦がどれだけあったかということが、一つの考える材料になるのではないか。
- \* 慶長期の瓦については別扱いをしている。18世紀以降の瓦をどうするかということである。
- ・ある県では土器を埋めてしまったということがあった。どういうものを残すかはよほど慎重にしなければならない。
- \* 土器は一つ一つ手作りであるが、瓦は規格品である。サンプルを残しておけばよいのではないか。「この時代にはこういう瓦を使い、総量はこれだけ」という形までが限界かと現場サイドでは感じている。
- ・日本考古学協会として、文化庁の通達を検討しているが、自然遺物的な土壌サンプルや貝などの場合には廃棄もありうるが、人工遺物である製品については基本的には遺物として把握すべきであるとして、文化庁の見解には批判的である。近世の瓦についても、規格品であっても人工遺物としての一定のクセがあり、また破碎の方法などの研究もあるので、今の段階で処分すべきではない。
- ・城内の公園部分の地中に、将来いつでも掘り出せる状態で埋めておいたらどうか。
- \* この件に関しては、改めて検討する機会を持ちたいと思う。

### 平成9年度第3回調査検討委員会議事録

日時 平成10年2月27日 午後1時30分～4時30分

場所 恩賜林記念会館2階小会議室

#### 稲荷曲輪の煙硝蔵視察終了後の質疑応答

- ・櫓復元については、横須賀城では外側から見ては三重であり、内側は四重構造であるから、絵図面で判断するのではなく、古文書から判断する方が良い。また、和歌山城では外側からと内側からの史料にもいろいろあり、検討が必要である。狭間の高さも、弓と鉄砲とでは高さも違うし、大きさも外側と内側では違いがあって良いはずである。姫路城などを参考にしてほしい。
- ・籠城を考えた場合、甲府城では、5間、25間（約10m, 50m）の米蔵が2棟ある。
- \* 甲府城の場合、本丸櫓は腰石垣にのっていたので、3階の場合と2階の絵図もある。
- ・佐倉城も腰石垣に少しだけのっている。
- ・数寄屋櫓台は平らなので、二重櫓であり、付櫓はないはずである。
- \* 露木家の絵図を参考に、鍛冶曲輪の塀は造った。
- ・土橋の前の山の手門に違いの虎口があったのではないかな。
- \* 柳沢時代の改修により、違いを直した。
- ・柳御門南側は、浅野家絵図では土手になっているが。
- \* 慶長5年（1600）以降の縄張図ではないか。
- ・塀の施工状況はどうなっているのか。
- \* 外周は漆喰塀、または土塀とし、内側は木柵とする予定である。
- ・整備全体について、漆喰塀の総延長はどのくらいか。又、今年度事業か。
- \* 正確な数値は算出して、来年度に報告します。
- ・赤穂城で復元した門の両脇の塀は、古写真が残っており、鉄砲狭間と弓狭間の高さを違えている。射撃の姿勢などの違いだと思うが、検討する必要があるのではないかな。
- \* 既に造ってある塀は困難であるが、今後他の城で指定になっている塀を調べつつ、検討し、設計の変更が可能であれば直していく。

#### 出土瓦について

- \* 文化庁の出土品の取り扱いについては、選別することにより、残りは廃棄するとしている。埋文では平成10年度をメドに委員会を設置する検討を始めている。
- ・文化庁は捨てるのも良いとっているのか。
- \* 廃棄もあるとしている。
- ・甲府城の瓦は収蔵することを考えるべきだ。
- \* 雨落としや石割の水路に使いたかった。出土瓦は土のう袋に丸瓦、平瓦等記し、また編年による時代区分がされ、それぞれ収納している。
- ・瓦は復元して使えるのか。
- \* 使えるものではない。
- ・城内の石碑は、それぞれ何処に移転したのか。
- △ 雨宮鈍斎や笹子隧道記念碑などそれぞれの関連する施設や場所、および関係者の方々にお引き取りいただいている。

### 平成9年度第4回調査検討委員会議事録

日時 平成10年3月22日 午後1時～5時30分

場所 恩賜林記念会館2階小会議室（なお、第4回の発表者の発言は、\*とする。）

#### 二本松城に関して

- ・山城なのか。
- \* 平山城です。中世・近世に営まれた城で本丸の標高が346mあって、三の丸はこの100m下に位置しており、



会津領支城時代に造られたものです。

- ・大手門は300億かけるといったが。
- \*いいえ、駅北土地区画整備事業全体が300億です。

若松城について

- \*平成9年より干飯櫓・南走長屋の復元整備が始まっている。この他に濠・石垣・園路・便益施設の整備も行なっている。

特に櫓の復元にあたっては検討会を設置し進めているが、建築基準法の絡みでいくつかの課題がある。具体的には櫓の高さ、基礎、内部の階段（踏み台と角度など）、排煙と換気、耐震の問題で、これらを基準法の中でどう解決していくかが問題である。

また、復元をした文化財建造物などが倒壊した場合、国民の信頼を失うことになる。しかし、建物は本格的な木造復元なのに構造を維持するためとしても、櫓台石垣の内部をガッチリとしたコンクリートで作ろうとするとところもある。復元という意義についてどう考え、建設とどう合わせていくかが課題である。

松本城について

- \*太鼓門の復元にあたっては、文化庁から発掘調査による遺構（礎石）の確認、指図（絵図）および古写真が必要との3条件が示された。古写真は現在までに発見されていないが、礎石の確認と、発見された「起こし絵」（妻平図）が指図および写真相当と認められ、復元が可能になった。なお櫓門台石垣については、創建当初の姿で現存する巨石「玄蕃石」と門台石垣の完全な姿が判る明治30年頃撮影の古写真によって高さを算出し復元した。

掛川城について

- \*日本の建築学は明治以来コンクリート又は鉄骨を絶対視してきているが、現在ではコンクリートは完全な建築材料ではないことが指摘されてきている。文化庁は木造で復元すべきだというのが、それは困難である。経費もかかる上に実際、社寺においても木造は少ない。掛川城の木造天守の場合は、宮上茂隆氏の強い信念で建築基準法をクリアしたものである。甲府城も木造で復元をするならば、基準法をどうクリアするかその方法を考えるべきである。

白河城の木造天守復元の場合は、その根拠を嘉永の絵図とするが、復元された建物とは似ていない。また、この絵図による三階櫓は、高知城に似せて造ること、掛川城と同様に造ること、との指示があったものと宮上氏は指摘されている。しかし元来、城は縄張図に規定されて築かれるものである。依って高知城と掛川城の縄張は当然異なり、白河城のそれとも異なり建物の差異が生ずる。

金山城について

- \*整備は平成6年から26年頃まで3期にわたり断続的に実施する計画で、現在は第1期整備にあり、5期変遷石垣の露出展示及び大手虎口と日ノ池などの復元整備や便益施設の設置等を行なっている。
- 櫓の復元について、コンクリートは完全な建築材料ではないし、木造は費用が高いという問題がある。また、建築基準法での規制もあるが、掛川城のように物見塔としてクリアした事例もある。不特定多数の人々の利用があるだけに、建築基準法や消防法の絡みを考え、かつ白石城・白川城のように建築指導を受けながら櫓の高さを決め実施することが望ましい。

金沢城について

- ・鉛瓦で、全部が葺かれているのか。
- \*表面だけであり、薄く上にかぶせたものである。
- ・石川門入り口付近は、狭間はないが、後世に改変されたのか。
- \*戦火に会っていないが、古絵図はない。
- ・大坂城のような山里曲輪はあったのか。林などもあったのか。
- \*林などはなく、二の丸は江戸後期において建物が林立していた。

### 第3節 地理的環境

甲府城跡は、甲府盆地北縁部の愛宕山（標高428m）に隣接した小高い独立丘上に位置する。この独立丘は、鎌倉時代の初めに、甲斐源氏の一族、一条忠頼が居館を構えた地と伝えられ、一条小山とよばれていた。南に

盆地を一望できる独立した小山で、東西250m、南北200mほどの規模であったと推定される。基盤をなしているのは、安山岩や凝灰岩などの火山噴出物であるが、いずれも岩質が強固で安定した地盤を形成している。築城の基盤岩石として好条件であるとともに、石垣の石材としても適している。

一条小山周辺の主な河川は、相川、藤川、荒川である。相川は北部山地の帯那山（標高1347m）の南麓に発源し、扇状地を形成しながら盆地に流れ込んでいる。藤川は、愛宕山と一条小山の間を流れるが、流域が狭く水量も少なかったとみられ、甲府城の水源は相川と荒川とに求められていたようである。

一条小山の北方及び東方には、愛宕山、要害山（標高750m）、帯那山、湯村山（標高500m）などが連なり、天然の要塞をなしている。以上のように、一条小山の地理的環境は、築城に極めて好条件であったといえよう。

## 第4節 歴史的環境

甲府城跡は、一条小山と呼ばれる小山上に位置している。一条小山と呼ばれる理由は、平安時代末期この地に甲斐源氏の一条忠頼の館があったからといわれる。その一条忠頼は、元暦元年（1184）、源頼朝により鎌倉において謀殺されてしまう。同時に武田信義も失脚する。これは、源頼朝が甲斐源氏の勢力が大きくなることを恐れたためかもしれない。そのとき、忠頼夫人は二人の死を悼み、館の地に尼寺をつくった。のちに時宗の宗門に入り、一蓮寺という名刹となったのである。中世を通じて、一蓮寺は武田氏の庇護下にあった。室町時代その武田氏が甲斐国の守護であった。

しかし、室町時代末期になると、甲斐国も争乱の時代を迎えることになる。その中で、甲斐統一の最右翼にいたのが武田信虎であった。彼は、永正4年（1507）に武田家の家督を継ぎ、着々と周辺の国人たちを屈服させていった。永正16年（1519）に領国支配の中心となるべき館の建設を行った。それまで川田（現甲府市）にあった館を一条小山の北方約2kmの場所に移転させた。いわゆる躑躅ヶ崎の館である。同時に国人たちも躑躅ヶ崎の館の前に屋敷をつくっている。また、永正17年（1520）には、躑躅ヶ崎館の詰城といわれる要害山の普請を行い、大永3年（1523）には湯村山城の築城がなされた。そして、『高白斎記』の大永4年（1524）の条には、「一条小山御普請初」とあることから、一条小山にも何らかの普請が行われたことがわかる。躑躅ヶ崎館の周囲の警備を強化した様子が窺われる。武田信虎は甲斐の統一を成し遂げた後、天文10年（1541）に嫡子の武田晴信（信玄）によって駿河へ追放されてしまう。武田信玄は信濃、駿河、遠江、三河などにまで勢力を上げた。だが、武勇の誉れたかかった信玄も、西上作戦の途中、信州駒場（下伊那郡阿智村）で息を引き取るのである。信玄の四男勝頼が家督を相続する。勝頼も信濃一国を完全に領国に加えたりするが、天正3年（1575）の長篠合戦で織田信長・徳川家康の軍に敗れ、勢力を減退させてしまう。天正9年（1581）の末、躑躅ヶ崎館を引き払い、新府城（現韮崎市）へ移った。だが、天正10年（1582）の正月に信州木曾福島城主木曾義昌が武田家を裏切って、織田信長方についたことから、武田家滅亡のドラマが始まった。信長が攻めてくるというので、武田勝頼は、諏訪上原まで出陣した。だが、まもなく新府城へ帰る。一方織田信長の軍勢は、伊那から織田信忠が、駿河からは徳川家康が、関東からは後北条氏が甲州へ攻めることになった。掛川にいた穴山信君が徳川家康に降りるなど勝頼の家臣たちが裏切り始めた。勝頼は、新府城を引き払い、都留郡の小山田氏を頼り、岩殿城へ向かう。だが、都留郡の入口を閉められてしまう。同年3月に天目山において武田勝頼一族は自決するのである。ついに、武田家は滅亡するのである。

続いて甲斐を領有するのは、武田家を滅亡に追い込んだ織田信長の家臣河尻秀隆であった。秀隆は、武田色を払拭するために、武田の家臣の残党狩りや、信玄の菩提寺である恵林寺を焼き払うなどした。それが甲斐の民衆に反感をかったのであろう。この年の6月に本能寺の変で信長が自害すると、河尻秀隆は、民衆の一揆で殺されてしまう。また甲斐は戦乱に巻き込まれることになるのである。甲州は、関東の後北条氏と三河の徳川家康の取合の地となるのである。北巨摩方面では、信州から攻めて来た後北条氏が若神子（現須玉町）に陣を張り、中道往環から甲州へ入った徳川家康は新府城に陣を張り、両軍睨み合った。一方、黒駒（現御坂町）で、後北条の軍と徳川の軍がぶつかり、徳川方が後北条方を追い払った（天正壬午の戦）。全体的に徳川方が優勢な状況で両者講和を結んだ。そのため、甲斐は徳川家康のものとなった。この背景には、家康の武田遺臣に対する懐柔政策があったのである。

天正10年の終わり頃には、甲州の城代として、平岩親吉が任じられた。平岩親吉が一回目の城代の時代と考えられる家康の書状に、一条小山に普請をするので石垣積みを派遣するといった内容のものがあることから、

甲府城の建設予定があったことが窺える。一方、一条小山にある一蓮寺に対し家康は、天正10年6月に寺領安堵をしており、11月には末寺領までを安堵し、翌年の4月には再び寺領を安堵している（『甲府市史』史料編第二巻近世Ⅰ）。このような保護政策をしていることから、平岩親吉は、築城に踏み切れなかったのかもしれない。天正17年（1589）に伊奈熊蔵忠次が甲斐国の検地を行った。その際、忠次は山梨郡蔵田村の百姓の訴えに対し、「三年ヲ越エズシテ必ズ此地へ府城ヲ遷サレン、左スレバ市町ノ汚水行廻、忽チ美田ト為ラン事疑ナシ」と諭したといわれる。このことから甲府城の建設計画が存在していたことは間違いない。しかし、翌年になると豊臣秀吉により後北条氏が滅ぼされると、関東へ徳川家康が入り、甲斐は秀吉の領国となる。

まず、豊臣秀吉の領国になってから、甲斐へ入るのは、秀吉の甥の羽柴秀勝であった。しかし、母の瑞竜院夫人の哀願により、秀勝は美濃国岐阜城へ移封となったのである。次に、甲斐を与えられたのは、近江佐和山の加藤光泰であった。『甲斐国志』によると「同（天正）十八年豊臣少将封ヲ本州ニ受ケ、明年加藤遠江守光泰代ル、是ニ於テ修築ノ功ヲ興ス、一条ノ舊記ニ平岩七之助城代ノ頃ニ寺ヲ移ス可キ地ヲ賜リ、加藤之時ニテ寺遷ス由記セリ」とあるので、加藤光泰の時に一条小山にあった一蓮寺は現在の土地に移ったことになる。また、文禄2年正月（1593）の加藤光泰の朝鮮からの書状に「其国ふしん、土手・ひかしの丸・石かき出来候や、此表事、上様御存分に申付候、帰国仕城をやかて見可申候」ともあることから、甲府城の築城は進んでいたものと考えられる。その加藤光泰は、この年朝鮮で病死する。光泰の嫡子の貞泰は美濃国黒野へと移ることになる。次いで、甲州に封を受けるのは、浅野長政・幸長父子であった。加藤光泰と同様彼らも杣や大鋸引きらに諸役免許して城の普請に参加させていることから、引き続き甲府城の建設をおし進めたことがわかる。だが、慶長3年（1598）になると豊臣秀吉が亡くなり、翌年、五大老の筆頭格である前田利家までも没し、天下の情勢は混沌とし始めた。ついに、慶長5年（1600）、関ヶ原において、石田三成を中心とする西軍と徳川家康を中心とする東軍とがぶつかりあった。浅野父子は豊臣方の大名であったが、東軍についた。関ヶ原の戦いは家康方の東軍が勝利したため、浅野幸長は37万石余に加増され、紀伊国和歌山へ移封することになった。このときには甲府城はほぼ完成していたとみられる。再び、甲斐は徳川家の支配下に入るようになった。

そして、甲府城の城代として平岩親吉が再任される。『甲斐国志』の平岩親吉の項に「按ルニ此時新城造営既ニ就レリ、修理加フナルヘシ」と記載されていることから、平岩親吉は、甲府城に何か手を加えたと考えられる。城代の平岩親吉、四奉行の桜井安芸守信忠・石原四郎右衛門尉昌明・小田切大隅守昌吉・跡部九郎右衛門尉昌忠が甲斐の政治をつかさどった。慶長8年（1603）、家康の九男徳川義直が甲斐25万石を宛行われた。義直は、まだ幼く、駿河に在城しており、甲斐には在城しなかったため、平岩親吉が城代を続けた。慶長12年（1607）徳川義直が尾張へ移動になると、平岩親吉も犬山城へと移ることになる。甲斐は城番制となり、武川十二騎が甲府城に入った。彼らは、戦国時代は武田家の家臣であり、北巨摩の出身の武士団であった。同じ郡出身の津金衆と呼ばれる武士団の一部も武川衆の一員となっていた。それから、元和2年（1616）、徳川秀忠の息子で、徳川家光の弟の徳川忠長が甲斐を受封した。寛永元年（1624）、忠長は駿河・遠江を拝領し、50万石の石高を持つに至った。そして、忠長は大納言となり、駿河大納言と呼ばれるようになる。だが、寛永8年（1632）に將軍徳川家光の譴責を受け、甲府に蟄居を命ぜられた。翌々年彼は上野国高崎で自刃するのである。甲斐は再び城番制がしかれることになる。最初、大久保忠成と伊丹康勝らが城番に任命され、その後は、上級の旗本が1年交替で城番に当たった。次いで、家光の三男、徳川綱重が、慶安4年（1651）巨摩郡・山梨郡15万石のほか、寛文元年（1661）には10万石を拝領し甲府城主となった。寛文4年（1664）、甲府城の大修理が半世紀ぶりに実施された。延宝6年（1678）綱重が病没したあと、甲府城主となったのは、綱重の子、綱豊であった。宝永元年（1704）、徳川綱豊は徳川綱吉の養子となり、名を家宣と改め、江戸城に入った。宝永6年、家宣は綱吉没後に6代將軍に就任した。

次いで甲府城主に任命されたのは、柳沢吉保であった。彼は、徳川綱吉の御側用人であり、先祖は武川衆の一員であった。つまり、吉保は先祖縁の地を賜ったことになる。宝永3年に甲府城の修増築を行い、城下町の整備も積極的であった。家宣の將軍就任とともに柳沢吉保は隠居し、嫡子である吉里が継ぐことになった。享保9年（1724）、突然吉里は、大和郡山へ転封となった。そして、同年7月甲府勤番制へと移行するのである。享保12年勤番屋敷から出火し、甲府城は大火に包まれ、櫓門などの多くの建物が消失した。慶応2年（1866）、政治情勢が混乱すると、甲府に城代がおかれることになった。だが、慶応4年（1868）に甲府城へ新政府軍の無血入城を許し、明治維新を迎えるのである。

## 第5節 調査方法

### (1) 発掘調査方法

調査方法は基本的には平成2年度の調査開始時から変化はしていない。大きな変化としては、遺構・遺物の測量などしている、コンピューターシステムが変わったことである。両者はともに国土座標に基づくシステムであるが、現地での利便性を重視することは作業効率の増進にもつながる。

さて、中近世を問わず、城郭の調査では、特に測量は多くの場面で困難な状況に直面することがある。甲府城の調査の場合、残存している最も低い鍛冶曲輪から最頂部の天守台までその比高差は約42mある。当然、曲輪ごとに標高もことなり、至るところに工事工区や車両進入路があるため、基準杭の設置は非常に困難である。

また、甲府城の場合整備事業と平行しつつ、埋蔵文化財の調査を実施しているため、調査の一時中断や、調査地点の移動が多々発生する。図2にもあるように平成9年度のみでも、調査地点は多く、同じ曲輪内を継続して実施することは困難である。

従って、甲府城での測量については、国土座標を基準としながら、機動性と測量開始までの時間短縮に重点をおいた測量システムが必要である。

#### (遺構・遺物の取り扱い)

遺構については、石垣をはじめ建物跡や土坑・瓦溜、裏石垣・暗渠などが測量の対象になっている。しかし、明治以降、開発行為が多々おこなわれていたため、本来の遺構が残存していることは珍しい。今後明治以降の開発痕跡については、検出された遺構との照会作業をおこない、検出遺構の属性を明らかにする必要があるため、極力その状況を記録した。また、測量面積が大きいものや、作業効率も考慮しながら、場合によって写真測量を、主に石垣に対して実施した。小さな遺構であれば測量は、写真撮影の位置と角度、及びスケールを注意すれば比較的簡易に実施できるので、多用した。

遺物についても従来の方法を継承した。城郭という遺跡の性格上、瓦類の出土が非常に多い。しかし、すべてを記録する方法は、時間的・予算的、また何よりその成果の活用について検討余地があるため実施していない。ただし、石製品・鉄製品・木製品など特殊性のあるものを記録の対象とし、瓦類についても、建物の規模を推測する場合や時間的推移を検討できるデータ、つまり軒丸・軒平瓦の正面部分は記録の対象とした。丸・平瓦については属性を分類した上で、数量を把握できるデータを得るのみにした(註1)。

#### (石垣調査)

解体修復を実施する石垣に対しておこなう調査である。

解体前に、石垣立面図を作成し、図面と現地石垣石材に番号を付加していく。石垣解体時に番号のある石材一つ一つの法量(面の縦・横の長さ、石尻の長さ・重量)を記録した。

また、解体の様子について8mmビデオカメラで撮影をおこない、その様子を捉えた。同時に35mmネガ・ポジ・白黒での写真記録も実施している。

(註1) 土嚢袋を使用し、袋の7割まで瓦を詰め込み、その合計数で算出する。ちなみにこの場合の土嚢1袋は約30kgである。

### (2) 今年度の調査経過

|             |                  |             |                    |
|-------------|------------------|-------------|--------------------|
| 4月7日～30日    | 天守曲輪調査           | 7月24日～8月28日 | 数寄屋曲輪調査            |
| 4月7日～5月29日  | 本丸調査(東側・南側拡張部分)  | 8月7日～9月22日  | 数寄屋勝手門周辺調査         |
| 4月24日～5月8日  | 稲荷曲輪調査           | 9月19日～10月8日 | 本丸調査(南側・天守台下)      |
| 5月13日～5月29日 | 鉄門基礎及び階段調査       | 10月3日～7日    | 中の門解体              |
| 5月26日～6月6日  | 数寄屋勝手門周辺調査       | 10月9日～3月24日 | 稲荷曲輪調査(床屋上・煙(塩)硝蔵) |
| 5月26日～6月6日  | 本丸調査(謝恩碑下・北側・南側) |             |                    |
| 6月5日～13日    | 天守曲輪調査           | 11月13日      | 第2回調査検討委員会         |
| 6月16日～7月22日 | 稲荷曲輪調査(北側)       | 2月27日       | 第3回調査検討委員会         |
| 6月23日～7月24日 | 本丸調査(謝恩碑下)       | 3月22日       | 第4回調査検討委員会         |
| 7月16日       | 第1回調査検討委員会       |             |                    |
| 7月24日～8月28日 | 稲荷曲輪調査(飛行機跡)     |             |                    |

## 第2章 発掘調査

### 第1節 本丸

#### (1) 中央部

本丸は天守台のすぐ下の曲輪である。絵図によると柳沢氏の時代には御殿があったようである。この地区は、昨年度の調査の継続である。昨年度の調査で、すでに岩盤が露出していたので、岩盤の間に残されていた土をどけ、岩盤を出す作業をした。赤茶色をした層と廃棄されたとみられる石の下より、金箔瓦、朱のついた鯨銚瓦、桐紋などの飾り瓦、築城期の瓦が含まれる瓦溜が1基検出された。調査区南側を拡張し掘り下げたところ、現地表面から約2mの地点より、江戸時代前期の鬼瓦が単独で出土した。南側の調査区域は、調査継続中である（出土遺物については、第4章参照）。

また、岩盤の石の中から、石垣の石材に利用しようとしたと思われる、矢穴がある割りかけの石や、石を切り出した跡も確認できたため、一定の時期に本丸から石を切り出したこともわかった。あと、石の中には、ノミのような先の鋭い刃物で刻まれた、山鳥、魚、三柏、星形などが発見された（詳しくは第5章参照）。本丸北石垣の解体工事で危険なため、調査を一時中断した。

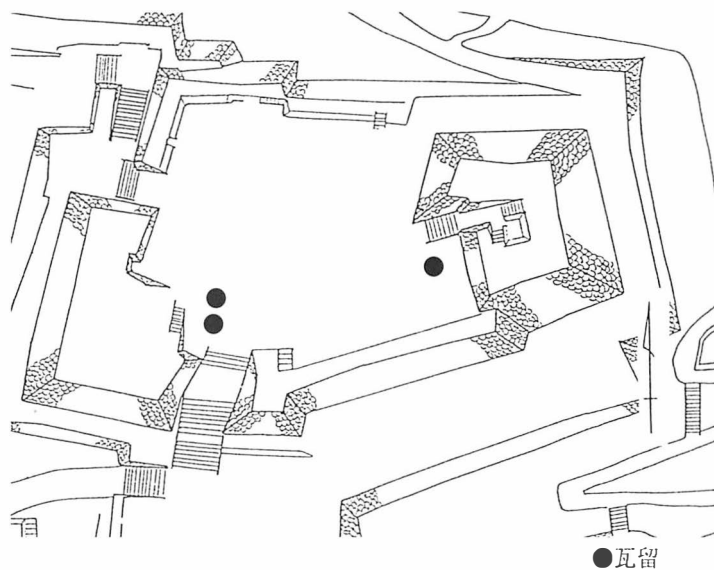
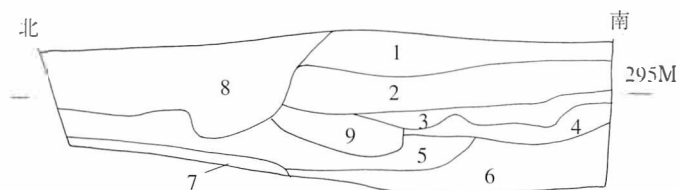


図3 本丸調査位置図



1. 表土
2. 10mm～50mm礫 遺物なし
3. 暗褐色土 礫密
4. 褐色土 礫粗
5. 赤色ブロック 礫10mm～100mm
6. 暗褐色土 礫20mm密
7. 礫層
8. 攪乱
9. 瓦層、すき間に土壌入る

図5 本丸中央部南北土層図 (1/50)

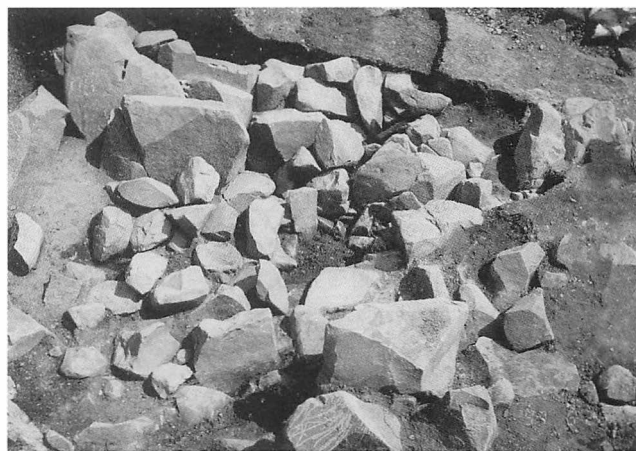


図4 本丸石切場



図6 中央部土層



なお、ここの調査区で遺構は確認されていない。  
 また、謝恩碑東下も本丸中央部と同時に調査した。  
 現状では、大きな切り株がある。それを除いて調査をした。調査では、比較的浅いところから、瓦溜2基を検出した。江戸期の瓦が中心であったが、掘り下げていくと、無遺物層になった。この調査区でも本丸中央部と同様、赤茶色の土の層が部分的に入り込んでいたが、遺物はほとんど出土しなかった。さらに、

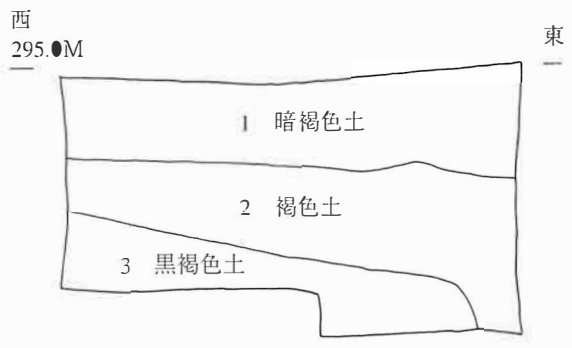


図7 本丸謝恩碑下東西土層図 (1/50)



図8 本丸謝恩碑下瓦溜



図9 本丸謝恩碑下土層

遺構も確認されなかった。これ以上掘り進めると、謝恩碑が載っている石垣が崩落する危険性が生じるので、調査を打ち切った。

(2) 北腰石垣

本丸北石垣の解体工事が6月中旬と、下旬に行われた。腰石垣を解体するため、腰石垣の表側の高石垣も並行して解体された。ここでの目的は、江戸時代の絵図によると石垣西側に本丸櫓があるので、本丸櫓に関連する遺構の検出と、石垣の裏盛土の状況の把握することであった。

腰石垣の東端の石段の基底部分で礎石を2個確認した。本丸櫓本体のものとは考えられず、櫓に付属する階段の覆い屋か塀に関するものと思われる。

腰石垣解体中に、その裏から栗石を押さえるために築かれたと思われる石垣を検出した(図12・14)。右をここ

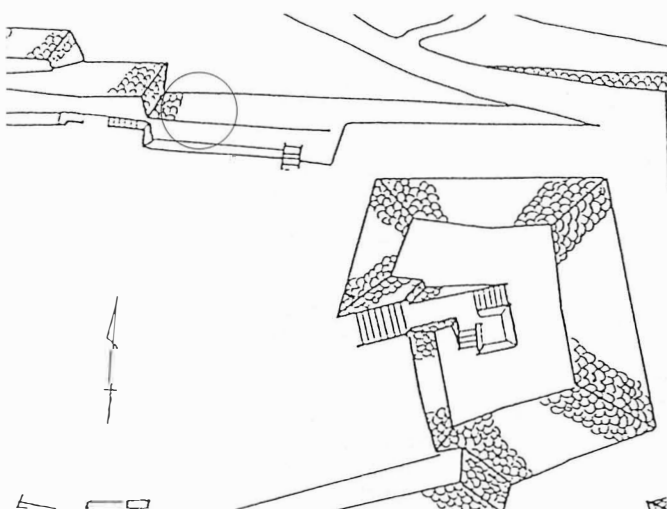


図10 本丸北腰石垣調査位置図



図11 本丸北腰石垣解体状況

では、裏石垣と呼ぶことにする。裏石垣よりも、後述する暗渠の袖石の方が前面に突き出していることと、全面に裏石垣が展開はしてないので、腰石垣を積むときまでの暫定的な石垣であったと考えられる。

平成6年度の調査で確認されていた暗渠の溝蓋をはずした(図16)。この暗渠は、腰石垣の東端から西に約10mのところであり、本丸櫓の西端にあったと考えられ、本丸内にたまった水を曲輪の外に排水する機能があった。暗渠の規模は、深さ40cm、幅1m15cm、長さ5m50cmであった。今回の復元では、解体前と同様に、暗渠としての機能を働かせるようにした。

遺物は、裏栗石の中から、五輪塔の一部や、石臼などが出土した(詳しくは第4章出土遺物を参照)。

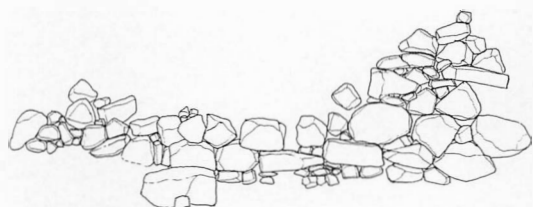


図12 本丸北腰石垣裏石垣西側立面図(1/50)



図13 本丸北腰石垣裏石垣西側検出状況

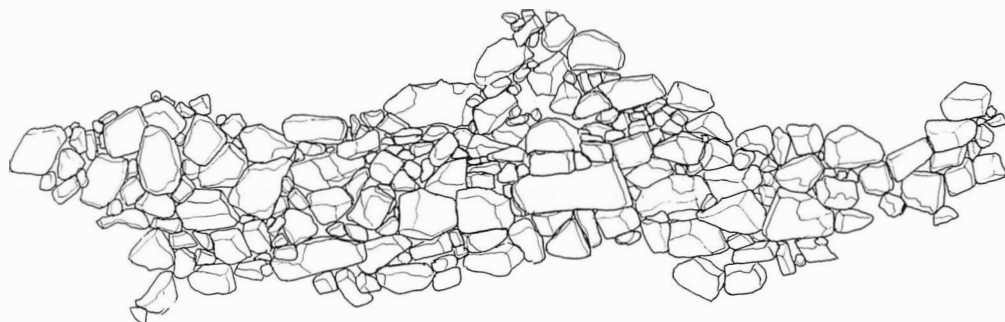


図14 本丸北腰石垣裏石垣東側立面図(1/50)



図15 本丸北腰石垣裏石垣東側検出状況

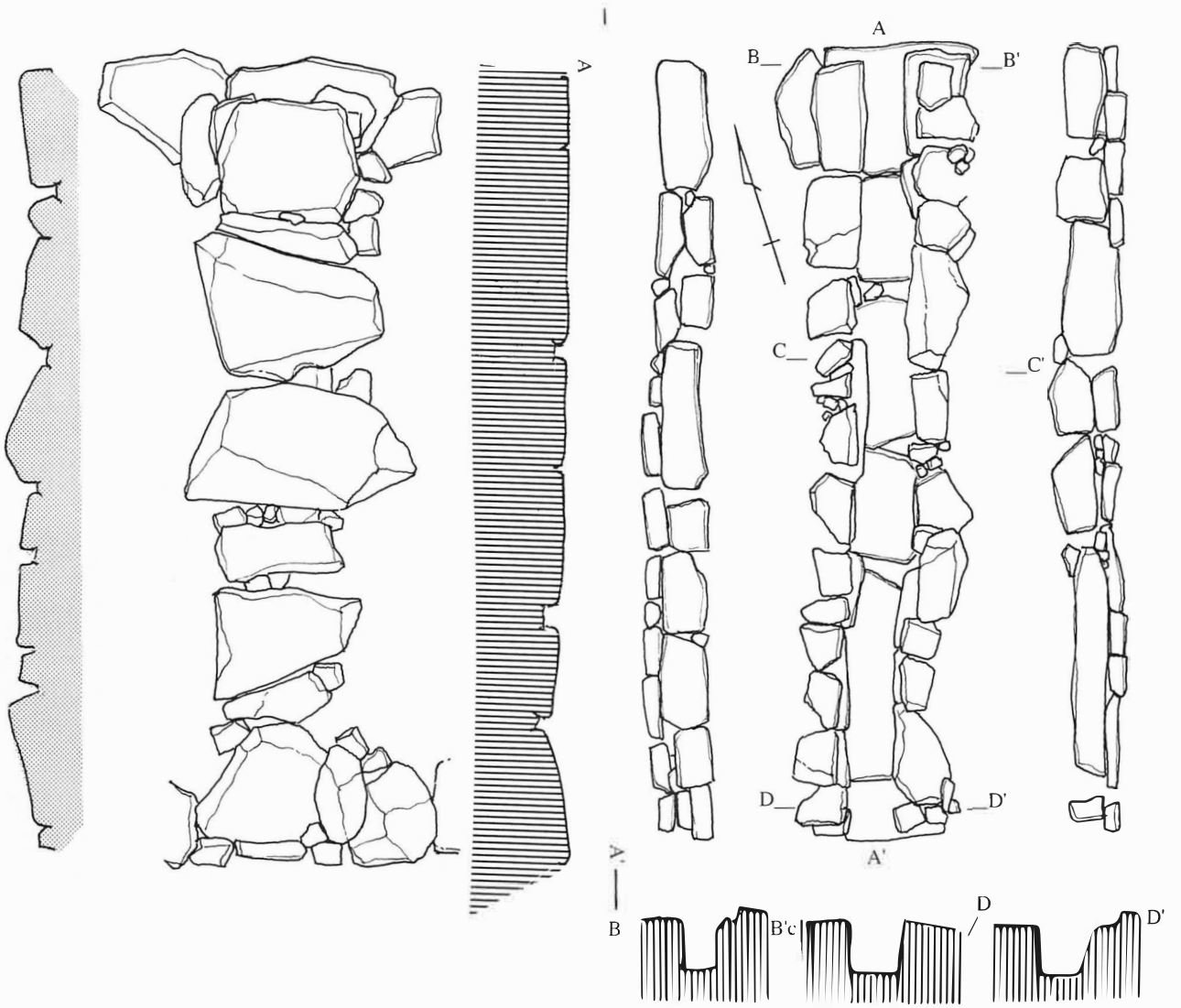


図16 本丸北腰石垣暗渠平面図及びエレベーション (1/50)



上 本丸北腰石垣暗渠口蓋  
検出状況



本丸北腰石垣暗渠検出状況

右 本丸北腰石垣暗渠検出  
状況



図17

## 第2節 鉄門

鉄門（くろがねもん）は、本丸から天守曲輪へ向かう南に面する門であり、櫓門であった。他に本丸西にある門は銅門（あかがねもん）と呼ばれ、これも櫓門である。

柳沢吉保の時代、南門と称していたのを鉄門という名に改めたと『樂只堂年録』には記載されている。

平成5年度の鉄門の調査では、当門の主柱の礎石3個、控え柱の礎石7個と石組みの水路と明治以降の石列を検出している（山梨県教育委員会他編『山梨県指定史跡 甲府城Ⅳ』を参照）。

鉄門に付属する階段を復元するために、付属する階段の箇所を調査を行った。明治に造られた白御影石の階段を除去し、江戸時代中期の絵図に基づいて復元することになった。『山梨県指定史跡甲府城Ⅳ』にも触れられているように、近代に設置された階段は門の桁方向より30度ほど振れている。そのため、桁方向に合わせ、新しく石段を設置することにした。しかし、白御影石の石段を除去すると、本丸で確認された金箔瓦が出土する赤茶色の土が厚さ約40cmほど堆積していた。その下から、幅2.3m、長さ5mの安山岩の石段が検出された（図20）。赤茶色の土の下から検出されたことから、この石段は、築城期に設置されたと考えられることができる。その階段石には線刻画も発見された（第5章線刻画の章を参照）。今回の復元工事では、検出された石段は埋設保存した。

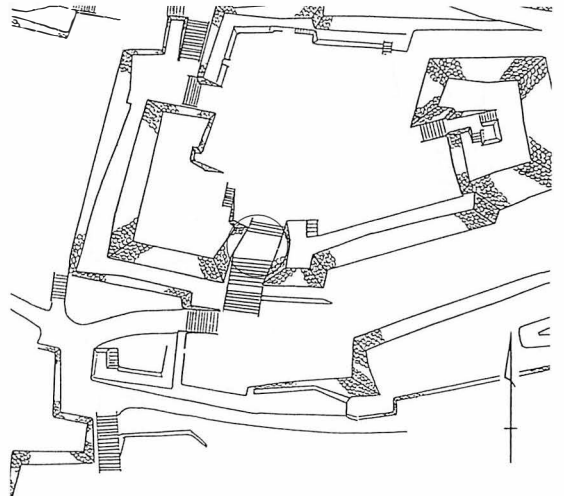


図18 鉄門調査位置図



図19 鉄門石段検出状況

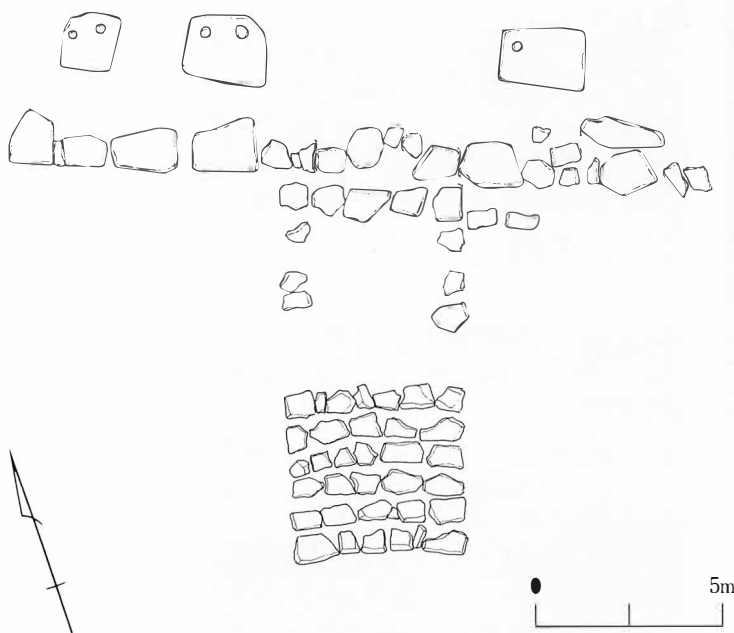


図20 鉄門石段平面図



図21 鉄門作業風景

### 第3節 天守曲輪

天守曲輪は本丸の一段下の曲輪で、東から西へ巻く帯曲輪である。『樂只堂年録』によると、「天守曲輪元ハ東帯曲輪」とあり、柳沢時代以前は東帯曲輪と呼ばれていたことがわかる。平成6年度の調査において、天守曲輪南面の石垣裏から、長さ約20mの小石を積んだ石垣を検出していた。今回は、裏石垣の続きの確認と石垣修復工事の基礎を確認するため、東側を発掘した。そうしたところ、全体で約30mの前回検出された続きの裏石垣が検出された(図26)。これは、表の高石垣を積むまでの暫定的に積まれたものであり、一般の石垣として機能したものでないと考えられる。

鉄門東石垣の根石を押さえるために積まれた石垣は、平成6年度の調査で東側の根石と、東側の石垣が約10m崩されて奥に積み直されていることが確認されている。今年度の工事で解体、復元するため、石垣中央部の裏側を調査したところ、この石垣を解体すると、本体の石垣の根石が露出して極めて危険であることがわかった。そのため、石垣を解体せずに、西端の根石から1m前に出した点と、確認された根石を結ぶラインに新たに石垣を積むことにした。

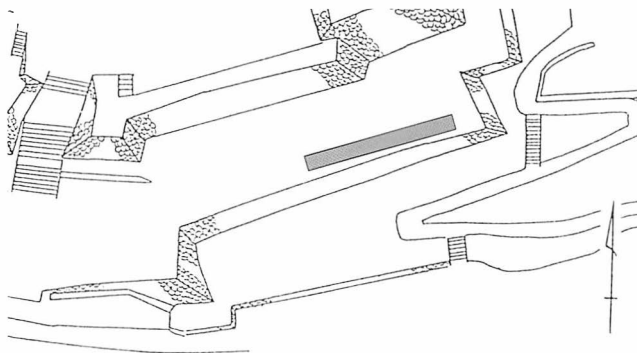


図22 天守曲輪調査位置図



図23 鉄門東腰石垣施工後



図24 天守曲輪南北土層図 (1/50)



図25 天守曲輪裏石垣検出状況

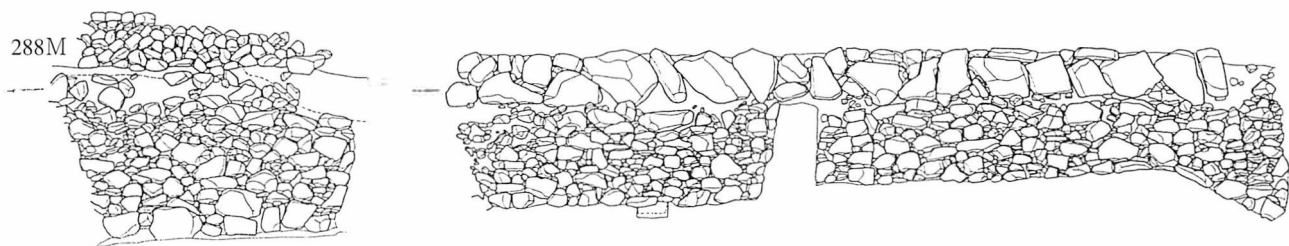


図26 天守曲輪裏石垣立面図 (1/250)



## 第4節 稲荷曲輪・煙硝蔵

稲荷曲輪は、本丸を北から東に取り囲むように位置し、現存する曲輪の中では最も広い面積を持つ。昨年度の調査では、曲輪の北東の隅にある稲荷櫓台より、地鎮祭に用いられたとみられる輪宝が5点出土している。今年度の調査箇所は、曲輪北及び北西と、稲荷曲輪南の腰石垣周辺である。

### (1) 稲荷曲輪北及び北西

曲輪北の石垣天端を形成している土手の部分に、新たに腰石垣を積むことになり、工事に先立って調査を行った。江戸時代中期の絵図には、西寄りに、「焰硝蔵」の建物1棟が描かれているため、関連する遺構の検出に努めた。前述した土手の基底部から南に4m、稲荷櫓台下から西へ70mの範囲を、数ヶ所に分けて調査した。その結果、瓦溜が東側で4基、中央付近で3基検出された。いずれも棧瓦が混在しており、明治以降に廃棄されたものと考えられる。瓦溜の底は、明褐色の粘土質層で、それより下からは、遺物は検出されなかった。西側では、柱穴6基と、土台状遺構が検出された。位置からみて、これらは「焰硝蔵」に関連するものではないかと思われたが、腰石垣施工のため調査を一旦中断し、曲輪西の松林に調査区を移した。重機により表土剥ぎを行ったが、煉瓦やコンクリートブロックが大量に廃棄されているなど、攪乱が予想以上に激

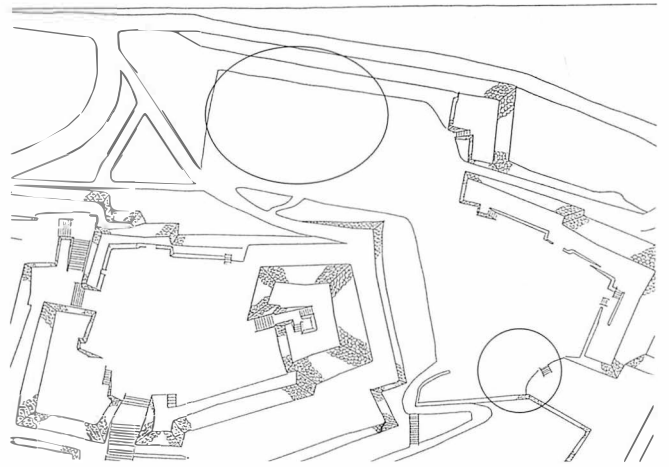


図27 稲荷曲輪調査位置図

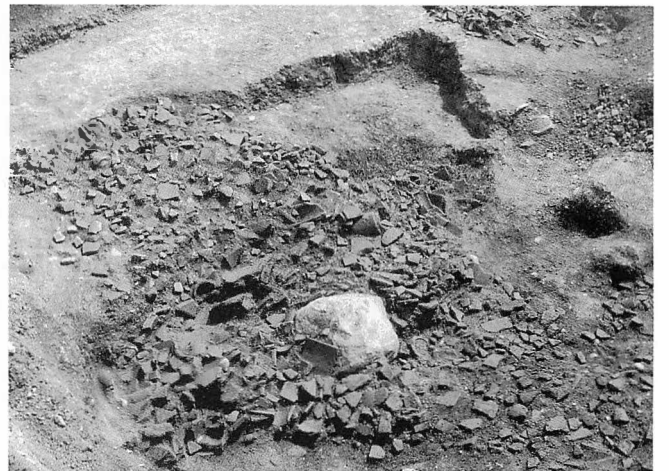


図28 瓦溜検出状況

しく、人力での掘下げは不可能で、遺構の検出も望めない状態であった。東側の防御フェンス沿いの付近はわずかに攪乱を免れており、瓦溜1基と、南北4.5m、東西5m以上の基礎範囲、木柵の痕跡を確認し、南北に設定したトレンチからは、風化した凝灰岩からなる周堤状の高まりを検出した。これらの遺構の全容を掴むため防御フェンスの撤去、プレハブの移設、松の移植などを行い、南東に調査区域を拡大した。ここでも広範囲にわたって攪乱がみられたが、土坑が3基と、東西に延びる瓦の列、踏み固められたと思われる土の高まりなどが検出された。しかし、いずれも性格がはっきりせず、「焰硝蔵」の手がかりは得られなかった。そこで、前述したトレンチを南に延長し、さらに掘り下げたところ、砂や人頭大の石が確認された。石については石垣の可能性もあるため、平行して東側に2本のトレンチを入れたが、石や遺物などは検出されなかった。

### (2) 稲荷曲輪南腰石垣周辺

稲荷曲輪南（青少年科学センター南）の腰石垣及び石段の修復工事が行われることになり、野外展示されていた飛行機が移設されるのを待って調査に入った。工程との関係で期間が極めて限られていたために、今回の調査は腰石垣のラインに沿ったL字型の部分（幅2m）のみとした。

調査の結果、調査区のほぼ中央部で瓦溜が1基（一部未調査）検出された。南側腰石垣のほぼ中央部下で、瓦や割り石の入った土坑が1基検出されたが、性格は不明である。東側腰石垣の根石付近では、鯨瓦の破片が1点出土した。未調査部分については、来年度調査を実施する予定である。

### (3) 煙硝蔵

調査された煙硝蔵は、城内で調査した遺構の中でも特に残存状況が良好であったといえる。

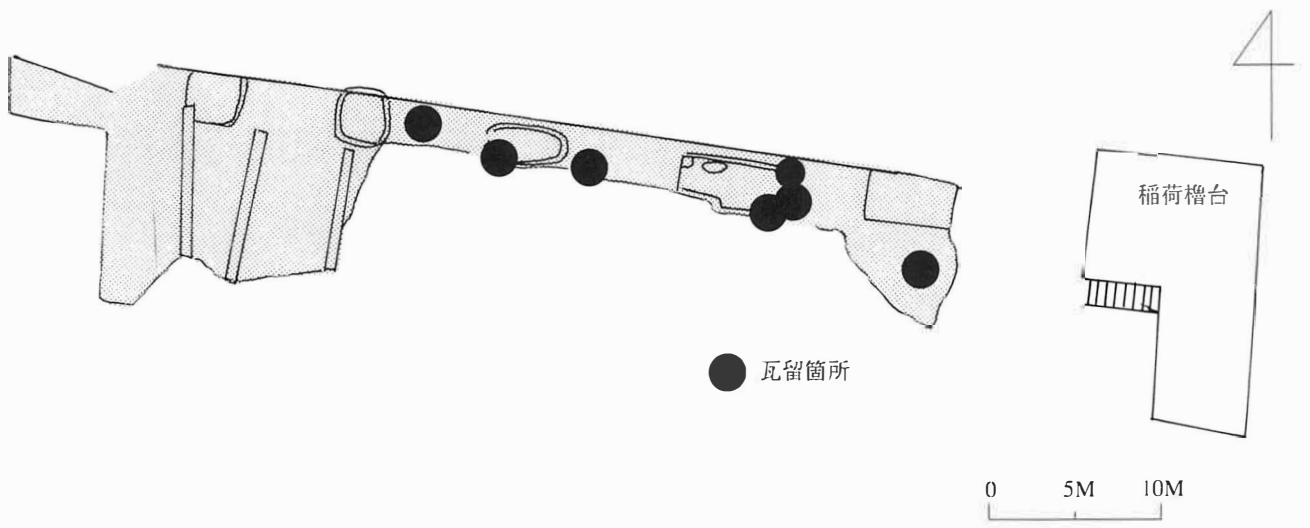


図29 稻荷曲輪北調査範囲

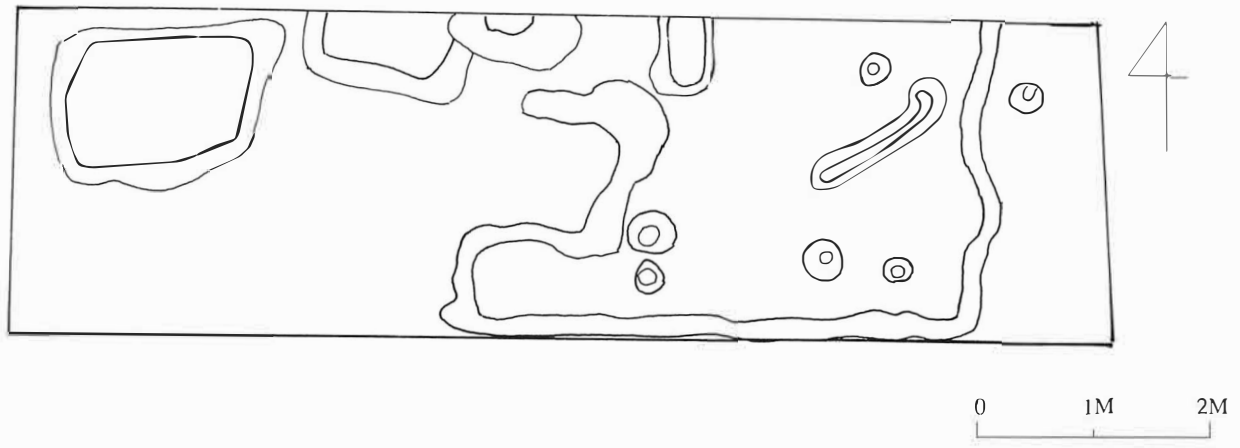


図29 土台状遺構・柱穴平面図



稻荷曲輪北調査風景



稻荷曲輪南調査風景

図29

まず、遺構確認の精査作業を実施し、その結果、稲荷曲輪造成面に長方形のプランと、その外周部には径約10cm程度の木柵痕が確認された。煙硝蔵については、全国的な調査事例がほとんどないため、江戸中期に落雷により焼失し、その後復元された大阪城西の丸の煙硝蔵に類似する可能性を考えた(図33)が、検出された遺構は、確認面からの計測で南北5.3m×東西4.7m×深さ2.1m、底部南北4.8m×東西4.2mで垂直の壁を持つ地下式構造の施設であった。底部には扁平の石材をほぼ無加工の状態で敷き、底部の4辺は、壁から敷石まで平均30cm幅で石材が配置されず、土面となっている。土層堆積は、1層は稲荷曲輪造成面と類似する粘性土で、埋没過程での最終的な堆積土と判断できる。2層は1層と類似するが、瓦の混入がみられる。堆積はレンズ状で大型礫と川砂が入り込む。城内で川砂が検出された事例はなく特徴的である。3層は大量の瓦と川砂で5層の崩落土である。上面左右の上4層は造成面の崩落土である。5層は3層と同質で壁構造内の砂礫である。

以上のことから推定する煙硝蔵は、地上一階地下一階の施設で、保管する火薬や原料を湿気から保護するため壁際から30cm離れた位置で、板材による壁を立ち上げ、土壁との隙間に風化した礫や砂を注入し除湿剤としたと推定できる。出土品から屋根は瓦が葺かれ、釘も多用されていたと考えられる。床下構造の確認のため敷石を除去したが排水施設などの構造はなかった。

また、絵図では土蔵は長方形に記されているが、検出された遺構はほぼ正方形であることから、上屋は必ずしも同じ形とは限らず、施設の一部が地下式であるとも考えられる。遺物と絵図により築城期から江戸中期以降まで機能していたと考えられ、江戸中期以降は『甲斐国志』の記載から県指定史跡加那塚(甲府市羽黒町)の石室に移されたとされる。なお、甲府城跡の煙硝蔵は全国で初めて絵図と発掘調査による合致と内部構造を把握した最も古い資料と位置付けられる。標記の方法は、全国的な事例から煙硝蔵・塩硝蔵・焰硝蔵があるが、甲府城跡では煙硝蔵とした。



木材出土状況



稲荷曲輪造成面断面(西壁)



南北層堆積状況



全 景

図30

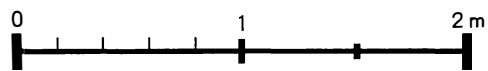
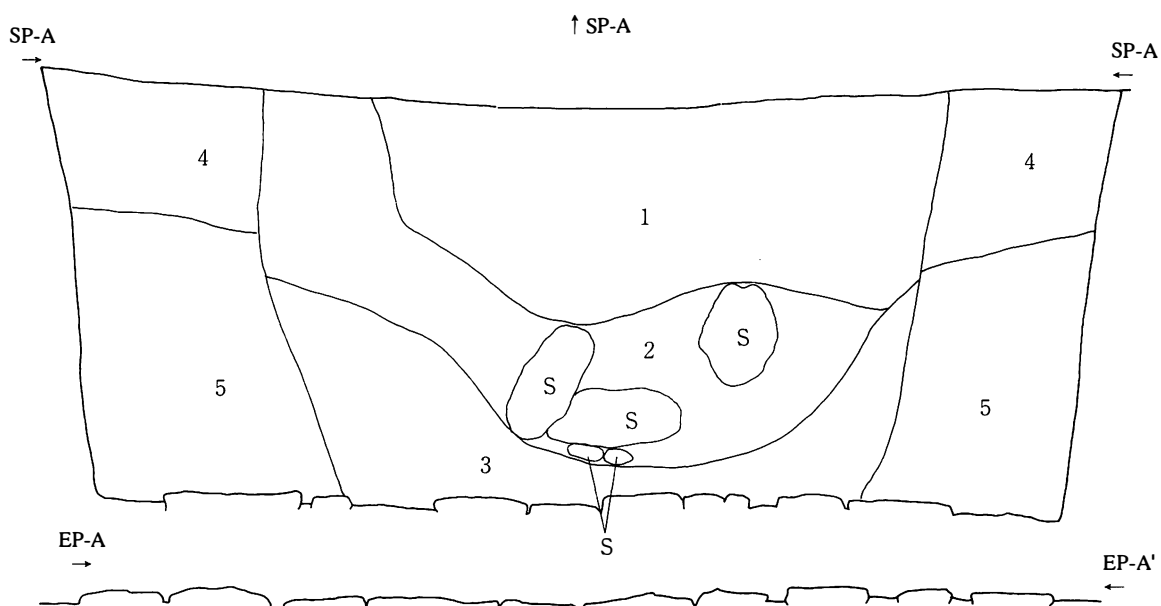
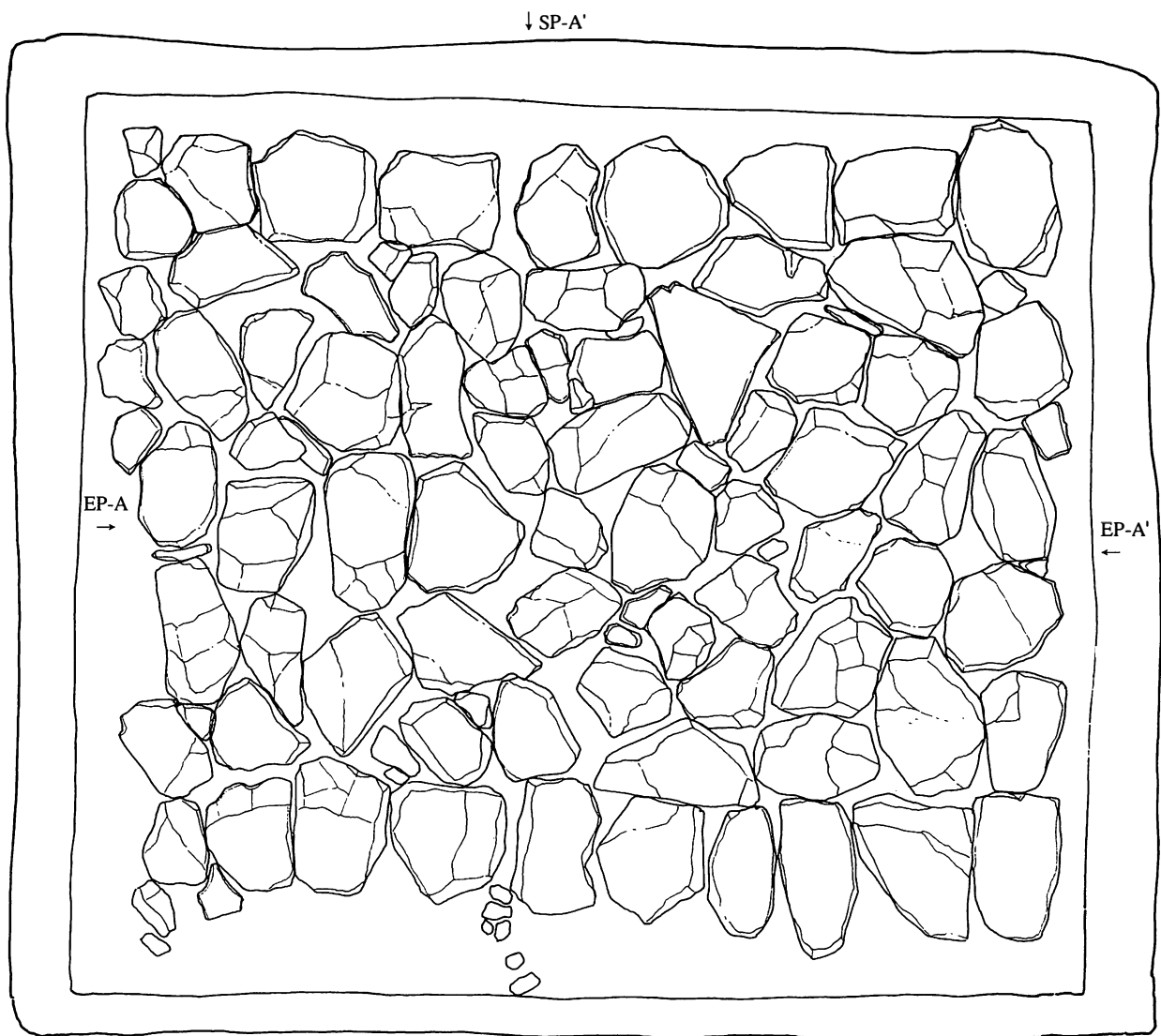


図31 煙硝蔵平面・セクション・エレベーション図

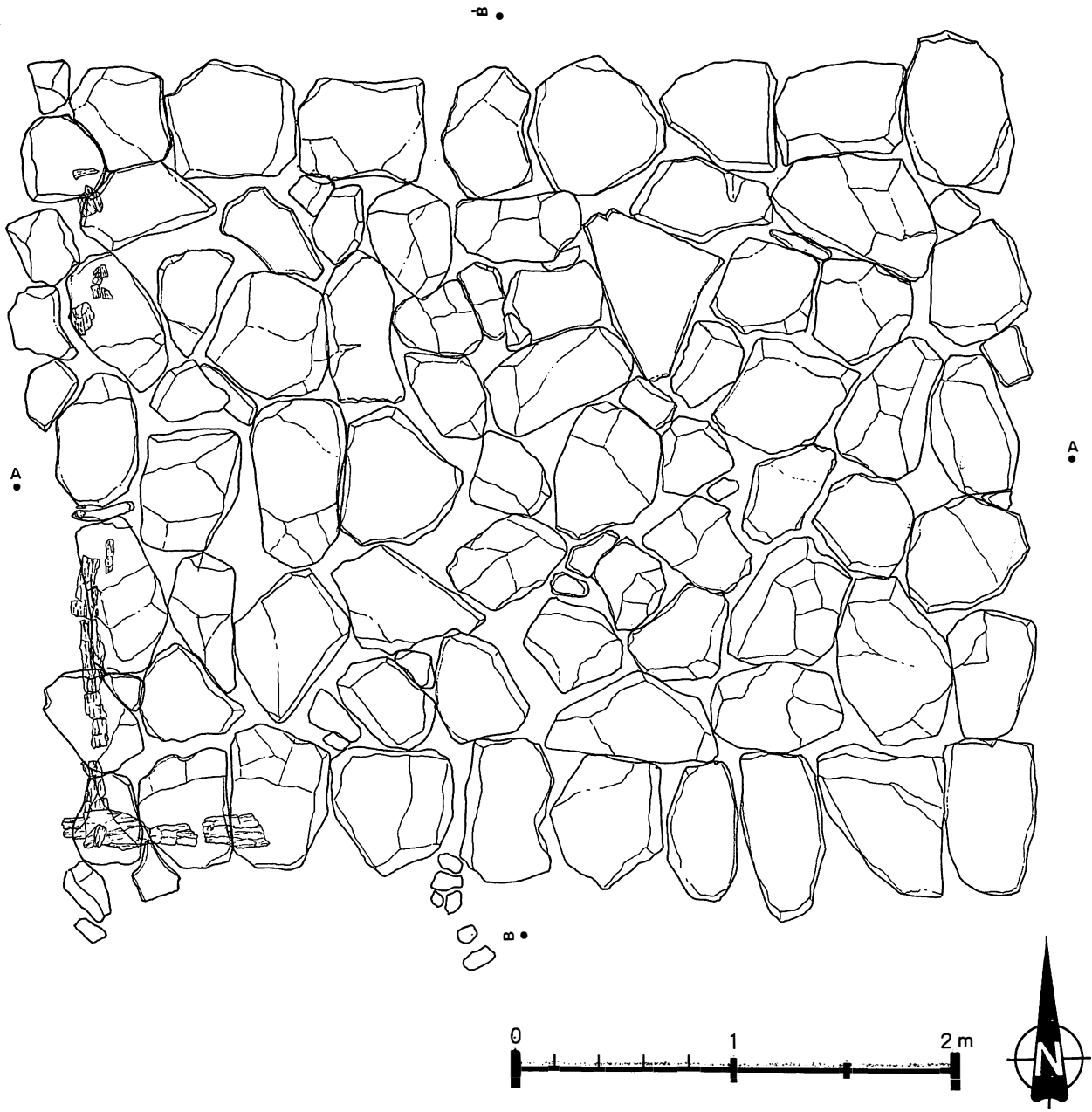


図32 板材出土位置図

〈参考資料 大阪城西の丸焔硝蔵〉

右上 西面図

下 北面図

出展『日本名城大図鑑』1978 P41下

新人物往来社より

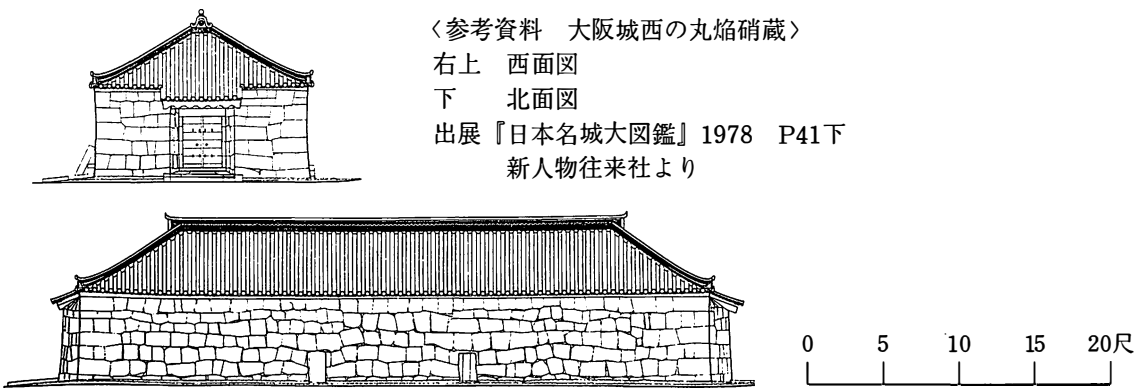


図33

## 第5節 数寄屋勝手門周辺・数寄屋曲輪

### 数寄屋勝手門

稲荷曲輪と数寄屋曲輪を結ぶ門で、青少年科学センター南に位置する門である。現況では周辺石垣も消滅し、江戸中期の状況とはかなり異なっている。

調査では人力で曲輪造成面まで掘削し、遺構確認を実施した。その結果、支柱穴が3基と支柱穴1基、および礎石1基が検出された。幅は狭く2.6mと狭く、比較的簡単な門であると考えられる。

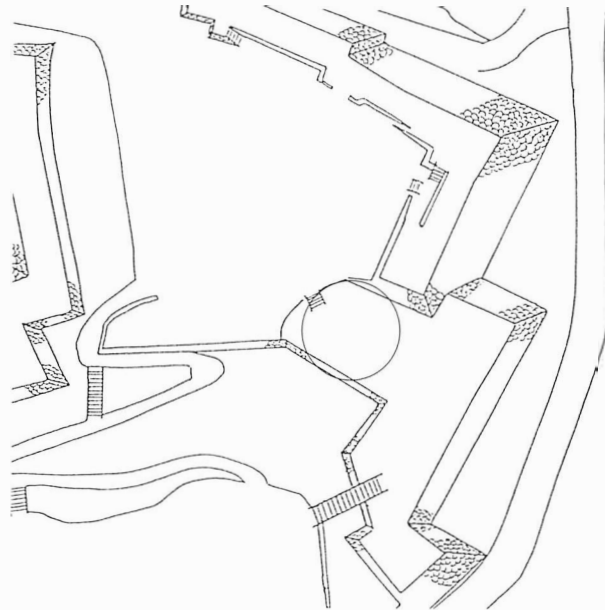


図34 勝手門周辺調査位置図

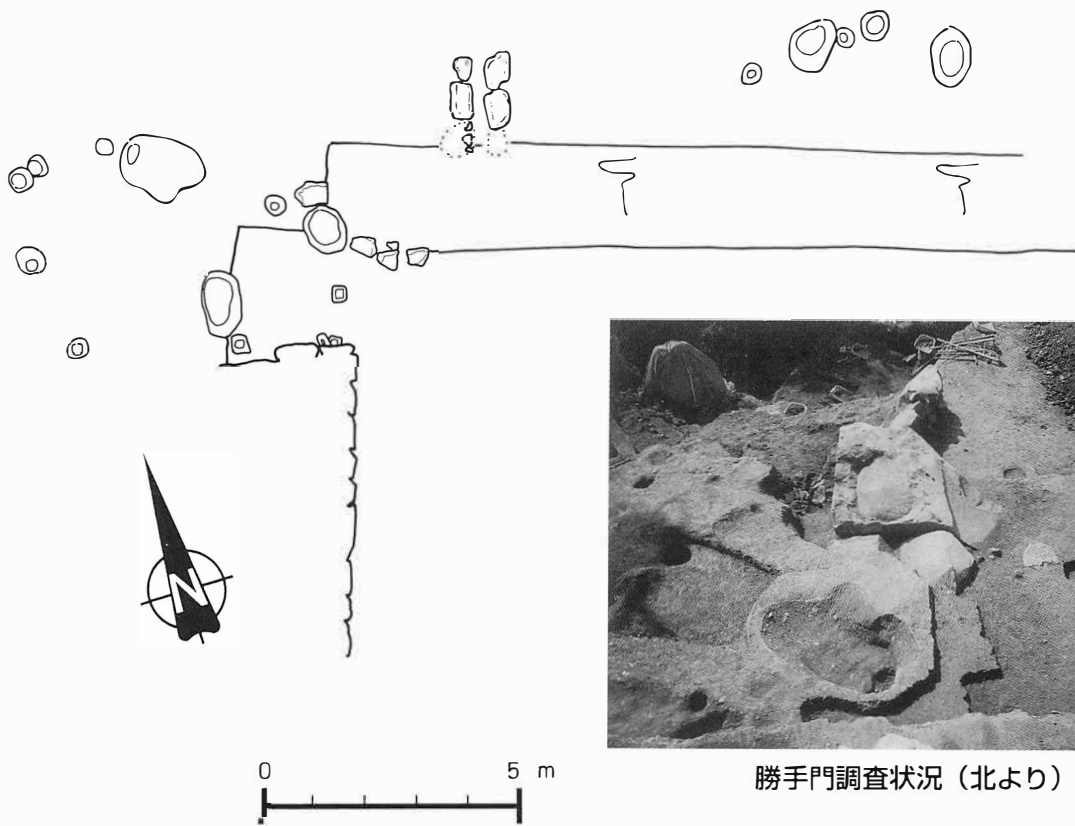


図35 勝手門周辺実測図

## 数寄屋曲輪

数寄屋曲輪の勝手門南東を人力にて掘削調査中に、土坑のプラン2基と焼土・炭化物の集中を平面的に確認し周辺の精査を実施した。土坑については半裁作業を、焼土・炭化物については分布範囲の確認作業を実施した。土坑については、平面プランで2基が確認され、南側を土坑1、北側を土坑2とした。

周辺からは以下のような遺物が検出されており、甲府城内での出土状況としては特殊性が伺える。出土状況から見て、関西を中心に事例が見られる地鎮祭（大土公祭）との関連が指摘できる。

(土坑1) 大きさは、長軸0.7m短軸0.54m深さ0.32mを測る。覆土中からは、かわらけ2個体が出土し、1個体は逆位であった。出土位置は土坑底部から若干上がったレベルである。また、覆土には焼土・炭化材が多量に混入している。

(土坑2) 大きさは、長軸0.7m短軸0.54m深さ0.32mを計る。覆土中からは、かわらけ片が集中的に出土しているが、土坑覆土と周辺に散在して分布する傾向にある。瓦については大形円形飾瓦（図51）が出土している。

また、覆土には焼土・炭化材が多量に混入している。

なお、遺構としては捕らえられなかったが、集中の状況から土坑2の北側に土坑3があった可能性が伺える。

(獣骨) 土坑1の覆土中の北壁からは獣骨の関節と思われる小骨片が出土している。被熱の痕跡などは認められていない。種別は明確にできなかったが豚やイノシシなどで、小～中型の大きさと推測される。

城内から獣骨が出土することはあるが、攪乱からであることが多く、土坑などの遺構に伴って出土した事例は極めて少ない。

(焼土・炭化物焼) 土・炭化物の集中範囲は、おおむね土坑1・2と重なる傾向が読み取れる。集中範囲には、粒径3mm以下の炭化物が多量だが、径1cm以上のものも多い。

焼土については、硬化面などは認められず、赤色に変化した土壌と焼土塊が土坑とその周辺で検出された。状況から判断して、恒常的に火を使用したというよりは1回から数回程度使用した様相がうかがえる。

(大型円形丸瓦) 土坑並びに焼土・炭化物分布範囲から大型円形飾瓦が出土している。出土状況は石切場の岩の間に入り込むように、概ね1～2mの範囲に纏まって分布しており、垂直分布を見ても出土レベルに大きな差はない。また、土坑2覆土中からも出土している。出土品には金箔は確認されていないが、分析の結果、表面に漆が認められたため、本来は金箔が施されたいと考えられる。

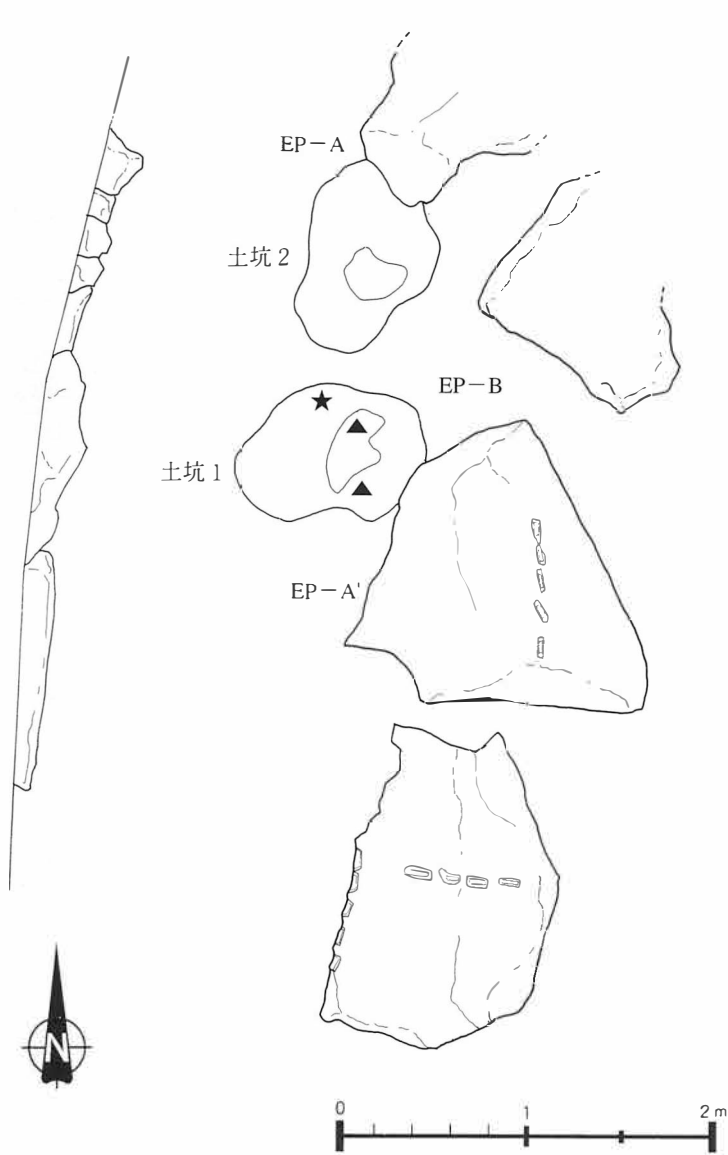
なお、個体数については2個体分がほぼ接合しているが、破片資料から最低3個体あるようである。

(土器類) 土坑周辺及び周辺石切場にかわらけが散在して出土している。出土範囲はやや広く土坑群に北側で特に多いが、土坑にも重なって分布する傾向が読み取れる。出土品は破片が圧倒的に多く、個体として推定できるものはほとんどないである。時期については16世紀末～17世紀初頭と考えられる。

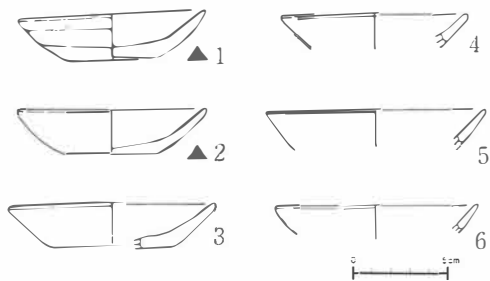
また、内耳土器も数片であるが出土している。城内で内耳土器の出土事例はなく、築城以前の一蓮寺に関係する遺物か地鎮祭の際に使用された煮沸具とも考えられる。

(線刻画) 詳細については、第5章を参照されたい。土坑を周辺の石切場石材には多くの線刻画が確認されている。これら土坑を中心とした遺物の集中範囲と線刻画の相関性は明確ではないが、線刻画の持つ意味と、地鎮祭の痕跡と仮定した場合の両者の関係は興味深い。

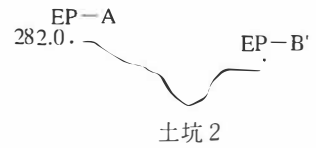
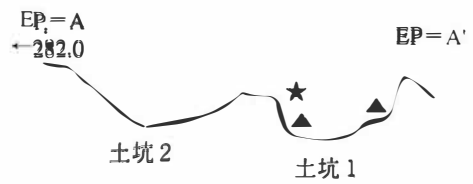




数寄屋曲輪遺物集中範囲詳細図  
 (☆：獣骨片・▲完形・大形土器片)



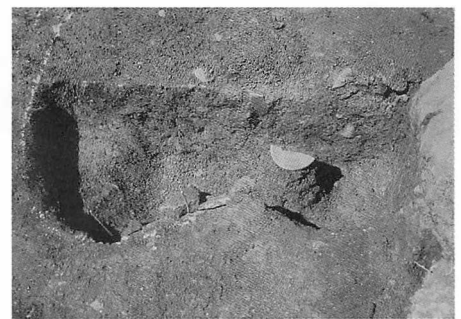
出土遺物実測図



土坑エレベーション図



周辺調査風景 (東南より)



土坑1半截状況 (南より)



土坑2完掘・出土状況 (南より)



瓦溜検出状況（北より）



根石検出状況（東より）



瓦溜堆積状況（北より）



根石除去後状況（東より）



勝手門・数寄屋曲輪調査状況



数寄屋曲輪検出状況

## 第6節 中の門

中の門は、天守曲輪と台所曲輪の間にある門である。『樂只堂年録』によると「中の門元ハ武具蔵前矢来門」とあり、柳沢吉保の時から中の門と呼ばれるようになった。中の門階段下の調査は、当該箇所石垣の解体後に行った。石垣の根石の内側に、根石と平行する石列が検出された。解体された石垣は、江戸時代後期のものと考えられ、検出された石列は江戸時代初期の石垣の一部だと推測される。もとあった石垣が崩れたために、外側に新しく積み直したと考えられる。また、通路をはさんだ反対側でも石列を確認している。その地点から、かなり広範囲にわたって瓦層が認められた。瓦層は一部調査したが、整備工事の関係から、今回は石列の調査だけに止めた。

それから、昨年度の調査で、中の門北側の解体された石垣の裏盛土中から金箔桐紋飾瓦が出土した。継続して調査したところ、地山と盛土の境から、浅野時代の瓦が裏込め石の代わりに用いられている状態で検出された。その中より、金箔鬼飾瓦も出土した。盛土すべての調査は、上部の石垣に謝恩碑が載っており、危険性が高いため、行うことができなかった。

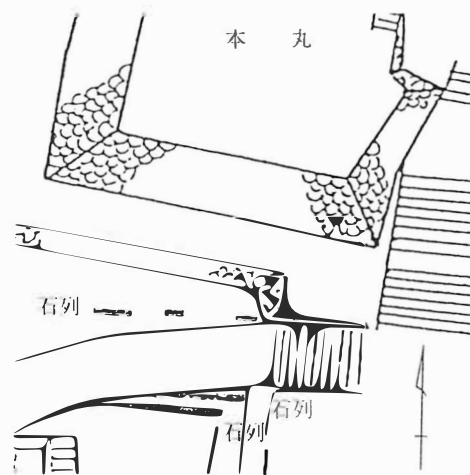


図38 中の門調査位置図

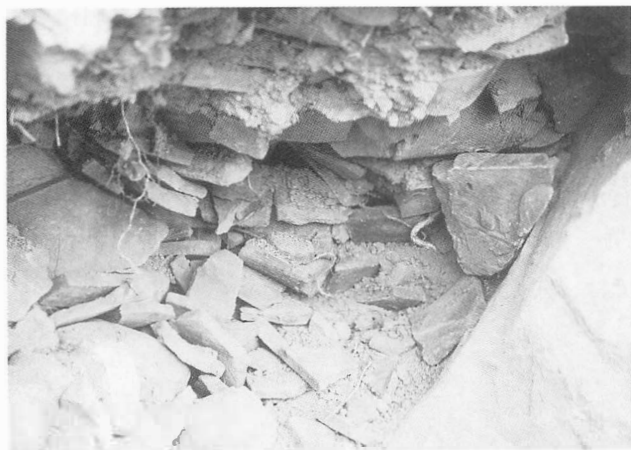


図39 中の門瓦層検出状況



図40 中の門石列検出状況



図41 中の門作業図景

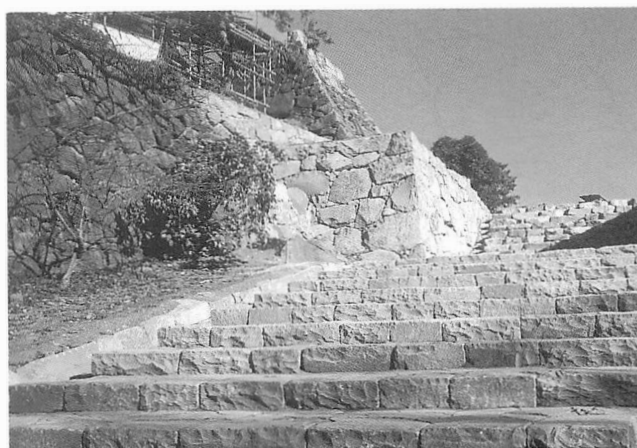


図42 中の門階段施行後

## 第3章 石材調査

### 第1節 調査概要

今回も、調査初年度から続けられている石材調査を行った。この調査の目的は、甲府城に特徴的な穴太積みの技術の解明と、石垣の修復・復元の資料にするといった点におかれている。今報告では、本丸北、数寄屋勝手門付近、数寄屋曲輪、稲荷曲輪相坂の石垣について報告することにしたい。

穴太積みの特徴は、

- ①自然石あるいは粗割石をほとんど加工せず積み石として使用する。
- ②積み石の石尻を極端に下げずに、控えを大きくとる。
- ③巨石を随所に配し、数石の高さで布積みがみられる。
- ④角石には算木積みが明確にみられない。

(『甲府城Ⅰ』より)

が挙げられる。

解体された石垣の石は原則として、元に戻すことにしている。石材の調査方法は、前回までと同様で、解体される予定の石垣を写真測量し、立面図を作成した。また、解体前にサクラソリッドマーカで解体予定の石材に番付をした。解体中に一つ一つ石材の重さをクレーンのデジタルメーターで量った。それから、クレーンで釣り出した後、コンベックスなどを用い、5cm単位で、縦、横、控えの長さを計測した。同時に、矢穴のある石については、その大きさも測った。矢穴の大きさで、石材を切り出した時期がある程度知ることができる。その数値を、表などにメモしていく。但し、解体作業中、石材が割れた場合は、その石材は計測不能とした。また、0.2t未満はクレーンの計器の都合上、正確な数値が計測できない。計測作業と並行で、解体作業に立ち会い、写真と8ミリビデオによって、解体作業の様子や裏盛土の状態を記録をした。

だが、石材調査にも問題が存在する。一つ目には石の計測作業は極めて危険だということである。解体工事と平行に行われる。安全を確保するために工事サイドとの打ち合わせを行う。しかし、調査者は計測には十分注意を払う必要がある。二つ目は先にも述べたが、石が割れたり、クレーンのメーターの性能によって、石の重量に誤差が生じるといったことである。

これら幾つかの問題は含んでいるものの、現段階では、穴太積みの技術の解明といった点から、こうした石材調査は必要なことである。

本丸腰石垣No.7

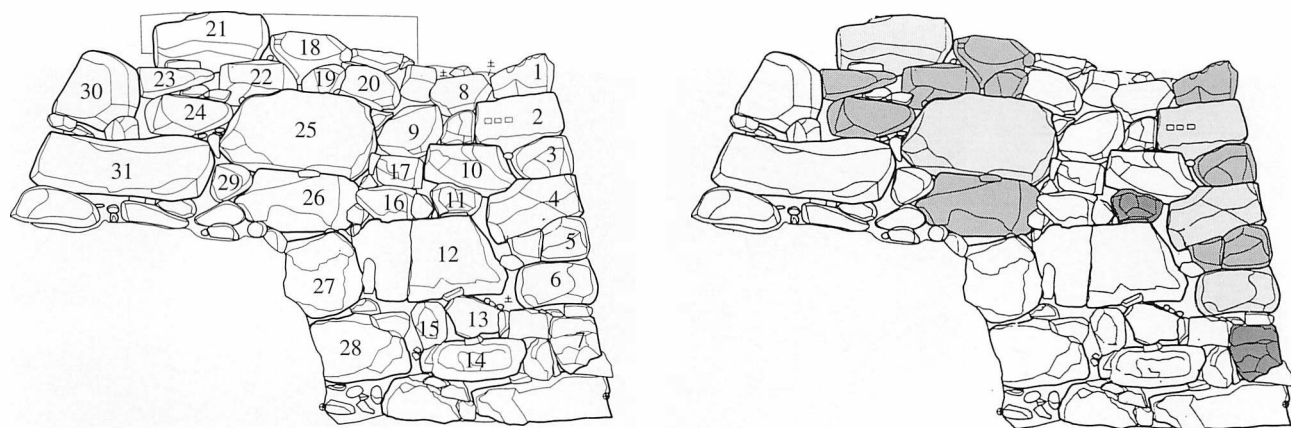


図43 本丸腰石垣石材分布図



本丸北石垣No. 4

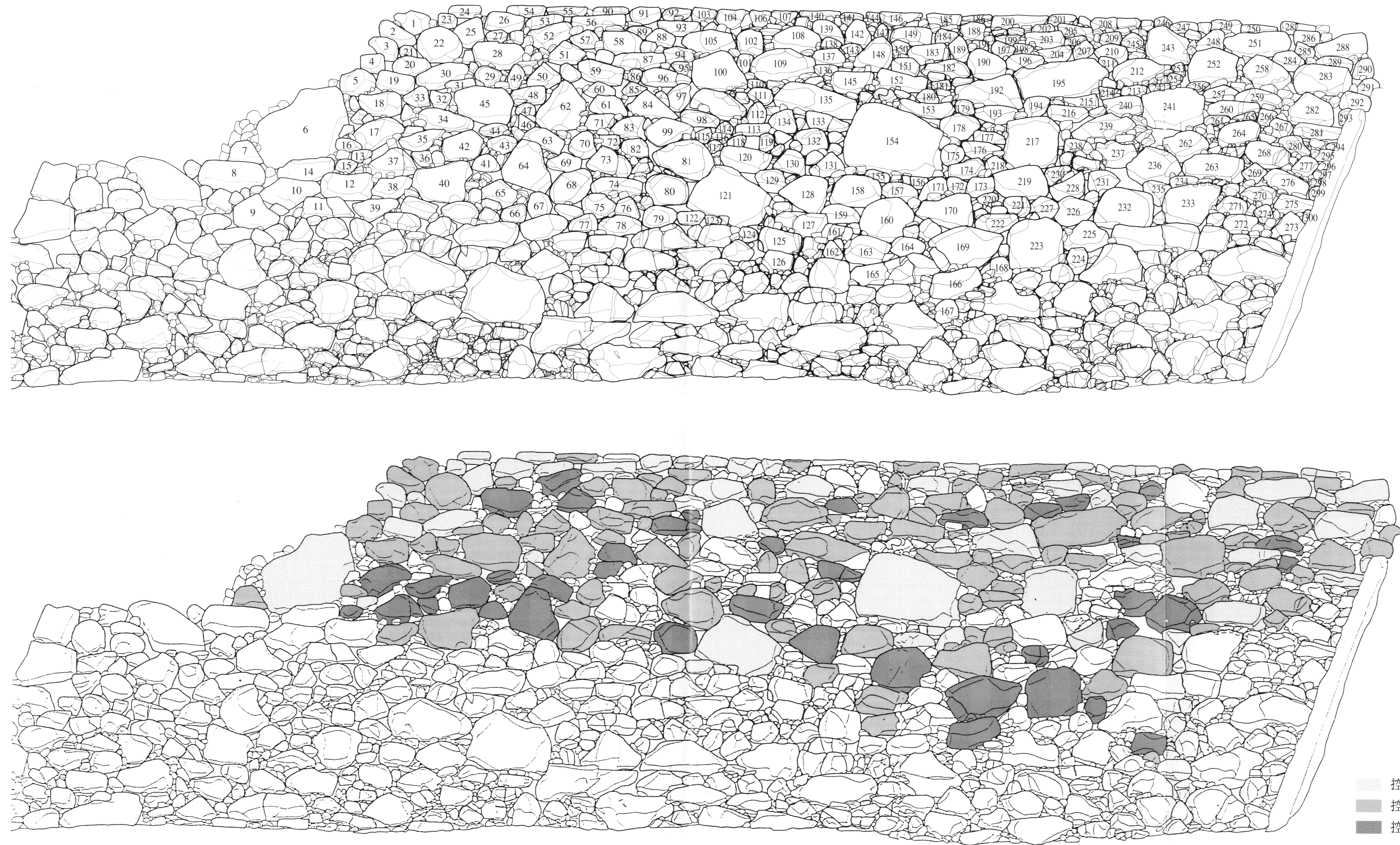
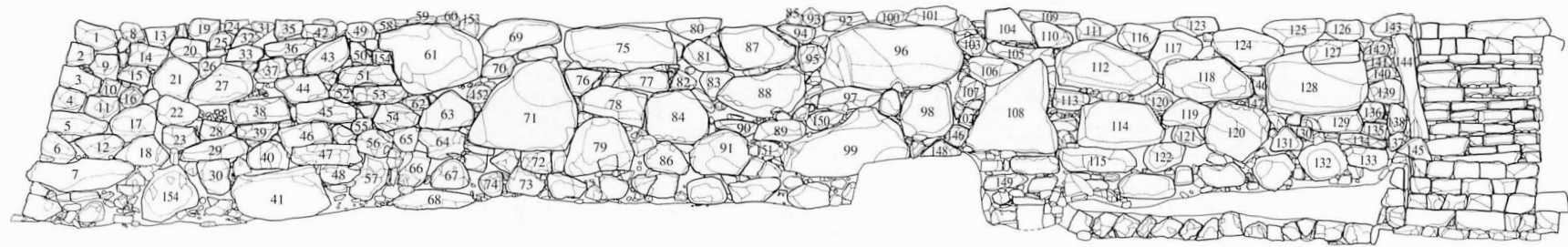
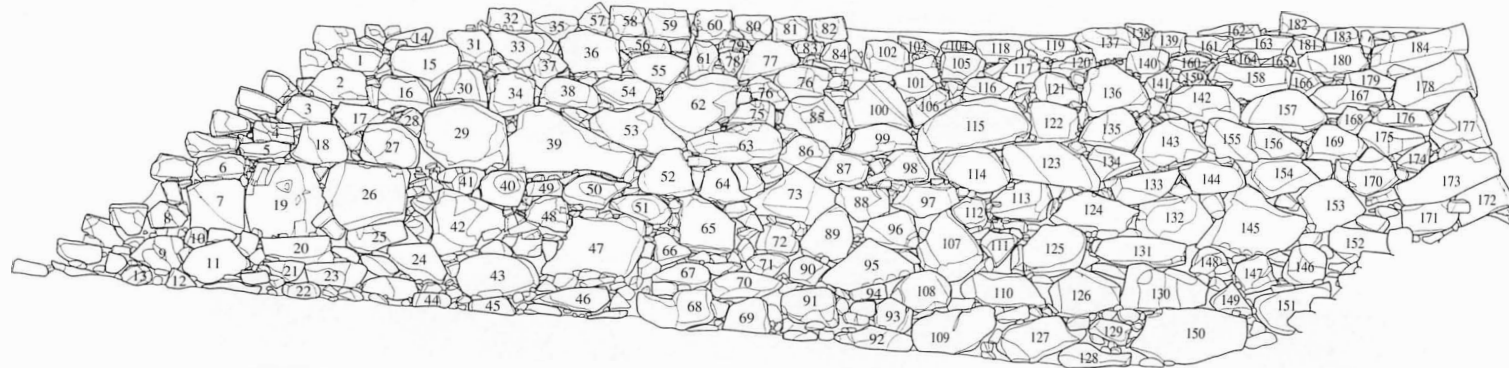


图44 本丸北石垣石材分布图

本丸北腰石垣No. 8



稻荷曲輪No.20



稻荷曲輪No.21

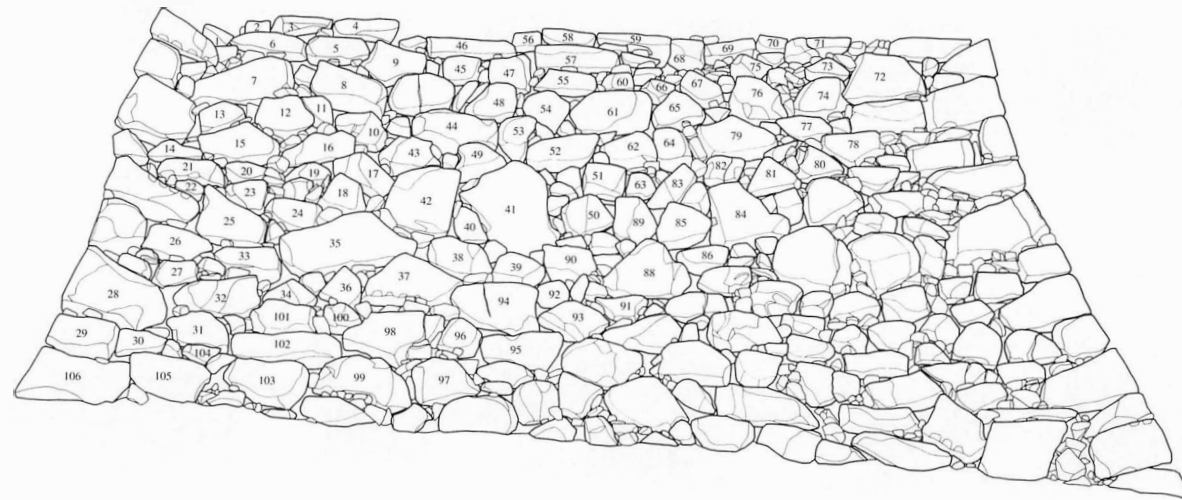
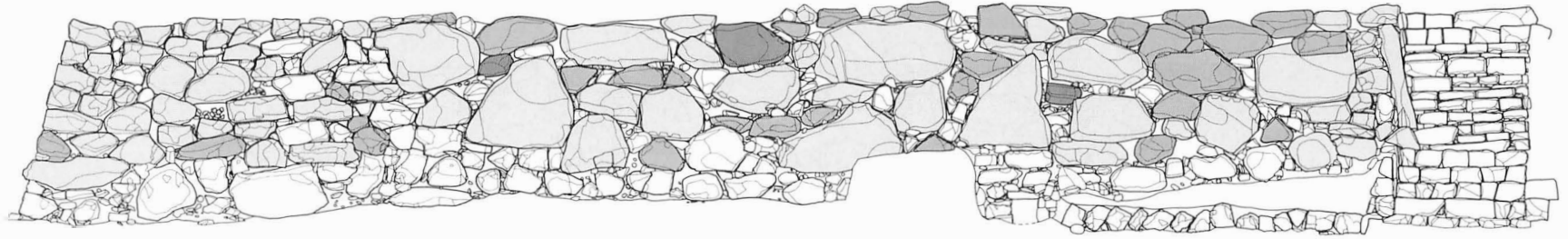
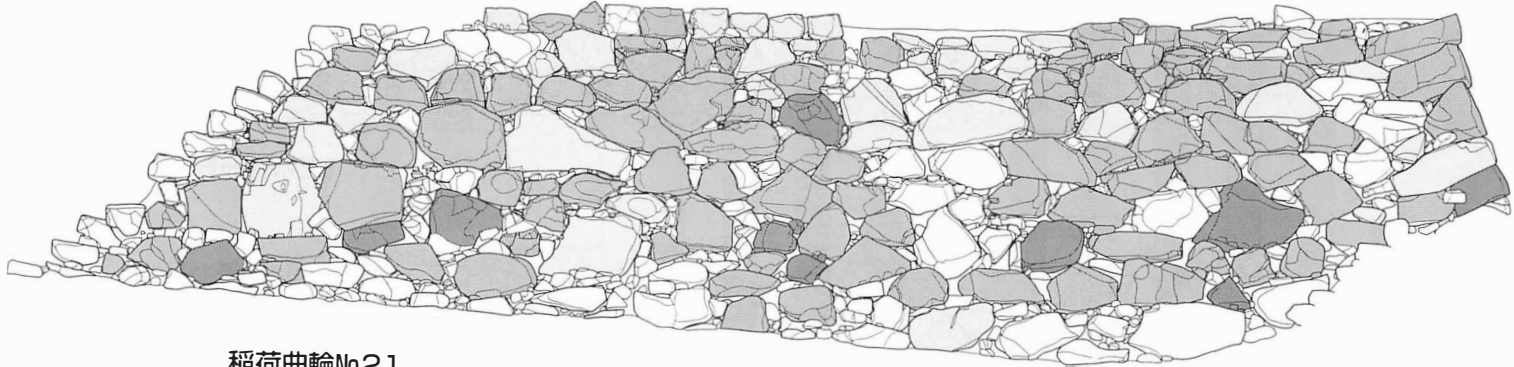


图45 本丸北腰石垣・稻荷曲輪東腰石垣石材分布图

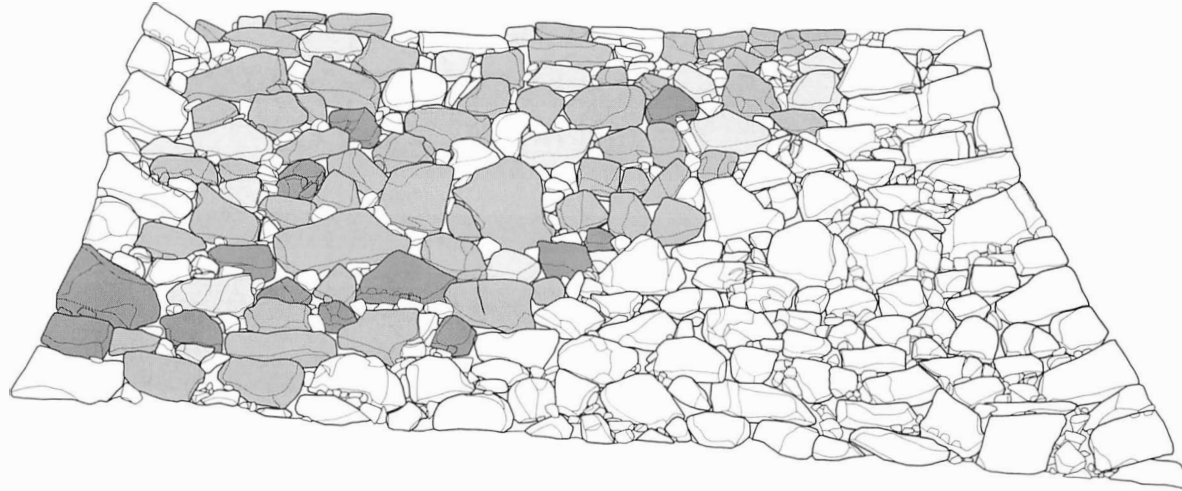
本丸北腰石垣No. 8



稻荷曲輪No.20



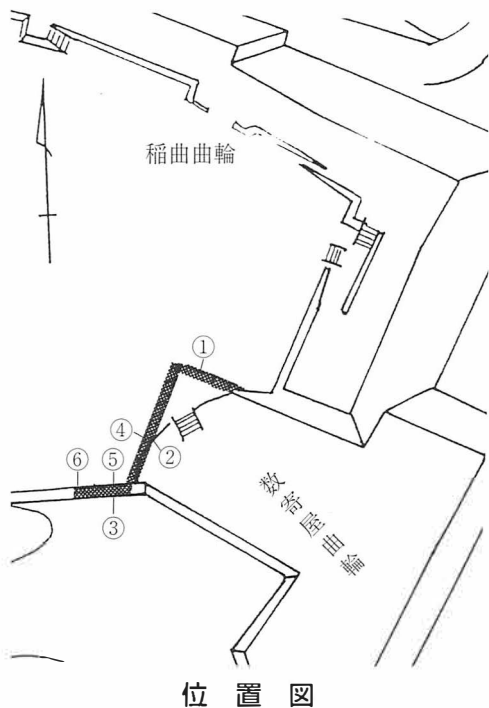
稻荷曲輪No.21



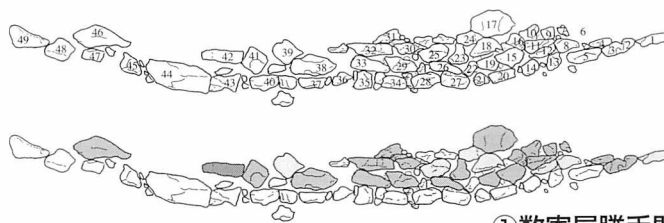
- 控 100cm以上
- 控 50cm以上
- 控 50cm以下

图46 本丸北腰石垣・稻荷曲輪東腰石垣石材分布图

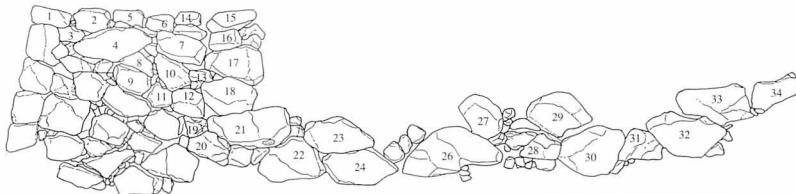




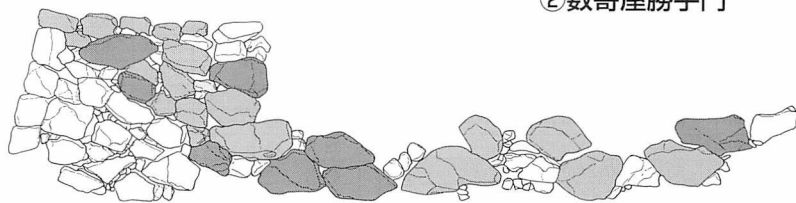
位置图



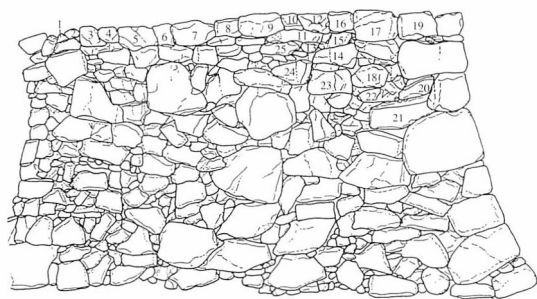
①数寄屋勝手門東石垣



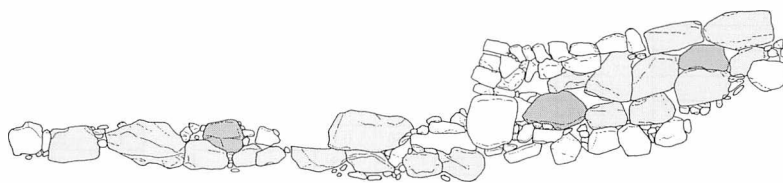
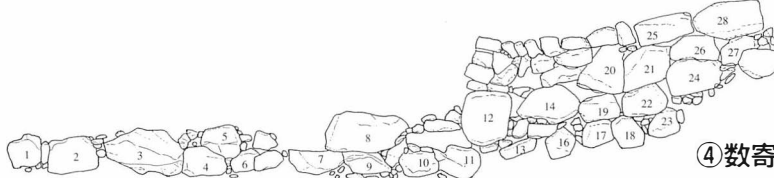
②数寄屋勝手門



③稻荷曲輪南石垣



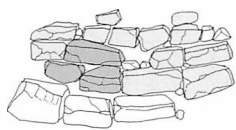
④数寄屋勝手門腰石垣



⑥稻荷曲輪北面腰石垣



⑦稻荷階段



控 100cm以上  
 控 50cm以上  
 控 50cm以下

图47 数寄屋勝手門周辺石垣・稻荷曲輪南石垣・腰石垣石材分布图

石材調査表

本丸北腰石垣 No.8

| No | 縦   | 横   | 控   | 重さ   | 矢         | 穴 |
|----|-----|-----|-----|------|-----------|---|
| 1  | 35  | 70  | 45  | 0.2  |           |   |
| 2  | 35  | 65  | 40  | 0.2  |           |   |
| 3  | 30  | 60  | 40  | 0.15 |           |   |
| 4  | 40  | 75  | 45  | 0.15 |           |   |
| 5  | 35  | 80  | 35  | 0.1  |           |   |
| 6  | 35  | 65  | 60  | 0.1  |           |   |
| 7  | 50  | 160 | 35  |      |           |   |
| 8  | 25  | 40  | 40  |      |           |   |
| 9  | 30  | 45  | 40  | 0.1  |           |   |
| 10 | 30  | 50  | 30  |      |           |   |
| 11 | 25  | 25  | 35  |      |           |   |
| 12 | 30  | 45  | 30  | 0.1  |           |   |
| 13 | 30  | 50  | 40  | 0.1  |           |   |
| 14 | 30  | 55  | 30  | 0.1  |           |   |
| 15 | 35  | 50  |     |      |           |   |
| 16 | 25  | 20  | 30  |      |           |   |
| 17 | 60  | 40  | 50  | 0.2  |           |   |
| 18 | 30  | 20  | 30  | 0.15 |           |   |
| 19 | 30  | 50  | 40  | 0.1  |           |   |
| 20 | 30  | 55  | 30  | 0.15 |           |   |
| 21 | 60  | 50  | 40  | 0.1  |           |   |
| 22 | 40  | 40  | 45  | 0.15 |           |   |
| 23 | 20  | 40  | 30  |      |           |   |
| 24 | 25  | 35  | 25  |      |           |   |
| 25 | 25  | 35  | 25  |      |           |   |
| 26 | 35  | 35  | 45  |      |           |   |
| 27 | 45  | 85  | 30  | 0.2  |           |   |
| 28 | 30  | 55  | 45  |      |           |   |
| 29 | 35  | 95  | 55  | 0.2  |           |   |
| 30 | 50  | 50  |     |      |           |   |
| 31 | 15  | 35  | 40  |      |           |   |
| 32 | 40  | 25  | 30  |      |           |   |
| 33 | 25  | 55  | 35  | 0.1  |           |   |
| 34 | 35  | 50  |     |      |           |   |
| 35 | 20  | 45  | 45  | 0.1  |           |   |
| 36 | 30  | 80  |     |      |           |   |
| 37 | 35  | 40  | 40  |      |           |   |
| 38 | 35  | 40  | 35  |      |           |   |
| 39 | 25  | 55  | 35  |      |           |   |
| 40 | 40  | 50  | 40  | 0.1  |           |   |
| 41 | 80  | 140 |     |      |           |   |
| 42 | 20  | 40  | 40  |      | (6×4×6.5) |   |
| 43 | 40  | 70  | 45  | 0.25 |           |   |
| 44 | 40  | 75  |     |      |           |   |
| 45 | 30  | 60  | 45  | 0.15 |           |   |
| 46 | 30  | 80  |     |      |           |   |
| 47 | 35  | 65  | 50  | 0.2  |           |   |
| 48 | 25  | 60  |     |      |           |   |
| 49 | 40  | 25  | 30  |      |           |   |
| 50 | 30  | 30  |     |      |           |   |
| 51 | 30  | 90  |     |      |           |   |
| 52 | 25  | 35  | 70  | 0.15 |           |   |
| 53 | 25  | 75  | 50  | 0.15 |           |   |
| 54 | 40  | 70  |     |      |           |   |
| 55 | 15  | 30  | 60  |      |           |   |
| 56 | 30  | 45  | 65  |      |           |   |
| 57 | 60  | 60  |     |      |           |   |
| 58 | 20  | 30  | 25  |      |           |   |
| 59 | 10  | 40  | 30  |      |           |   |
| 60 | 15  | 25  | 60  |      |           |   |
| 61 | 100 | 135 | 70  | 0.7  |           |   |
| 62 | 30  | 40  |     |      |           |   |
| 63 | 45  | 65  | 30  | 0.1  |           |   |
| 64 | 40  | 80  |     |      |           |   |
| 65 | 35  | 40  |     |      |           |   |
| 66 | 55  | 60  |     |      |           |   |
| 67 | 40  | 60  |     |      |           |   |
| 68 | 30  | 120 |     |      |           |   |
| 69 | 50  | 110 | 75  | 0.5  |           |   |
| 70 | 20  | 40  | 110 | 0.2  |           |   |
| 71 | 140 | 140 | 20  | 0.8  |           |   |
| 72 | 35  | 45  |     |      |           |   |

| No  | 縦   | 横   | 控   | 重さ   | 矢         | 穴 |
|-----|-----|-----|-----|------|-----------|---|
| 73  | 40  | 60  |     |      |           |   |
| 74  | 35  | 30  |     |      |           |   |
| 75  | 65  | 150 | 30  | 0.9  |           |   |
| 76  | 30  | 50  | 60  | 0.15 |           |   |
| 77  | 25  | 65  | 60  | 0.1  |           |   |
| 78  | 50  | 80  | 40  | 0.5  |           |   |
| 79  | 80  | 90  | 30  | 0.5  |           |   |
| 80  | 20  | 70  | 45  | 0.2  |           |   |
| 81  | 30  | 35  | 40  |      |           |   |
| 82  | 40  | 35  | 70  | 0.2  |           |   |
| 83  | 40  | 45  |     |      |           |   |
| 84  | 75  | 85  | 50  | 0.8  |           |   |
| 85  | 欠   |     |     |      |           |   |
| 86  | 40  | 55  | 55  | 0.15 |           |   |
| 87  | 70  | 110 | 100 | 0.9  |           |   |
| 88  | 50  | 120 | 30  | 0.5  | 13×10×6.5 |   |
| 89  | 25  | 60  | 60  | 0.2  | 14×10×7   |   |
| 90  | 20  | 50  | 80  | 0.1  |           |   |
| 91  | 65  | 85  |     |      |           |   |
| 92  | 15  | 55  | 65  | 0.15 |           |   |
| 93  | 15  | 20  | 30  |      |           |   |
| 94  | 25  | 25  | 60  |      |           |   |
| 95  | 40  | 30  | 45  | 0.1  |           |   |
| 96  | 90  | 200 | 30  |      |           |   |
| 97  | 25  | 70  | 40  | 0.2  |           |   |
| 98  | 70  | 70  | 40  | 0.5  |           |   |
| 99  | 80  | 165 | 30  | 0.9  |           |   |
| 100 | 40  | 30  | 40  | 0.1  |           |   |
| 101 | 20  | 60  | 65  | 0.1  |           |   |
| 102 | 30  | 20  |     |      |           |   |
| 103 | 30  | 35  |     |      |           |   |
| 104 | 50  | 65  | 55  | 0.2  |           |   |
| 105 | 25  | 40  | 50  |      |           |   |
| 106 | 30  | 55  | 95  | 0.3  |           |   |
| 107 | 40  | 35  | 55  | 0.3  |           |   |
| 108 | 110 | 110 | 20  | 1.0  |           |   |
| 109 | 25  | 90  | 25  |      |           |   |
| 110 | 40  | 45  | 40  | 0.1  |           |   |
| 111 | 35  | 50  | 55  | 0.2  |           |   |
| 112 | 80  | 145 | 50  | 0.85 |           |   |
| 113 | 15  | 45  | 100 | 0.2  |           |   |
| 114 | 70  | 95  | 35  | 0.2  |           |   |
| 115 | 40  | 90  | 50  | 0.4  |           |   |
| 116 | 40  | 45  | 55  | 0.15 |           |   |
| 117 | 40  | 65  | 65  | 0.3  |           |   |
| 118 | 60  | 120 | 65  | 0.5  |           |   |
| 119 | 30  | 70  | 65  | 0.2  |           |   |
| 120 | 25  | 35  | 20  |      |           |   |
| 121 | 45  | 25  | 45  |      |           |   |
| 122 | 45  | 35  | 75  | 0.55 |           |   |
| 123 | 25  | 30  | 65  | 0.1  |           |   |
| 124 | 60  | 100 | 60  | 0.4  |           |   |
| 125 | 25  | 75  | 75  | 0.3  |           |   |
| 126 | 20  | 50  | 50  | 0.1  |           |   |
| 127 | 25  | 75  | 85  | 0.4  |           |   |
| 128 | 75  | 140 | 50  | 1.0  |           |   |
| 129 | 30  | 50  | 40  | 0.1  |           |   |
| 130 | 30  | 30  |     |      |           |   |
| 131 | 35  | 35  | 90  | 0.2  |           |   |
| 132 | 20  | 30  | 20  |      |           |   |
| 133 | 30  | 50  | 35  |      |           |   |
| 134 | 15  | 65  | 30  |      |           |   |
| 135 | 20  | 30  | 20  |      |           |   |
| 136 | 20  | 30  | 35  |      |           |   |
| 137 | 20  | 25  | 35  |      |           |   |
| 138 | 45  | 30  |     |      |           |   |
| 139 | 35  | 45  | 25  |      |           |   |
| 140 | 15  | 45  | 35  |      |           |   |
| 141 | 15  | 40  | 25  | 0.5  |           |   |
| 142 | 25  | 30  | 50  |      |           |   |
| 143 | 25  | 45  | 30  |      |           |   |
| 144 | 160 | 25  | 40  |      |           |   |

| No  | 縦  | 横  | 控  | 重さ   | 矢 | 穴 |
|-----|----|----|----|------|---|---|
| 145 | 35 | 70 | 35 | 0.15 |   |   |
| 146 | 30 | 15 |    |      |   |   |
| 147 | 15 | 25 |    |      |   |   |
| 148 | 45 | 55 | 80 | 0.4  |   |   |
| 149 | 欠  |    |    |      |   |   |
| 150 | 25 | 40 | 95 |      |   |   |

本丸腰石垣 No.7

| No | 縦  | 横   | 控   | 重さ   | 矢 | 穴 |
|----|----|-----|-----|------|---|---|
| 1  | 30 | 50  | 60  |      |   |   |
| 2  | 35 | 70  | 40  |      |   |   |
| 3  | 35 | 50  | 65  |      |   |   |
| 4  | 40 | 70  | 50  |      |   |   |
| 5  | 35 | 35  | 90  |      |   |   |
| 6  | 35 | 65  | 45  |      |   |   |
| 7  | 40 | 40  | 145 |      |   |   |
| 8  | 35 | 30  |     |      |   |   |
| 9  | 40 | 50  |     |      |   |   |
| 10 | 70 | 60  |     |      |   |   |
| 11 | 45 | 60  | 120 | 0.7  |   |   |
| 12 | 70 | 110 |     |      |   |   |
| 13 | 30 | 50  |     |      |   |   |
| 14 | 40 | 80  |     |      |   |   |
| 15 | 40 | 30  |     |      |   |   |
| 16 | 30 | 45  |     |      |   |   |
| 17 | 30 | 40  |     |      |   |   |
| 18 | 20 | 65  | 65  | 0.1  |   |   |
| 19 | 25 | 20  | 90  |      |   |   |
| 20 | 30 | 40  |     |      |   |   |
| 21 | 30 | 80  | 35  | 0.2  |   |   |
| 22 | 25 | 45  | 95  | 0.2  |   |   |
| 23 | 25 | 25  | 70  | 0.25 |   |   |
| 24 | 25 | 55  | 60  | 0.1  |   |   |
| 25 | 35 | 130 | 50  | 0.7  |   |   |
| 26 | 35 | 80  | 70  | 0.4  |   |   |
| 27 | 70 | 60  |     |      |   |   |
| 28 | 50 | 70  |     |      |   |   |

稻荷曲輪 No.20

| No | 縦   | 横   | 控   | 重さ  | 矢 | 穴 |
|----|-----|-----|-----|-----|---|---|
| 1  | 50  | 60  | 60  | 0.2 |   |   |
| 2  | 45  | 70  | 80  | 0.4 |   |   |
| 3  | 35  | 50  | 50  | 0.2 |   |   |
| 4  | 70  | 110 | 50  | 0.9 |   |   |
| 5  | 30  | 70  | 60  | 0.1 |   |   |
| 6  | 35  | 70  | 50  | 0.2 |   |   |
| 7  | 75  | 80  | 70  | 0.4 |   |   |
| 8  | 40  | 50  | 70  | 0.1 |   |   |
| 9  | 50  | 60  | 80  | 0.3 |   |   |
| 10 | 25  | 25  |     |     |   |   |
| 11 | 50  | 75  | 100 | 0.9 |   |   |
| 12 | 25  | 30  |     |     |   |   |
| 13 | 30  | 30  | 60  |     |   |   |
| 14 | 20  | 65  | 70  | 0.1 |   |   |
| 15 | 55  | 90  | 50  | 0.3 |   |   |
| 16 | 35  | 65  | 60  | 0.3 |   |   |
| 17 | 40  | 70  | 50  | 0.3 |   |   |
| 18 | 55  | 60  | 50  | 0.2 |   |   |
| 19 | 100 | 110 | 50  | 0.9 |   |   |
| 20 | 35  | 90  | 90  | 0.7 |   |   |
| 21 | 30  | 60  | 90  | 0.1 |   |   |
| 22 | 20  | 50  |     |     |   |   |
| 23 | 30  | 80  |     |     |   |   |
| 24 | 50  | 90  | 90  | 0.6 |   |   |
| 25 | 40  | 90  | 140 | 0.6 |   |   |
| 26 | 90  | 110 | 60  | 1.1 |   |   |
| 27 | 45  | 70  | 60  | 0.1 |   |   |
| 28 | 25  | 30  |     |     |   |   |
| 29 | 90  | 120 | 60  | 0.8 |   |   |
| 30 | 50  | 70  | 70  | 0.3 |   |   |
| 31 | 50  | 45  | 70  | 0.2 |   |   |
| 32 | 30  | 60  | 50  |     |   |   |

| No  | 縦  | 横   | 控   | 長さ  | 矢 穴 |
|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| 33  | 50 | 75  | 110 | 0.5 |     |
| 34  | 55 | 55  | 70  | 0.4 |     |
| 35  | 30 | 60  | 60  | 0.1 |     |
| 36  | 75 | 60  | 40  | 0.3 |     |
| 37  | 40 | 50  | 45  | 0.1 |     |
| 38  | 40 | 70  | 65  | 0.4 |     |
| 39  | 90 | 170 | 40  | 1.4 |     |
| 40  | 50 | 55  | 80  | 0.3 |     |
| 41  | 35 | 55  |     |     |     |
| 42  | 80 | 130 | 120 | 1.3 |     |
| 43  | 70 | 110 | 70  | 0.8 |     |
| 44  | 20 | 40  |     |     |     |
| 45  | 25 | 55  |     |     |     |
| 46  | 35 | 95  |     |     |     |
| 47  | 70 | 100 | 50  | 1.1 |     |
| 48  | 50 | 50  |     |     |     |
| 49  | 20 | 50  | 60  |     |     |
| 50  | 40 | 90  | 55  | 0.4 |     |
| 51  | 40 | 80  | 50  | 0.3 |     |
| 52  | 60 | 65  | 80  |     |     |
| 53  | 60 | 120 | 80  | 0.8 |     |
| 54  | 50 | 75  | 75  | 0.3 |     |
| 55  | 45 | 80  | 55  | 0.2 |     |
| 56  | 25 | 65  |     |     |     |
| 57  | 40 | 40  | 60  |     |     |
| 58  | 40 | 45  |     |     |     |
| 59  | 20 | 65  | 55  | 0.1 |     |
| 60  | 45 | 50  | 50  | 0.1 |     |
| 61  | 50 | 30  | 90  | 0.2 |     |
| 62  | 80 | 110 | 75  | 1.2 |     |
| 63  | 40 | 140 | 85  | 0.8 |     |
| 64  | 60 | 80  | 80  | 0.3 |     |
| 65  | 70 | 80  | 90  | 1.1 |     |
| 66  | 40 | 60  | 60  | 0.1 |     |
| 67  | 30 | 70  |     |     |     |
| 68  | 45 | 50  |     |     |     |
| 69  | 10 | 30  | 90  | 0.2 |     |
| 70  | 25 | 85  | 75  | 0.2 |     |
| 71  | 30 | 80  | 90  | 0.3 |     |
| 72  | 60 | 70  | 110 | 0.3 |     |
| 73  | 75 | 95  | 75  | 0.8 |     |
| 74  | 欠  |     |     |     |     |
| 75  | 30 | 50  | 65  | 0.3 |     |
| 76  | 40 | 80  | 60  | 0.2 |     |
| 77  | 50 | 70  | 20  | 0.1 |     |
| 78  | 30 | 30  | 90  | 0.1 |     |
| 79  | 15 | 35  | 75  |     |     |
| 80  | 35 | 50  |     |     |     |
| 81  | 30 | 40  | 35  |     |     |
| 82  | 40 | 35  | 50  |     |     |
| 83  | 20 | 40  | 50  |     |     |
| 84  | 40 | 40  | 60  | 0.1 |     |
| 85  | 50 | 80  | 110 | 0.7 |     |
| 86  | 50 | 50  | 75  | 0.2 |     |
| 87  | 50 | 55  | 90  | 0.3 |     |
| 88  | 60 | 75  | 75  | 0.4 |     |
| 89  | 75 | 70  | 55  | 0.5 |     |
| 90  | 40 | 60  | 110 | 0.3 |     |
| 91  | 70 | 90  | 65  | 0.6 |     |
| 92  | 30 | 100 |     |     |     |
| 93  | 40 | 50  |     |     |     |
| 94  | 20 | 40  |     |     |     |
| 95  | 80 | 90  | 60  | 0.6 |     |
| 96  | 50 | 70  | 80  | 0.4 |     |
| 97  | 45 | 80  |     |     |     |
| 98  | 40 | 55  |     |     |     |
| 99  | 45 | 100 | 50  | 0.2 |     |
| 100 | 60 | 80  | 30  | 0.3 |     |
| 101 | 40 | 55  | 60  | 0.2 |     |
| 102 | 40 | 80  | 85  | 0.4 |     |
| 103 | 15 | 60  | 50  |     |     |
| 104 | 15 | 50  | 40  |     |     |
| 105 | 35 | 55  | 50  |     |     |
| 106 | 35 | 40  |     |     |     |
| 107 | 欠  |     |     |     |     |

| No  | 縦  | 横   | 控   | 長さ  | 矢 穴 |
|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| 108 | 45 | 80  | 60  | 0.3 |     |
| 109 | 65 | 80  | 50  | 0.4 |     |
| 110 | 50 | 95  | 70  | 0.6 |     |
| 111 | 50 | 40  |     |     |     |
| 112 | 35 | 40  |     |     |     |
| 113 | 70 | 110 | 85  | 0.6 |     |
| 114 | 65 | 90  |     |     |     |
| 115 | 65 | 150 | 35  | 0.7 |     |
| 116 | 30 | 60  | 70  | 0.3 |     |
| 117 | 25 | 50  | 45  | 0.1 |     |
| 118 | 30 | 60  | 45  | 0.1 |     |
| 119 | 25 | 70  | 50  |     |     |
| 120 | 20 | 60  | 75  | 0.1 |     |
| 121 | 60 | 50  | 75  | 0.3 |     |
| 122 | 55 | 60  | 80  | 0.4 |     |
| 123 | 60 | 120 | 55  | 0.7 |     |
| 124 | 50 | 90  | 65  | 0.4 |     |
| 125 | 60 | 80  | 100 | 0.5 |     |
| 126 | 60 | 90  |     |     |     |
| 127 | 50 | 85  |     |     |     |
| 128 | 35 | 90  |     |     |     |
| 129 | 30 | 50  |     |     |     |
| 130 | 60 | 110 | 75  | 0.6 |     |
| 131 | 40 | 110 | 85  | 0.8 |     |
| 132 | 60 | 95  |     |     |     |
| 133 | 45 | 90  | 60  | 0.2 |     |
| 134 | 40 | 80  | 90  | 0.4 |     |
| 135 | 60 | 80  | 45  | 0.2 |     |
| 136 | 75 | 70  | 90  | 0.6 |     |
| 137 | 25 | 80  | 70  | 0.2 |     |
| 138 | 20 | 55  | 70  | 0.1 |     |
| 139 | 25 | 40  | 65  | 0.2 |     |
| 140 | 40 | 50  | 70  | 0.2 |     |
| 141 | 30 | 35  | 95  | 0.2 |     |
| 142 | 55 | 85  | 60  | 0.5 |     |
| 143 | 60 | 90  | 80  | 0.4 |     |
| 144 | 50 | 90  | 80  | 0.3 |     |
| 145 | 95 | 125 | 120 | 1.1 |     |
| 146 | 60 | 60  | 90  | 0.5 |     |
| 147 | 50 | 50  | 80  | 0.4 |     |
| 148 | 40 | 55  | 85  | 0.3 |     |
| 149 | 40 | 45  | 100 | 0.3 |     |
| 150 | 70 | 130 |     |     |     |
| 151 | 70 | 100 | 70  | 0.8 |     |
| 152 | 25 | 110 | 80  | 0.4 |     |
| 153 | 75 | 70  | 55  | 0.4 |     |
| 154 | 50 | 90  | 60  | 0.5 |     |
| 155 | 55 | 70  | 65  | 0.3 |     |
| 156 | 40 | 70  | 60  | 0.2 |     |
| 157 | 55 | 100 | 40  | 0.4 |     |
| 158 | 30 | 90  | 60  | 0.4 |     |
| 159 | 25 | 35  | 65  | 0.1 |     |
| 160 | 15 | 40  | 20  |     |     |
| 161 | 25 | 55  | 65  | 0.1 |     |
| 162 | 15 | 90  | 50  | 0.1 |     |
| 163 | 25 | 80  | 90  | 0.2 |     |
| 164 | 20 | 20  | 15  |     |     |
| 165 | 30 | 90  | 60  | 0.4 |     |
| 166 | 15 | 40  | 20  |     |     |
| 167 | 45 | 95  |     |     |     |
| 168 | 40 | 50  | 55  |     |     |
| 169 | 60 | 70  | 90  | 0.5 |     |
| 170 | 70 | 60  | 90  | 0.5 |     |
| 171 | 50 | 80  | 60  | 0.4 |     |
| 172 | 50 | 80  | 130 | 0.7 |     |
| 173 | 50 | 135 | 35  | 0.6 |     |
| 174 | 50 | 80  | 60  | 0.4 |     |
| 175 | 40 | 80  | 75  | 0.3 |     |
| 176 | 25 | 70  | 70  | 0.3 |     |
| 177 | 75 | 60  | 80  | 0.7 |     |
| 178 | 60 | 110 |     |     |     |
| 179 | 25 | 70  | 40  | 0.1 |     |
| 180 | 30 | 70  | 50  | 0.2 |     |
| 181 | 20 | 50  | 50  |     |     |
| 182 | 30 | 55  |     |     |     |

| No  | 縦  | 横   | 控  | 長さ  | 矢 穴 |
|-----|----|-----|----|-----|-----|
| 183 | 25 | 50  | 60 | 0.2 |     |
| 184 | 35 | 140 | 85 | 0.8 |     |

本丸北 No.4

| No | 縦   | 横   | 控   | 長さ  | 矢 穴 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1  | 55  | 70  | 80  | 0.7 |     |
| 2  | 30  | 75  | 80  | 0.3 |     |
| 3  | 40  | 60  | 40  | 0.1 |     |
| 4  | 40  | 45  | 60  | 0.3 |     |
| 5  | 45  | 60  | 80  | 0.5 |     |
| 6  | 160 | 210 | 50  | 6.0 |     |
| 7  | 50  | 60  | 70  | 0.3 |     |
| 8  | 80  | 150 |     |     |     |
| 9  | 75  | 110 |     |     |     |
| 10 | 80  | 140 |     |     |     |
| 11 | 50  | 110 |     |     |     |
| 12 | 65  | 120 |     |     |     |
| 13 | 30  | 40  | 40  | 0.1 |     |
| 14 | 50  | 135 |     |     |     |
| 15 | 30  | 50  | 120 | 0.4 |     |
| 16 | 30  | 50  | 70  | 0.1 |     |
| 17 | 60  | 110 | 110 | 1.2 |     |
| 18 | 50  | 90  | 80  | 0.8 |     |
| 19 | 40  | 80  | 40  | 0.4 |     |
| 20 | 45  | 80  | 60  | 0.3 |     |
| 21 | 20  | 25  | 40  | 0.1 |     |
| 22 | 80  | 100 | 70  | 0.8 |     |
| 23 | 25  | 40  | 30  | 0.1 |     |
| 24 | 20  | 60  | 40  | 0.1 |     |
| 25 | 60  | 60  | 40  | 0.3 |     |
| 26 | 40  | 80  | 50  | 0.3 |     |
| 27 | 20  | 50  | 65  | 0.1 |     |
| 28 | 60  | 110 | 100 | 1.1 |     |
| 29 | 40  | 50  | 80  | 0.3 |     |
| 30 | 50  | 120 | 45  | 0.3 |     |
| 31 | 20  | 70  | 60  | 0.1 |     |
| 32 | 30  | 50  | 70  | 0.3 |     |
| 33 | 50  | 40  | 90  | 0.4 |     |
| 34 | 40  | 110 | 70  | 0.8 |     |
| 35 | 35  | 90  | 120 | 0.9 |     |
| 36 | 35  | 45  | 100 | 0.3 |     |
| 37 | 60  | 110 | 110 | 1.2 |     |
| 38 | 55  | 100 | 95  | 1.1 |     |
| 39 | 45  | 100 |     |     |     |
| 40 | 95  | 120 | 80  | 1.3 |     |
| 41 | 40  | 60  | 130 | 0.3 |     |
| 42 | 70  | 80  | 110 | 1.3 |     |
| 43 | 30  | 55  | 70  | 0.1 |     |
| 44 | 25  | 60  | 100 | 0.3 |     |
| 45 | 70  | 110 | 85  | 1.2 |     |
| 46 | 30  | 40  | 55  | 0.1 |     |
| 47 | 10  | 45  | 50  | 0.1 |     |
| 48 | 35  | 80  | 75  | 0.3 |     |
| 49 | 60  | 30  | 60  | 0.2 |     |
| 50 | 35  | 55  | 70  | 0.4 |     |
| 51 | 50  | 80  | 110 | 0.6 |     |
| 52 | 45  | 80  | 100 | 0.8 |     |
| 53 | 20  | 75  | 50  | 0.1 |     |
| 54 | 20  | 60  | 40  | 0.1 |     |
| 55 | 15  | 90  | 80  | 0.1 |     |
| 56 | 25  | 120 | 80  | 0.2 |     |
| 57 | 30  | 55  | 80  | 0.2 |     |
| 58 | 40  | 80  | 55  | 0.2 |     |
| 59 | 50  | 100 | 65  | 0.6 |     |
| 60 | 30  | 60  | 60  | 0.2 |     |
| 61 | 25  | 35  | 130 | 0.6 |     |
| 62 | 120 | 130 | 70  | 2.0 |     |
| 63 | 40  | 90  | 120 | 0.6 |     |
| 64 | 120 | 110 | 100 | 1.5 |     |
| 65 | 70  | 80  |     |     |     |
| 66 | 35  | 55  |     |     |     |
| 67 | 55  | 55  |     |     |     |
| 68 | 60  | 90  | 60  | 0.5 |     |
| 69 | 50  | 70  | 80  | 0.3 |     |
| 70 | 60  | 70  | 80  | 0.7 |     |

| No  | 縦   | 横   | 控   | 重さ  | 矢 | 穴 |
|-----|-----|-----|-----|-----|---|---|
| 71  | 40  | 55  | 100 | 0.5 |   |   |
| 72  | 30  | 40  |     |     |   |   |
| 73  | 55  | 70  |     |     |   |   |
| 74  | 50  | 130 | 80  | 0.9 |   |   |
| 75  | 40  | 120 |     |     |   |   |
| 76  | 40  | 45  |     |     |   |   |
| 77  | 35  | 65  |     |     |   |   |
| 78  | 55  | 105 |     |     |   |   |
| 79  | 50  | 70  |     |     |   |   |
| 80  | 80  | 100 | 100 | 1.0 |   |   |
| 81  | 90  | 140 | 70  | 2.0 |   |   |
| 82  | 35  | 65  |     |     |   |   |
| 83  | 50  | 70  |     |     |   |   |
| 84  | 60  | 120 | 80  | 1.0 |   |   |
| 85  | 25  | 60  |     |     |   |   |
| 86  | 30  | 25  | 55  | 0.1 |   |   |
| 87  | 40  | 110 | 90  | 0.6 |   |   |
| 88  | 30  | 65  | 60  | 0.2 |   |   |
| 89  | 30  | 40  | 70  | 0.1 |   |   |
| 90  | 15  | 70  | 70  | 0.1 |   |   |
| 91  | 30  | 65  | 35  | 0.1 |   |   |
| 92  | 20  | 60  | 50  | 0.1 |   |   |
| 93  | 30  | 90  | 60  | 0.2 |   |   |
| 94  | 30  | 70  | 65  | 0.3 |   |   |
| 95  | 25  | 35  | 100 | 0.3 |   |   |
| 96  | 35  | 80  | 140 | 0.8 |   |   |
| 97  | 50  | 50  | 60  | 0.4 |   |   |
| 98  | 35  | 90  |     |     |   |   |
| 99  | 60  | 100 | 70  | 0.5 |   |   |
| 100 | 100 | 120 | 50  | 1.2 |   |   |
| 101 | 50  | 25  | 50  | 0.1 |   |   |
| 102 | 60  | 60  | 60  | 0.3 |   |   |
| 103 | 30  | 50  | 45  | 0.1 |   |   |
| 104 | 40  | 50  | 40  | 0.1 |   |   |
| 105 | 55  | 120 | 40  | 0.5 |   |   |
| 106 | 40  | 50  | 50  | 0.1 |   |   |
| 107 | 30  | 60  | 70  | 0.1 |   |   |
| 108 | 50  | 120 | 40  | 0.4 |   |   |
| 109 | 60  | 140 | 60  | 0.8 |   |   |
| 110 | 20  | 40  | 80  | 0.1 |   |   |
| 111 | 35  | 55  | 140 | 0.5 |   |   |
| 112 | 50  | 40  | 70  | 0.2 |   |   |
| 113 | 25  | 80  |     |     |   |   |
| 114 | 25  | 30  |     |     |   |   |
| 115 | 20  | 30  | 80  | 0.1 |   |   |
| 116 | 20  | 40  |     |     |   |   |
| 117 | 25  | 30  |     |     |   |   |
| 118 | 30  | 50  | 80  | 0.2 |   |   |
| 119 | 40  | 40  | 90  | 0.2 |   |   |
| 120 | 40  | 120 | 110 | 0.3 |   |   |
| 121 | 25  | 40  | 40  | 0.1 |   |   |
| 122 | 30  | 70  | 30  | 0.1 |   |   |
| 123 | 30  | 50  | 30  | 0.2 |   |   |
| 124 | 40  | 40  |     |     |   |   |
| 125 | 50  | 90  |     |     |   |   |
| 126 | 45  | 50  |     |     |   |   |
| 127 | 60  | 90  | 90  | 0.4 |   |   |
| 128 | 100 | 120 | 100 | 1.0 |   |   |
| 129 | 50  | 50  | 70  | 0.2 |   |   |
| 130 | 60  | 70  |     |     |   |   |
| 131 | 65  | 60  |     |     |   |   |
| 132 | 30  | 55  | 70  | 0.7 |   |   |
| 133 | 30  | 60  | 100 | 0.4 |   |   |
| 134 | 50  | 55  | 70  | 0.3 |   |   |
| 135 | 60  | 180 | 80  | 1.5 |   |   |
| 136 | 25  | 50  | 70  | 0.1 |   |   |
| 137 | 40  | 70  | 150 | 1.2 |   |   |
| 138 | 25  | 50  |     |     |   |   |
| 139 | 35  | 65  |     |     |   |   |
| 140 | 25  | 90  |     |     |   |   |
| 141 | 50  | 60  | 45  | 0.2 |   |   |
| 142 | 60  | 60  |     |     |   |   |
| 143 | 30  | 40  | 60  | 0.2 |   |   |
| 144 | 25  | 30  |     |     |   |   |
| 145 | 50  | 90  | 80  | 0.7 |   |   |

| No  | 縦   | 横   | 控   | 重さ  | 矢 | 穴 |
|-----|-----|-----|-----|-----|---|---|
| 146 | 30  | 100 | 60  | 1.0 |   |   |
| 147 | 30  | 25  | 80  | 0.1 |   |   |
| 148 | 80  | 70  | 70  | 0.7 |   |   |
| 149 | 45  | 90  | 50  | 0.4 |   |   |
| 150 | 30  | 35  |     |     |   |   |
| 151 | 40  | 60  | 55  | 0.3 |   |   |
| 152 | 35  | 120 | 90  | 0.5 |   |   |
| 153 | 35  | 120 | 90  | 0.8 |   |   |
| 154 | 170 | 220 | 30  | 4.7 |   |   |
| 155 | 30  | 60  |     |     |   |   |
| 156 | 20  | 30  | 20  | 0.1 |   |   |
| 157 | 30  | 60  | 50  | 0.2 |   |   |
| 158 | 80  | 110 | 70  | 1.0 |   |   |
| 159 | 45  | 85  |     |     |   |   |
| 160 | 80  | 140 | 130 | 2.0 |   |   |
| 161 | 35  | 75  |     |     |   |   |
| 162 | 50  | 50  | 80  | 0.2 |   |   |
| 163 | 60  | 100 | 90  | 1.4 |   |   |
| 164 | 40  | 80  |     |     |   |   |
| 165 | 60  | 150 | 80  | 0.8 |   |   |
| 166 | 70  | 130 | 120 | 1.7 |   |   |
| 167 | 50  | 60  |     |     |   |   |
| 168 | 50  | 45  |     |     |   |   |
| 169 | 100 | 160 | 110 | 1.6 |   |   |
| 170 | 80  | 130 | 60  | 1.2 |   |   |
| 171 | 40  | 50  | 40  | 0.2 |   |   |
| 172 | 40  | 35  | 60  | 0.1 |   |   |
| 173 | 40  | 50  | 60  | 0.2 |   |   |
| 174 | 40  | 75  |     |     |   |   |
| 175 | 40  | 55  | 85  | 0.2 |   |   |
| 176 | 30  | 70  | 80  | 0.5 |   |   |
| 177 | 30  | 70  | 90  | 0.3 |   |   |
| 178 | 50  | 70  | 70  | 0.5 |   |   |
| 179 | 35  | 40  | 60  | 0.1 |   |   |
| 180 | 35  | 45  | 30  | 0.1 |   |   |
| 181 | 15  | 30  | 60  | 0.1 |   |   |
| 182 | 35  | 100 | 100 | 0.7 |   |   |
| 183 | 40  | 75  | 75  | 0.4 |   |   |
| 184 | 35  | 50  | 70  | 0.2 |   |   |
| 185 | 15  | 70  | 50  | 0.1 |   |   |
| 186 | 10  | 70  | 35  | 0.1 |   |   |
| 187 | 欠   |     |     |     |   |   |
| 188 | 45  | 50  | 55  | 0.1 |   |   |
| 189 | 60  | 45  | 65  | 0.2 |   |   |
| 190 | 65  | 80  | 70  | 0.7 |   |   |
| 191 | 15  | 35  | 80  | 0.1 |   |   |
| 192 | 60  | 140 | 50  | 0.9 |   |   |
| 193 | 40  | 70  | 80  | 0.4 |   |   |
| 194 | 40  | 40  | 65  | 0.2 |   |   |
| 195 | 95  | 180 | 70  | 2.5 |   |   |
| 196 | 30  | 75  | 110 | 0.6 |   |   |
| 197 | 15  | 40  | 60  | 0.1 |   |   |
| 198 | 25  | 40  |     |     |   |   |
| 199 | 20  | 50  | 70  | 0.1 |   |   |
| 200 | 20  | 130 | 80  | 0.2 |   |   |
| 201 | 15  | 60  | 50  | 0.1 |   |   |
| 202 | 20  | 50  |     |     |   |   |
| 203 | 25  | 40  | 50  | 0.2 |   |   |
| 204 | 25  | 65  | 100 | 0.5 |   |   |
| 205 | 20  | 80  | 80  | 0.3 |   |   |
| 206 | 20  | 50  |     |     |   |   |
| 207 | 25  | 40  | 50  | 0.2 |   |   |
| 208 | 25  | 100 | 50  | 0.2 |   |   |
| 209 | 30  | 45  | 55  | 0.1 |   |   |
| 210 | 35  | 70  | 90  | 0.5 |   |   |
| 211 | 25  | 35  | 70  | 0.1 |   |   |
| 212 | 65  | 120 | 55  | 0.8 |   |   |
| 213 | 25  | 55  | 80  | 0.2 |   |   |
| 214 | 30  | 75  | 110 | 0.4 |   |   |
| 215 | 30  | 75  |     |     |   |   |
| 216 | 30  | 80  | 80  | 0.4 |   |   |
| 217 | 130 | 120 | 50  | 1.9 |   |   |
| 218 | 40  | 45  |     |     |   |   |
| 219 | 80  | 120 |     |     |   |   |
| 220 | 40  | 50  | 90  | 0.7 |   |   |

| No  | 縦   | 横   | 控   | 重さ  | 矢 | 穴 |
|-----|-----|-----|-----|-----|---|---|
| 221 | 40  | 90  | 160 | 1.0 |   |   |
| 222 | 45  | 100 |     |     |   |   |
| 223 | 120 | 120 | 110 | 2.0 |   |   |
| 224 | 50  | 100 | 120 | 0.8 |   |   |
| 225 | 70  | 90  | 80  | 0.8 |   |   |
| 226 | 80  | 85  |     |     |   |   |
| 227 | 50  | 65  |     |     |   |   |
| 228 | 30  | 20  | 40  | 0.1 |   |   |
| 229 | 欠   |     |     |     |   |   |
| 230 | 35  | 55  |     |     |   |   |
| 231 | 40  | 50  | 100 | 0.7 |   |   |
| 232 | 90  | 130 | 70  | 1.4 |   |   |
| 233 | 100 | 115 |     |     |   |   |
| 234 | 20  | 50  | 60  | 0.1 |   |   |
| 235 | 50  | 65  |     |     |   |   |
| 236 | 80  | 85  | 100 | 1.1 |   |   |
| 237 | 50  | 90  | 100 | 0.9 |   |   |
| 238 | 20  | 60  | 85  | 0.4 |   |   |
| 239 | 65  | 140 | 80  | 1.4 |   |   |
| 240 | 50  | 50  | 80  | 0.4 |   |   |
| 241 | 90  | 150 | 65  | 1.5 |   |   |
| 242 | 20  | 50  | 80  | 0.1 |   |   |
| 243 | 80  | 90  | 45  | 0.6 |   |   |
| 244 | 欠   |     |     |     |   |   |
| 245 | 40  | 45  | 130 | 0.4 |   |   |
| 246 | 15  | 30  | 60  | 0.1 |   |   |
| 247 | 20  | 60  | 30  | 0.1 |   |   |
| 248 | 50  | 55  | 60  | 0.2 |   |   |
| 249 | 20  | 65  | 30  | 0.1 |   |   |
| 250 | 20  | 40  | 95  | 1.5 |   |   |
| 251 | 55  | 150 | 30  | 0.5 |   |   |
| 252 | 80  | 100 | 50  | 0.7 |   |   |
| 253 | 30  | 25  | 80  | 0.1 |   |   |
| 254 | 30  | 30  | 75  | 0.1 |   |   |
| 255 | 欠   |     |     |     |   |   |
| 256 | 25  | 50  |     |     |   |   |
| 257 | 25  | 60  | 95  | 0.2 |   |   |
| 258 | 80  | 100 | 90  | 1.2 |   |   |
| 259 | 20  | 110 | 110 | 1.1 |   |   |
| 260 | 40  | 75  | 20  | 0.1 |   |   |
| 261 | 25  | 50  | 95  | 0.1 |   |   |
| 262 | 70  | 100 | 90  | 1.1 |   |   |
| 263 | 60  | 140 | 50  | 0.9 |   |   |
| 264 | 55  | 100 | 80  | 1.1 |   |   |
| 265 | 15  | 45  | 65  | 0.1 |   |   |
| 266 | 35  | 40  | 100 | 0.2 |   |   |
| 267 | 30  | 50  | 60  | 0.2 |   |   |
| 268 | 60  | 100 | 70  | 0.5 |   |   |
| 269 | 40  | 50  | 65  | 0.1 |   |   |
| 270 | 45  | 70  |     |     |   |   |
| 271 | 50  | 75  |     |     |   |   |
| 272 | 40  | 80  |     |     |   |   |
| 273 | 70  | 75  |     |     |   |   |
| 274 | 30  | 45  |     |     |   |   |
| 275 | 30  | 90  |     |     |   |   |
| 276 |     |     |     |     |   |   |
| 277 |     |     |     |     |   |   |
| 278 |     |     |     |     |   |   |
| 279 |     |     |     |     |   |   |
| 280 |     |     |     |     |   |   |
| 281 | 35  | 110 | 50  | 0.3 |   |   |
| 282 | 80  | 95  | 75  | 0.9 |   |   |
| 283 | 70  | 130 | 30  | 0.6 |   |   |
| 284 | 35  | 70  | 65  | 0.2 |   |   |
| 285 | 30  | 40  | 35  | 0.1 |   |   |
| 286 | 35  | 55  | 65  | 0.2 |   |   |
| 287 | 20  | 80  | 40  | 0.1 |   |   |
| 288 | 55  | 120 | 40  | 0.7 |   |   |
| 289 | 15  | 70  | 55  | 0.1 |   |   |
| 290 | 50  | 40  |     |     |   |   |
| 291 | 40  | 50  | 60  | 0.2 |   |   |
| 292 | 40  | 60  | 60  | 0.3 |   |   |
| 293 | 50  | 50  | 50  | 0.2 |   |   |
| 294 | 25  | 50  | 70  | 0.1 |   |   |
| 295 |     |     |     |     |   |   |

| No  | 縦  | 横  | 控   | 重さ  | 矢 穴 |
|-----|----|----|-----|-----|-----|
| 296 | 40 | 35 | 125 | 0.7 |     |
| 297 |    |    |     |     |     |
| 298 |    |    |     |     |     |
| 299 |    |    |     |     |     |
| 300 |    |    |     |     |     |
| 301 |    |    |     |     |     |
| 302 |    |    |     |     |     |
| 303 |    |    |     |     |     |
| 304 |    |    |     |     |     |
| 305 |    |    |     |     |     |
| 306 |    |    |     |     |     |
| 307 |    |    |     |     |     |
| 308 | 35 | 70 | 70  | 0.2 |     |

稻荷曲輪 No.21

| No   | 面(縦) | 面(横) | 控え  | 重量  | 矢 穴 |
|------|------|------|-----|-----|-----|
| 1    | 45   | 90   | 125 |     |     |
| 2    | 55   | 60   | 105 |     |     |
| 3    | 90   | 100  | 80  |     |     |
| 4    | 40   | 45   | 130 |     |     |
| 5    | 60   | 125  | 80  |     |     |
| 6    | 80   | 65   |     |     |     |
| 7    | 95   | 120  |     |     |     |
| 8    | 55   | 85   |     |     |     |
| 9    | 60   | 120  |     |     |     |
| 10   | 60   | 110  | 70  | 0.7 |     |
| 11   | 30   | 40   | 50  |     |     |
| 12   | 50   | 80   | 120 | 0.7 |     |
| 13   | 80   | 100  | 50  | 0.7 |     |
| 14   | 40   | 60   | 80  | 0.2 |     |
| 15   | 50   | 90   | 80  | 0.4 |     |
| 16   | 30   | 90   | 110 | 0.8 |     |
| 17   | 60   | 100  | 90  | 0.6 |     |
| 18   | 45   | 50   | 50  | 0.2 |     |
| 19   | 30   | 60   | 70  | 0.2 |     |
| 20   | 30   | 90   | 60  | 0.3 |     |
| 21   | 15   | 40   | 40  |     |     |
| 22   | 20   | 40   | 45  |     |     |
| 23   | 30   | 55   | 55  | 0.2 |     |
| 24   | 55   | 120  | 65  | 0.7 |     |
| 25   | 25   | 95   | 85  | 0.4 |     |
| 26   | 15   | 40   | 55  |     |     |
| 27   | 15   | 35   | 40  |     |     |
| 28   | 15   | 80   | 55  | 0.1 |     |
| 29   | 25   | 80   | 55  | 0.2 |     |
| 30   | 25   | 70   | 45  | 0.3 |     |
| 31   | 30   | 95   | 70  | 0.8 |     |
| 32   | 50   | 40   | 80  | 0.5 |     |
| 33   | 50   | 35   | 110 | 0.6 |     |
| 34   | 40   | 80   | 75  | 0.4 |     |
| 35   | 50   | 50   | 60  | 0.3 |     |
| 36   | 30   | 60   | 70  | 0.4 |     |
| 37   | 50   | 40   | 80  | 0.5 |     |
| 38   | 30   | 30   | 40  | 0.9 |     |
| 39   | 35   | 60   | 70  | 0.4 |     |
| 40   | 70   | 160  | 60  | 0.9 |     |
| 41   | 30   | 60   | 90  | 0.3 |     |
| 42   | 40   | 20   | 100 | 0.5 |     |
| 4350 | 80   | 90   | 0.6 |     |     |
| 44   | 40   | 140  | 60  | 0.7 |     |
| 45   | 70   | 110  | 90  | 0.6 |     |
| 46   | 60   | 125  |     |     |     |
| 47   | 80   | 120  | 90  | 0.9 |     |
| 48   | 70   | 120  | 100 | 1.3 |     |
| 49   | 50   | 90   | 80  | 0.4 |     |
| 50   | 110  | 90   | 90  | 1.5 |     |
| 51   | 50   | 50   | 95  | 0.4 |     |
| 52   | 50   | 120  | 60  | 0.4 |     |
| 53   | 55   | 80   |     |     |     |
| 54   | 50   | 70   | 55  | 0.3 |     |
| 55   | 25   | 50   | 30  | 0.1 |     |
| 56   | 50   | 50   | 95  | 0.4 |     |
| 57   | 40   | 50   | 60  | 0.2 |     |
| 58   | 60   | 50   | 90  | 0.4 |     |
| 59   |      |      |     |     |     |

| No  | 面(縦) | 面(横) | 控え  | 重量  | 矢 穴 |
|-----|------|------|-----|-----|-----|
| 60  |      |      |     |     |     |
| 61  | 100  | 140  | 90  | 2.2 |     |
| 62  | 40   | 60   | 50  | 0.2 |     |
| 63  | 80   | 120  | 70  | 0.7 |     |
| 64  | 60   | 60   | 110 | 0.6 |     |
| 65  |      |      |     |     |     |
| 66  |      |      |     |     |     |
| 67  | 40   | 50   | 90  | 0.3 |     |
| 68  |      |      |     |     |     |
| 69  |      |      |     |     |     |
| 70  |      |      |     |     |     |
| 71  | 60   | 60   | 75  | 0.3 |     |
| 72  | 60   | 60   | 70  | 0.3 |     |
| 73  | 40   | 55   | 70  | 0.3 |     |
| 74  | 30   | 80   | 50  | 0.2 |     |
| 75  | 45   | 70   | 55  | 0.2 |     |
| 76  | 25   | 50   | 35  | 0.1 |     |
| 77  | 20   | 110  | 70  | 0.4 |     |
| 78  | 25   | 40   | 45  |     |     |
| 79  | 20   | 70   | 75  | 0.2 |     |
| 80  |      |      |     |     |     |
| 81  | 55   | 85   | 80  | 0.6 |     |
| 82  | 40   | 60   | 50  | 0.2 |     |
| 83  | 25   | 30   | 85  | 0.1 |     |
| 84  | 20   | 20   | 70  | 0.1 |     |
| 85  | 55   | 85   | 80  | 0.2 |     |
| 86  | 15   | 95   | 80  | 0.2 |     |
| 87  | 50   | 55   | 90  | 0.4 |     |
| 88  | 50   | 60   | 100 | 0.3 |     |
| 89  | 60   | 60   | 90  | 0.3 |     |
| 90  | 40   | 50   | 85  | 0.4 |     |
| 91  |      |      |     |     |     |
| 92  | 50   | 75   | 80  | 0.5 |     |
| 93  |      |      |     |     |     |
| 94  |      |      |     |     |     |
| 95  |      |      |     |     |     |
| 96  | 40   | 50   | 70  | 0.3 |     |
| 97  | 60   | 100  | 50  | 0.5 |     |
| 98  | 60   | 80   | 60  | 0.4 |     |
| 99  | 30   | 40   | 90  | 0.2 |     |
| 100 | 20   | 60   | 60  | 0.1 |     |
| 101 | 20   | 40   | 60  |     |     |
| 102 |      |      |     |     |     |
| 103 |      |      |     |     |     |
| 104 | 30   | 60   | 40  |     |     |
| 105 | 50   | 60   | 50  | 0.2 |     |
| 106 |      |      |     |     |     |
| 107 |      |      |     |     |     |
| 108 |      |      |     |     |     |

数寄屋勝手門東石垣

| No | 面(縦) | 面(横) | 控え | 重量  | 矢 穴 |
|----|------|------|----|-----|-----|
| 1  | 30   | 60   | 50 |     |     |
| 2  | 30   | 25   | 55 |     |     |
| 3  | 30   | 40   |    |     |     |
| 4  | 15   | 50   | 55 |     |     |
| 5  | 15   | 70   |    |     |     |
| 6  | 35   | 40   | 45 |     |     |
| 7  | 20   | 20   | 90 | 0.1 |     |
| 8  | 30   | 40   | 50 | 0.1 |     |
| 9  | 30   | 30   | 60 |     |     |
| 10 | 35   | 30   | 60 | 0.1 |     |
| 11 | 20   | 50   | 60 | 0.1 |     |
| 12 | 20   | 55   | 35 |     |     |
| 13 |      |      |    |     |     |
| 14 |      |      |    |     |     |
| 15 | 40   | 50   | 70 | 0.2 |     |
| 16 | 30   | 30   | 70 | 0.1 |     |
| 17 | 65   | 85   | 60 | 0.4 |     |
| 18 | 35   | 60   | 50 | 0.2 |     |
| 19 | 35   | 45   | 60 | 0.1 |     |
| 20 |      |      |    |     |     |
| 21 |      |      |    |     |     |
| 22 | 20   | 30   | 30 |     |     |
| 23 | 50   | 30   | 70 | 0.1 |     |

| No | 面(縦) | 面(横) | 控え  | 重量  | 矢 穴 |
|----|------|------|-----|-----|-----|
| 24 | 30   | 50   | 50  | 0.1 |     |
| 25 | 40   | 50   | 50  | 0.1 |     |
| 26 | 25   | 90   | 65  | 0.1 |     |
| 27 |      |      |     |     |     |
| 28 |      |      |     |     |     |
| 29 | 30   | 60   | 80  | 0.2 |     |
| 30 | 25   | 50   | 90  |     |     |
| 31 | 40   | 70   | 95  |     |     |
| 32 | 30   | 120  | 90  |     |     |
| 33 | 20   | 75   | 55  | 0.1 |     |
| 34 |      |      |     |     |     |
| 35 |      |      |     |     |     |
| 36 |      |      |     |     |     |
| 37 |      |      |     |     |     |
| 38 | 35   | 70   | 70  | 0.3 |     |
| 39 | 40   | 40   | 45  | 0.1 |     |
| 40 |      |      |     |     |     |
| 41 | 40   | 40   | 70  | 0.2 |     |
| 42 | 70   | 70   | 100 | 0.3 |     |
| 43 |      |      |     |     |     |
| 44 |      |      |     |     |     |
| 45 |      |      |     |     |     |
| 46 | 30   | 80   | 50  | 0.2 |     |

数寄屋勝手門

| No | 面(縦) | 面(横) | 控え  | 重量  | 矢 穴 |
|----|------|------|-----|-----|-----|
| 1  | 35   | 85   | 55  | 0.5 |     |
| 2  | 65   | 70   | 80  | 0.5 |     |
| 3  | 60   | 50   | 70  | 0.1 |     |
| 4  | 80   | 165  | 100 | 1.5 |     |
| 5  | 30   | 70   | 75  | 0.5 |     |
| 6  | 50   | 60   | 60  | 0.1 |     |
| 7  | 40   | 90   | 80  | 0.5 |     |
| 8  | 40   | 70   | 75  | 0.3 |     |
| 9  | 40   | 80   | 100 | 0.7 |     |
| 10 | 65   | 85   | 75  | 0.6 |     |
| 11 | 35   | 45   | 85  | 0.3 |     |
| 12 | 40   | 70   | 90  | 0.5 |     |
| 13 | 20   | 45   | 25  |     |     |
| 14 | 30   | 45   | 25  | 0.1 |     |
| 15 | 25   | 85   | 50  | 0.2 |     |
| 16 | 40   | 50   | 65  | 0.2 |     |
| 17 | 70   | 100  | 100 | 0.6 |     |
| 18 | 55   | 100  | 80  | 0.5 |     |
| 19 | 25   | 20   | 75  | 0.1 |     |
| 20 | 55   | 80   | 110 | 0.7 |     |
| 21 | 50   | 100  | 95  | 0.9 |     |
| 22 | 70   | 110  | 120 | 1.3 |     |
| 23 | 50   | 110  | 120 | 1.2 |     |
| 24 | 50   | 120  | 100 | 0.5 |     |
| 25 | 60   | 90   | 80  | 0.5 |     |
| 26 | 60   | 120  | 90  | 1.3 |     |
| 27 | 55   | 70   | 60  | 0.2 |     |
| 28 | 50   | 80   | 110 | 0.7 |     |
| 29 | 65   | 90   | 90  | 0.6 |     |
| 30 | 60   | 90   | 95  | 0.4 |     |
| 31 |      |      |     |     |     |
| 32 | 50   | 110  | 75  | 0.7 |     |
| 33 | 45   | 100  | 50  | 0.2 |     |
| 34 | 85   | 70   | 100 | 1.1 |     |

稻荷曲輪南石垣

| No | 面(縦) | 面(横) | 控え | 重量  | 矢 穴       |
|----|------|------|----|-----|-----------|
| 1  | 30   | 45   | 40 | 0.1 |           |
| 2  | 25   | 40   | 25 | 0.1 |           |
| 3  | 40   | 50   | 60 | 0.3 |           |
| 4  | 25   | 45   | 50 | 0.3 |           |
| 5  | 60   | 100  | 85 | 0.9 |           |
| 6  | 50   | 55   | 50 | 0.2 | (8×2×6)×4 |
| 7  | 55   | 85   | 40 | 0.6 |           |
| 8  | 20   | 50   | 60 | 0.3 |           |
| 9  | 45   | 80   | 45 | 0.5 |           |
| 10 | 20   | 40   | 50 | 0.1 |           |
| 11 | 25   | 60   | 60 | 0.3 |           |
| 12 | 40   | 55   | 50 | 0.2 |           |

| No | 面(縦) | 面(横) | 控え | 重量  | 矢 穴 |
|----|------|------|----|-----|-----|
| 13 | 15   | 45   | 35 | 0.1 |     |
| 14 | 30   | 35   | 70 | 0.4 |     |
| 15 | 20   | 45   | 35 | 0.1 |     |
| 16 | 25   | 30   | 60 | 0.1 |     |
| 17 | 40   | 90   | 80 | 0.7 |     |
| 18 | 30   | 65   | 85 | 0.4 |     |
| 19 | 35   | 60   | 65 | 0.5 |     |
| 20 | 30   | 70   | 75 | 0.3 |     |

数寄屋勝手門腰石垣

| No | 面(縦) | 面(横) | 控え | 重量  | 矢 穴 |
|----|------|------|----|-----|-----|
| 1  |      |      |    |     |     |
| 2  | 40   | 60   | 40 | 0.1 |     |
| 3  | 30   | 50   | 30 | 0.1 |     |
| 4  | 30   | 50   | 40 | 0.1 |     |
| 5  | 25   | 40   | 60 | 0.1 |     |
| 6  | 20   | 30   | 45 | 0.1 |     |
| 7  | 30   | 50   | 35 |     |     |
| 8  | 50   | 100  | 40 | 0.2 |     |
| 9  | 20   | 40   | 50 |     |     |
| 10 | 35   | 50   | 50 |     |     |
| 11 |      |      |    |     |     |
| 12 | 65   | 70   | 45 | 0.6 |     |
| 13 |      |      |    |     |     |
| 14 | 45   | 80   | 55 | 0.4 |     |
| 15 | 25   | 50   | 30 |     |     |
| 16 |      |      |    |     |     |
| 17 |      |      |    |     |     |
| 18 |      |      |    |     |     |
| 19 | 30   | 50   | 50 | 0.2 |     |
| 20 | 70   | 60   | 50 | 0.3 |     |
| 21 | 50   | 70   | 50 | 0.3 |     |
| 22 | 35   | 55   | 30 | 0.2 |     |
| 23 |      |      |    |     |     |
| 24 | 55   | 60   | 45 | 0.3 |     |
| 25 | 30   | 80   | 40 | 0.2 |     |
| 26 | 35   | 60   | 60 | 0.3 |     |
| 27 | 40   | 80   | 35 | 0.4 |     |
| 28 | 25   | 60   | 45 | 0.3 |     |

稻荷階段

| No | 面(縦) | 面(横) | 控え | 重量  | 矢 穴         |
|----|------|------|----|-----|-------------|
| 1  | 25   | 35   | 25 | 0.1 |             |
| 2  | 30   | 40   | 25 | 0.1 |             |
| 3  | 20   | 40   | 35 | 0.1 |             |
| 4  | 30   | 45   | 50 | 0.3 |             |
| 5  | 25   | 40   | 30 | 0.3 |             |
| 6  | 30   | 35   | 30 | 0.2 |             |
| 7  | 20   | 40   | 30 | 0.1 |             |
| 8  | 20   | 75   | 30 | 0.5 | (6×3×2.5)×4 |
| 9  | 20   | 50   | 50 | 0.2 |             |
| 10 | 30   | 85   | 65 | 0.5 |             |
| 11 | 30   | 45   | 50 | 0.2 |             |
| 12 | 30   | 60   | 40 | 0.2 |             |
| 13 | 45   | 60   | 35 | 0.2 |             |
| 14 | 15   | 80   | 30 | 0.2 |             |
| 15 | 20   | 60   | 55 | 0.2 |             |
| 16 | 25   | 55   | 55 | 0.3 |             |

稻荷曲輪北面腰石垣

| No | 面(縦) | 面(横) | 控え | 重量  | 矢 穴        |
|----|------|------|----|-----|------------|
| 1  | 10   | 60   | 40 | 0.2 | (7×3×6)×3  |
| 2  | 30   | 30   | 50 |     |            |
| 3  | 20   | 40   | 45 |     |            |
| 4  | 20   | 40   | 40 |     |            |
| 5  | 20   | 30   | 20 |     |            |
| 6  | 40   | 90   | 45 | 0.3 | (7×3×6)×12 |
| 7  | 40   | 50   | 40 | 0.3 |            |
| 8  | 25   | 35   | 30 |     |            |
| 9  | 20   | 35   | 35 |     |            |
| 10 | 20   | 35   | 30 |     |            |
| 11 | 15   | 40   | 30 |     |            |
| 12 | 30   | 40   | 50 |     |            |
| 13 | 25   | 55   | 35 |     |            |
| 14 | 25   | 40   | 40 |     |            |
| 15 | 20   | 25   | 40 |     |            |

| No | 面(縦) | 面(横) | 控え | 重量  | 矢 穴 |
|----|------|------|----|-----|-----|
| 16 | 15   | 35   | 25 |     |     |
| 17 | 45   | 30   | 50 |     |     |
| 18 | 40   | 50   | 60 | 0.2 |     |
| 19 | 25   | 40   | 35 |     |     |
| 20 | 35   | 30   | 50 |     |     |
| 21 | 35   | 30   | 35 |     |     |
| 22 | 30   | 15   | 30 |     |     |
| 23 | 20   | 30   | 35 |     |     |
| 24 | 25   | 25   | 45 |     |     |
| 25 | 35   | 35   | 40 |     |     |
| 26 |      |      |    |     |     |
| 27 | 25   | 15   | 30 |     |     |
| 28 | 30   | 25   | 30 |     |     |
| 29 | 20   | 25   | 30 |     |     |
| 30 | 25   | 35   | 40 |     |     |
| 31 | 15   | 20   | 20 |     |     |
| 32 | 30   | 40   | 40 |     |     |
| 33 | 25   | 30   | 45 |     |     |
| 34 | 30   | 30   | 30 |     |     |
| 35 | 20   | 40   | 40 |     |     |
| 36 | 20   | 30   | 30 |     |     |
| 37 | 25   | 40   | 30 |     |     |
| 38 | 40   | 40   | 40 |     |     |
| 39 | 20   | 25   | 40 |     |     |
| 40 | 20   | 25   | 30 |     |     |
| 41 | 30   | 55   | 30 |     |     |
| 42 | 40   | 30   | 35 |     |     |
| 43 | 25   | 30   | 40 |     |     |
| 44 | 30   | 50   | 40 |     |     |
| 45 | 25   | 25   | 40 |     |     |
| 46 | 30   | 25   | 30 |     |     |
| 47 | 40   | 50   | 55 | 0.2 |     |
| 48 | 15   | 40   | 45 |     |     |
| 49 | 15   | 30   | 40 |     |     |
| 50 | 30   | 70   | 40 | 0.2 |     |

## 第4章 出土遺物

### 第1節 瓦

今年度も発掘調査を行った各曲輪から大量の瓦が出土した。中でも、昨年度より調査を実施している本丸中央部石切り場では、露出した岩盤の間の赤茶色の土を掘り下げたところ、築城期の瓦溜が検出され、金箔や朱のついた鯨瓦や飾り瓦などが数多く出土した。また、数寄屋勝手門周辺からは、過去に例のない直径37cmほどもある大型の円形飾り瓦が出土し、大型の建造物の存在を物語るものとして注目を集めた。本節ではこれらの瓦を中心に出土場所ごとに報告することにする。

#### (1) 本丸

図48No.1は本丸南側より単独で出土した無紋鬼瓦である。縦32cm横44cm厚さ3.8cmを測り、遺存度は2/3である。所産時期は江戸時代と考えられる。図49No.2～No.6は本丸中央部石切り場の築城期の瓦溜より出土したものである。No.2は鯨瓦の顔面部分である。縦27.6cm横17cmを測り、金箔と朱が確認できる。No.3は、鯨瓦の破片と思われる。残欠の大きさは縦10cm横5cm厚さ3.8cmを測り、朱が認められる。No.4は縦7cm横5cmを測る。金箔が認められ、鬼瓦か鯨瓦の破片と思われるが部位は不明である。No.5も鯨瓦の破片と思われる。残欠の大きさは縦5cm横7cmを測り、金箔と朱が認められる。No.6もNo.5と同様鯨瓦の破片であろう。残欠の大きさは縦9.2cm横7.4cm厚さ3cmを測り、朱が認められる。

No.7～図50No.14は、いずれも本丸中央部石切り場の金箔瓦層より出土した飾り板瓦の一部である。No.7は桐紋飾り板瓦で、現存する大きさは縦26.6cm横19cm厚さ3.8cmを測る。金箔が施されており、固定するための釘穴が3箇所認められる。No.8は縦25.2cm横14.6cm厚さ4.4cmを測る。金箔付きで釘穴が3箇所認められる。No.9は縦14cm横17cm厚さ4.6cmを測る。金箔付きで釘穴が2箇所認められる。No.10は縦11cm横15cm厚さ4cmを測り金箔が認められる。No.9と同種類のものと思われる。No.11は縦7cm横9.8cm厚さ5cmを測る。これもNo.9、10と同種類の瓦の破片と思われる。No.12は縦12.4cm横9.8cm厚さ4.4cmを測る。No.13は縦7.4cm横4.8cm厚さ3.6cmを測る。No.14は縦11cm横5.4cm厚さ3.6cmを測る。いずれも金箔付きで、No.8のような飾り瓦の破片ではないかと思われる。No.15も本丸中央部よりの出土で、金箔と朱が確認できる。残欠の大きさは縦6.2cm横9.8cm厚さ5cmを測る。鯨瓦の破片ではないかと考えられる。

#### (2) 数寄屋勝手門周辺

図50No.16は数寄屋勝手門南の稲荷曲輪との境となる腰石垣の根石付近から出土したもので、金箔が施された違い鷹の羽紋軒丸瓦である。直径は14cmと推定される。金箔付き軒丸瓦の出土は初めてである。

図51No.17～図53No.27は数寄屋曲輪勝手門周辺から出土したものである。同地点は、地鎮祭とみられる儀式が行われた痕跡や、石に描かれた線刻画が確認されるなど特異な場所である。No.17、No.18は違い鷹の羽紋大型円形飾り瓦である。No.17は直径37cm厚さ4.2cm周縁部の幅3cmを測る。No.18は直径36.4cm厚さ4.4cm周縁部の幅2.8cmを測る。両者の釘穴の位置から4箇所固定されていたことがわかる。ともに漆の付着が確認されているが金箔を貼るときの接着剤と思われる。現在は金箔は確認できない。大型の御殿風建物の屋根に使用されたのではないかと考えられる。No.19は違い鷹の羽が象られた飾り板瓦の一部だと思われる。残欠の大きさは、縦23.8cm横12.4cm厚さ3.4cmを測り、釘穴が1箇所認められる。No.20は垂瓦である。縦10cm横10cm厚さ4cmを測る。No.21はNo.17、18と同様の大型瓦の一部と考えられるが別個体である。残欠の大きさは、縦8.2cm横15cm厚さ4cmを測る。No.22も大型円形飾り瓦の一部である。違い鷹の羽紋が確認できる。残欠の大きさは縦8.4cm横15.8cm厚さ4cmを測る。No.23は桐紋飾り板瓦の一部である。桐の葉の部分であろう。縦7.8cm横9.4cm厚さ4cmを測る。No.24は飾り板瓦で、No.19と同様のものと思われる。残欠の大きさは縦15.4cm横12.6cm厚さ3.4cmを測り、釘穴が1箇所認められる。No.25は袴鬼瓦である。縦21.6cm横10cm厚さ1～4cmを測る。

図53No.26は家紋鬼瓦で、違い鷹の羽紋が陽刻されている。残欠の大きさは、縦14cm横14.2cm厚さ4.6cmを測



り、漆の付着が認められるので、金箔瓦であったと思われる。No.27は桐紋鬼瓦の一部である。残欠の大きさは縦15cm横14cm厚さ5cmを測る。桐紋の葉の部分と思われる。

(3) 鉄門西下

図53No.28、29は鉄門西下腰石垣の裏込めより出土したものである。同地点は昨年度から調査を実施しており、築城期の瓦が大量に検出されている場所である。No.28は鯨瓦の一部と思われる。大きさは、縦15.4cm横9.2cm厚さ3.8～5cmを測る。No.29は五七桐紋飾り板瓦である。金箔が施されており、釘穴が1箇所認められる。現存する大きさは縦19.6cm横18cm厚さ3.2cmを測る。

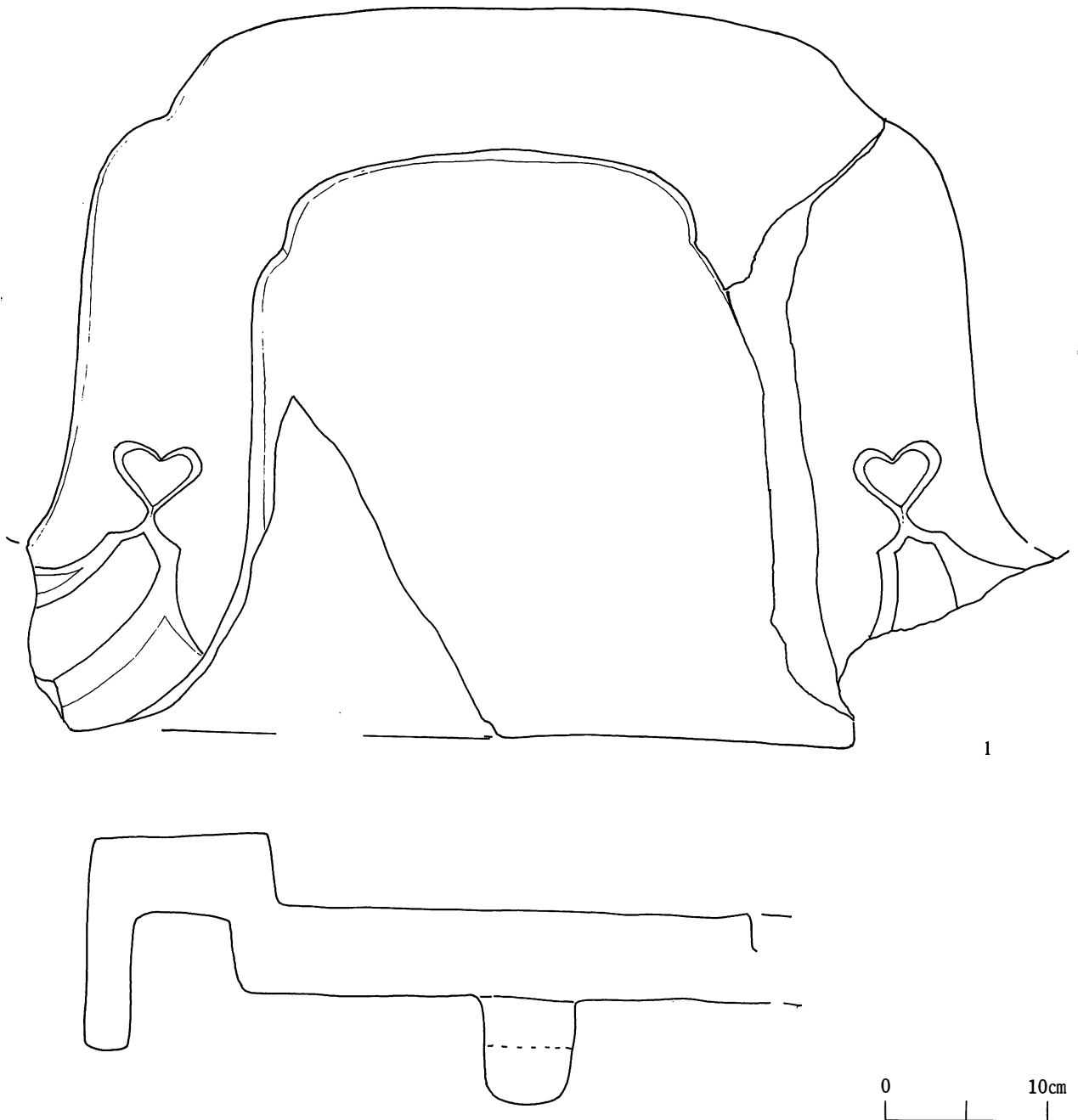
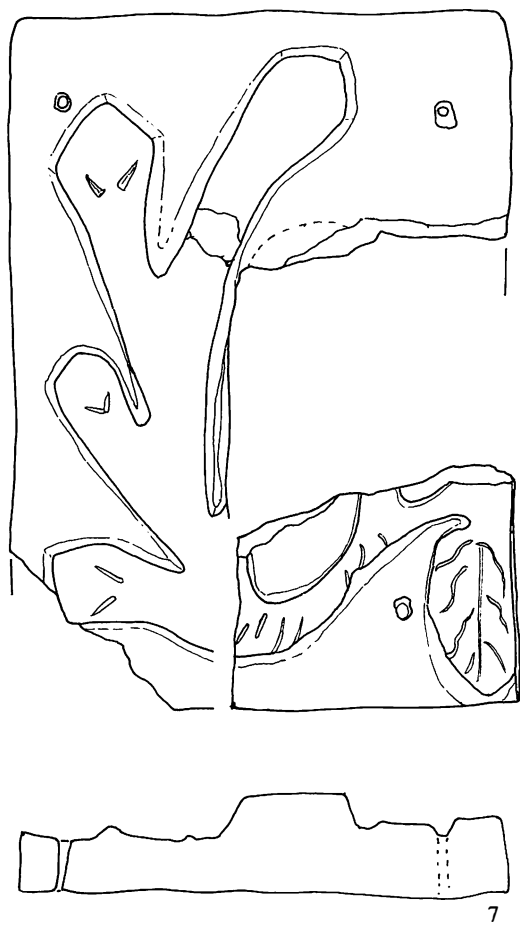
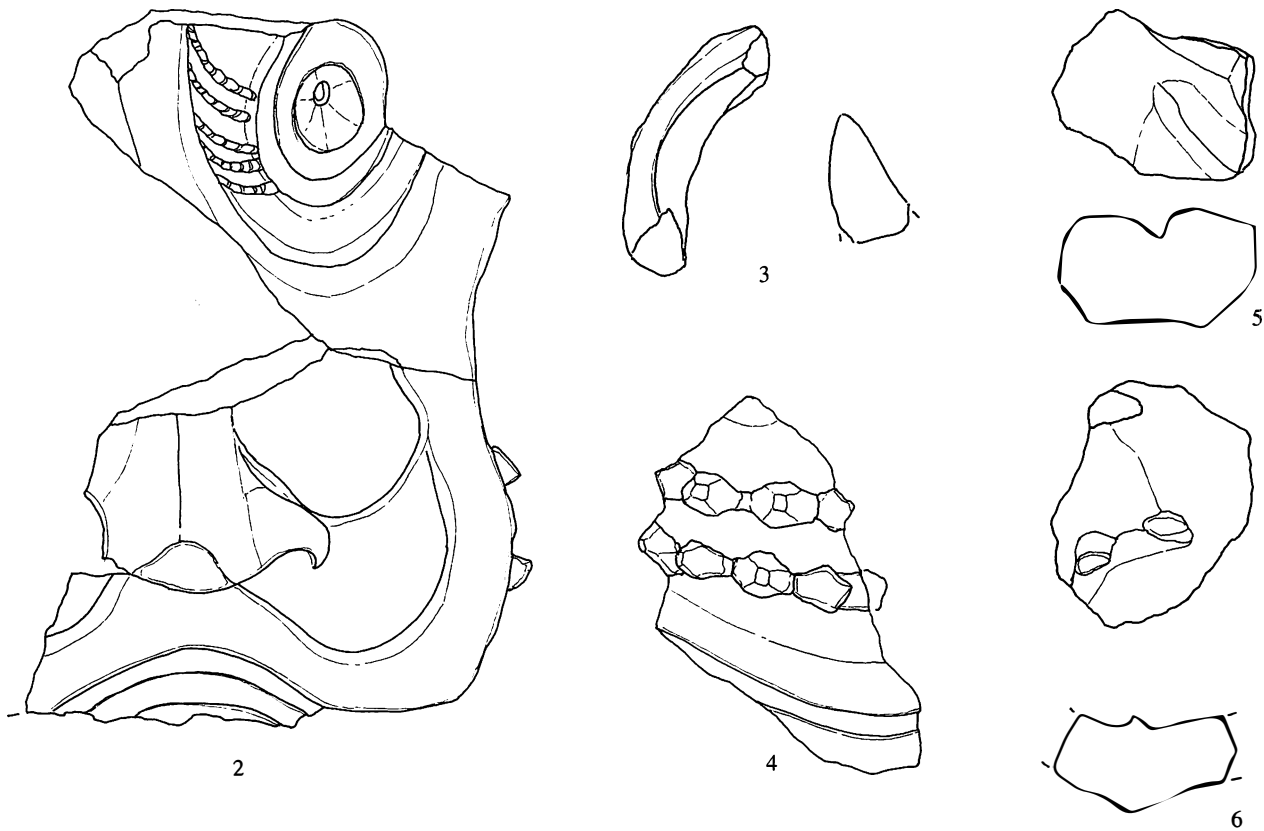
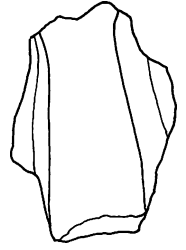
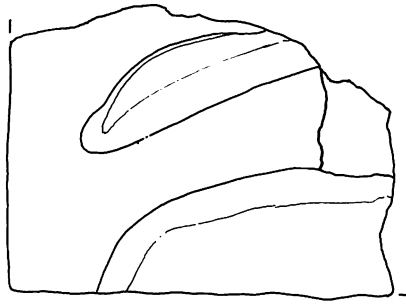
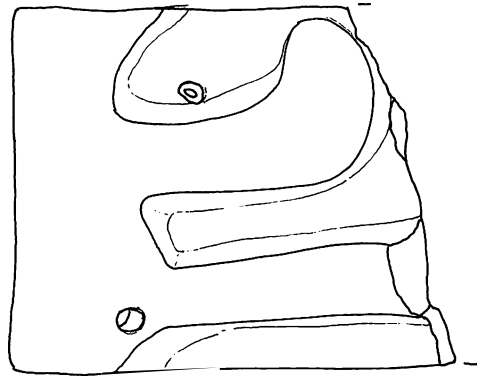


図48



0 10cm

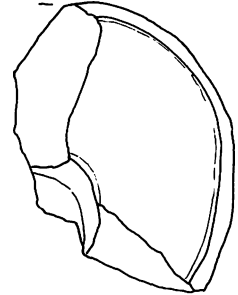
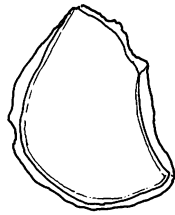
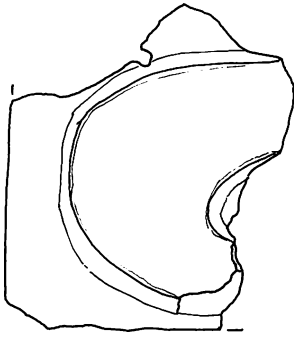
图49



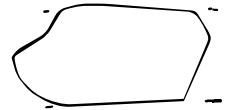
9

10

11

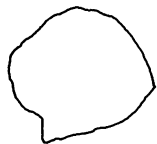
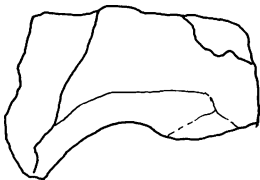


13

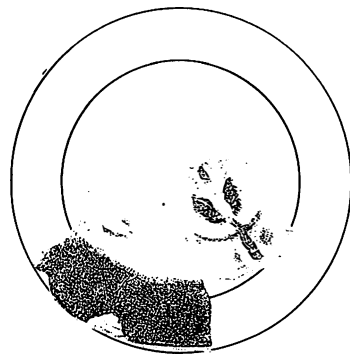


14

12



15



16

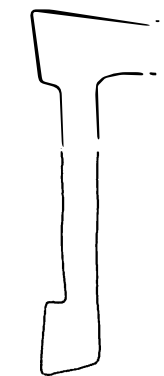
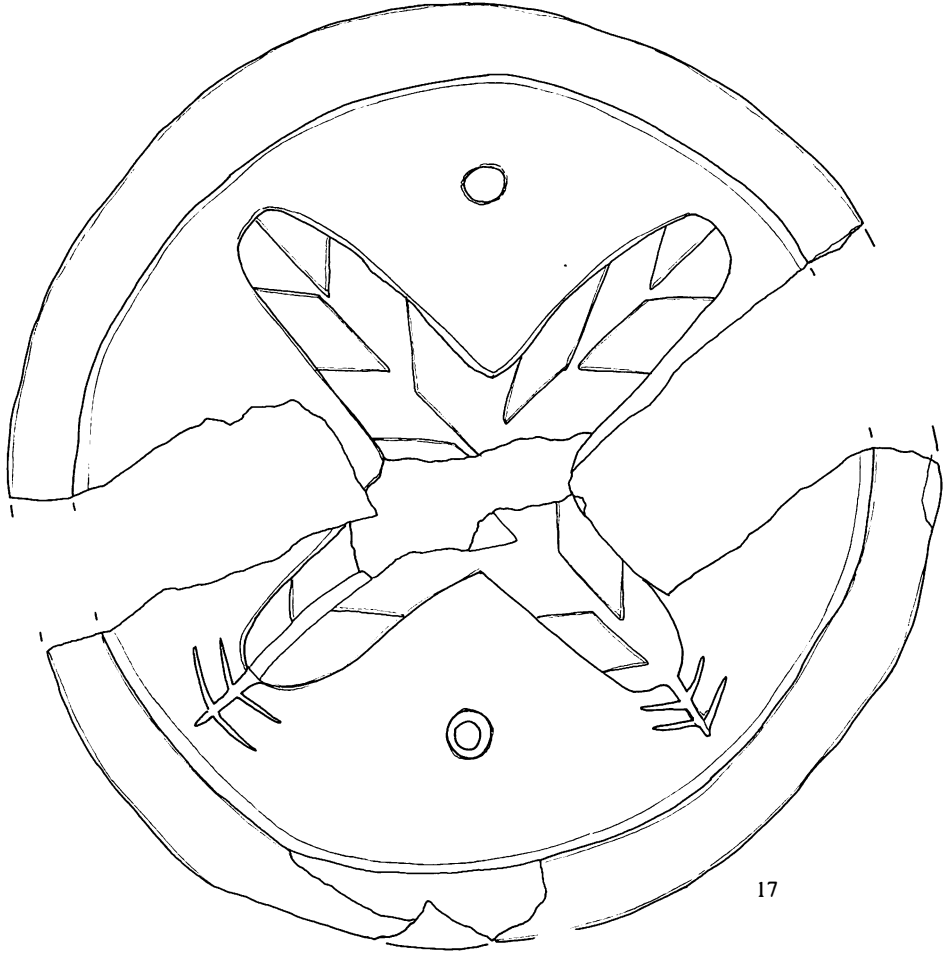
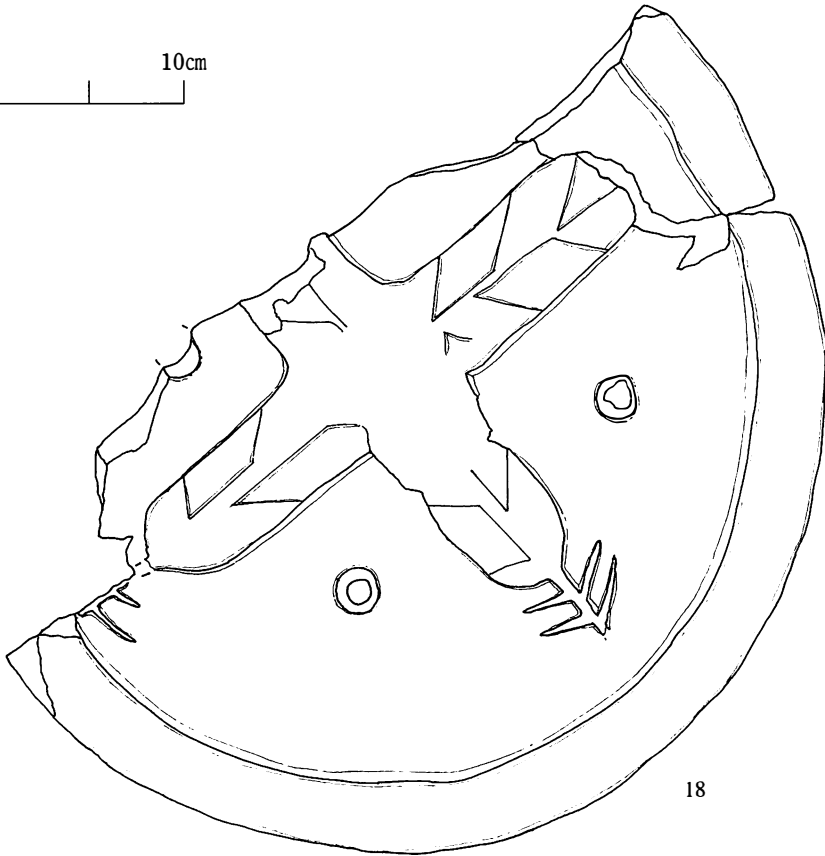


图50



17

0 10cm



18

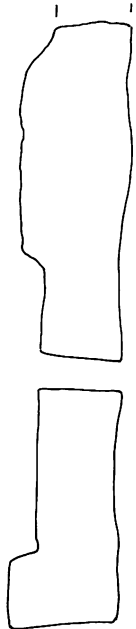


图51

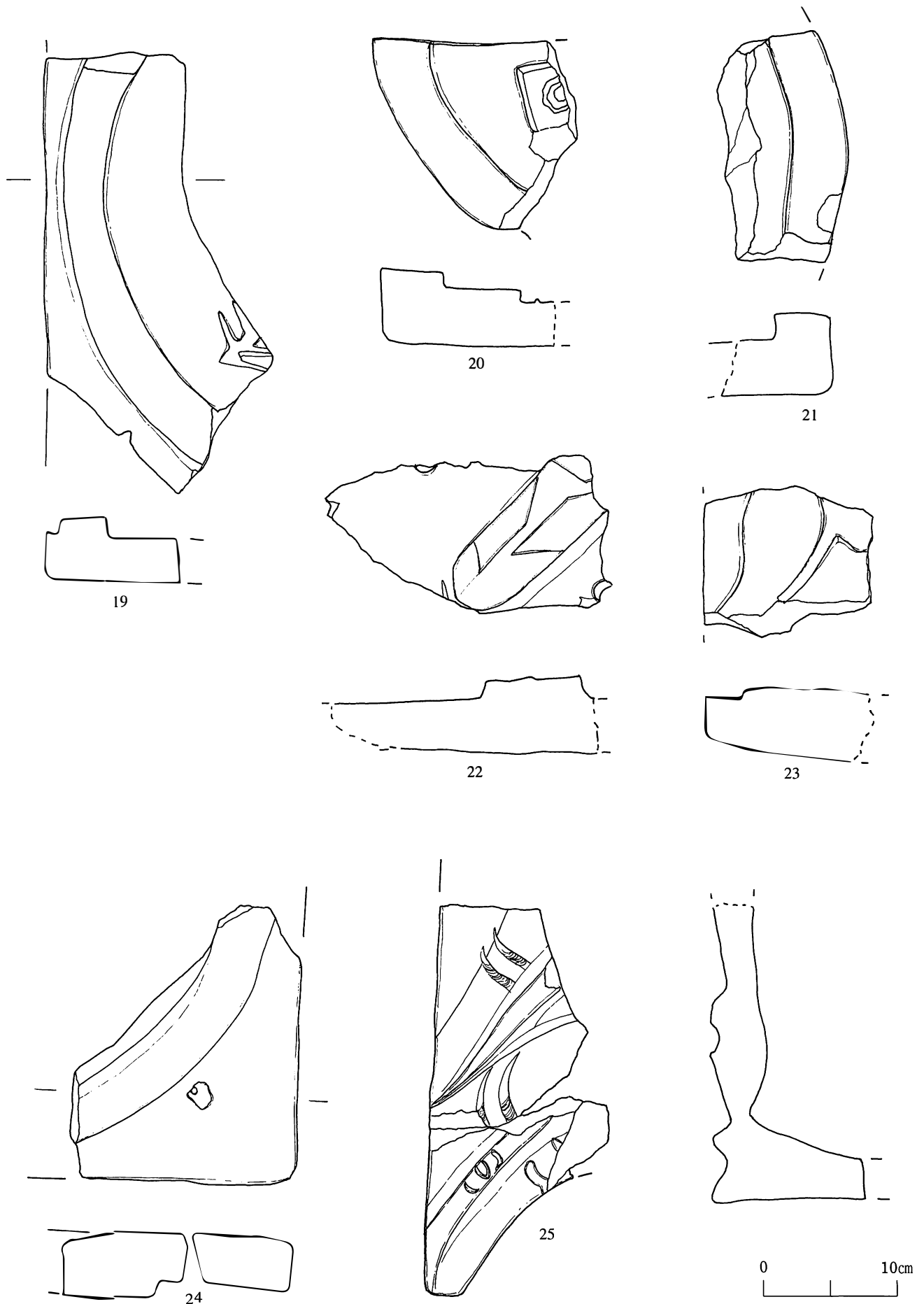
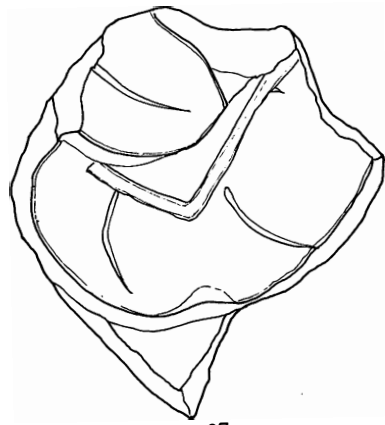
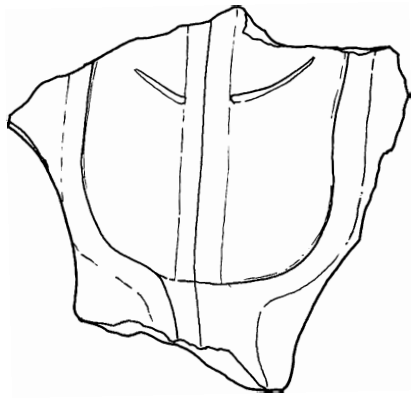
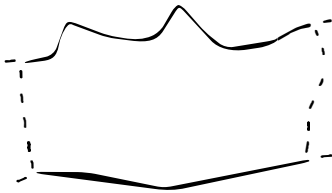


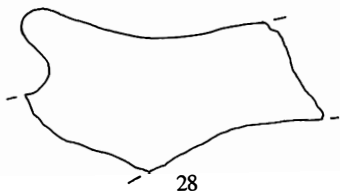
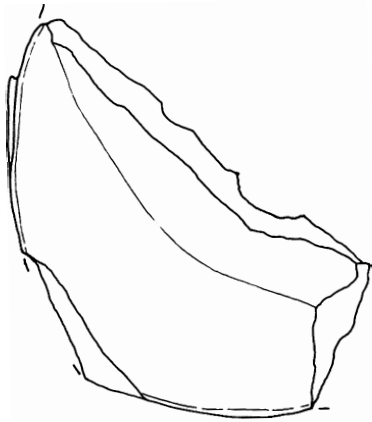
图52



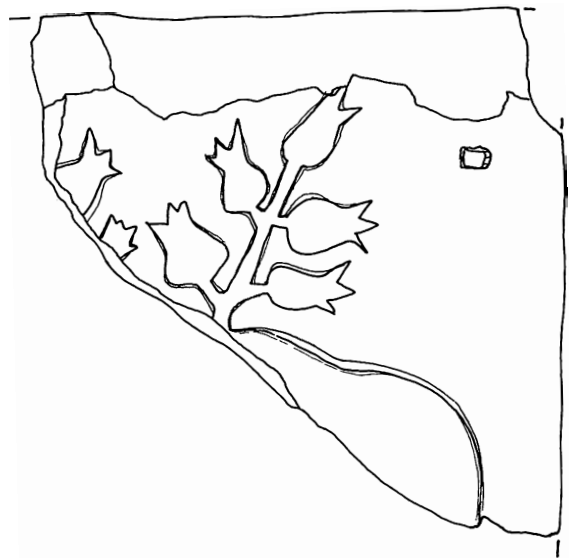
27



26



28



29



图53



## 第2節 石造物・その他の遺物

本年度調査中に出土した石造物は29点を数える。内訳は茶臼4点、穀臼（上臼）8点、穀臼（下臼）10点、片口の石製品1点、擦り臼1点、五輪塔の火輪1点、地輪4点である。今回の発掘では五輪塔よりも臼類が多く検出されている。臼類では、下臼の完形に近いものが1点出土した。他の臼は1/4から半分が残されていた。五輪塔では、火輪と地輪だけ出土し、他の空風・水輪はみられなかった。すべて、本丸の北腰石垣の解体の際、裏栗層から出土したものである。甲府城築城前に当地にあり、現在、甲府市太田町に所在する一蓮寺にかかわるものとみられる。石材は全部が安山岩である。以下、個々の計測数値を表に挙げることにする。なお、分割以外の単位はすべてcmである。

瓦・石造物移外の遺物出土は少ない。灰釉の小型の丸皿は城内での表面採集品で、16世紀末に位置付けられる。キセルは城内での表面採集品で、18世紀末に位置付けられる。

### 茶臼（下臼）

| NO | 出土地    | 擦り面直径 | 全体直径 | 高さ   | 分割 |
|----|--------|-------|------|------|----|
| 1  | 本丸北腰石垣 | 21.6  | 38.4 | 16.0 | 8  |
| 2  | 本丸北腰石垣 | 22.4  | 32.0 | 12.0 |    |

### 茶臼（上臼）

| NO | 出土地    | 直径   | 高さ   | 縁幅  |
|----|--------|------|------|-----|
| 3  | 本丸北腰石垣 | 20.8 | 13.6 | 3.2 |
| 4  | 本丸北腰石垣 | 20.0 | 14.4 | 3.2 |

### 穀臼（上臼）

| NO | 出土地    | 直径   | 高さ   | 縁幅  |
|----|--------|------|------|-----|
| 5  | 本丸北腰石垣 | 34.0 | 15.2 | 3.4 |
| 6  | 本丸北腰石垣 | 32.0 | 16.0 | 3.0 |
| 7  | 本丸北腰石垣 | 28.0 | 13.2 | 3.1 |
| 8  | 本丸北腰石垣 | 28.8 | 13.6 |     |
| 9  | 本丸北腰石垣 | 30.8 | 12.9 | 4.8 |
| 10 | 本丸北腰石垣 | 31.2 | 11.6 | 3.1 |
| 11 | 本丸北腰石垣 | 29.6 | 10.8 | 3.2 |
| 12 | 本丸北腰石垣 | 32.0 | 9.4  | 3.3 |

### 穀臼（下臼）

| NO | 出土地    | 直径   | 高さ   | 分割  |
|----|--------|------|------|-----|
| 13 | 本丸北腰石垣 | 32.8 | 10.4 |     |
| 14 | 本丸北腰石垣 | 31.2 | 8.4  |     |
| 15 | 本丸北腰石垣 | 27.2 | 11.6 | 放射状 |
| 16 | 本丸北腰石垣 | 32.4 | 12.6 | 6   |
| 17 | 本丸北腰石垣 | 28.8 | 14.8 | 6   |
| 18 | 本丸北腰石垣 | 30.0 | 11.1 | 8   |
| 19 | 本丸北腰石垣 | 31.0 | 16.1 |     |
| 20 | 本丸北腰石垣 | 28.4 | 14.8 | 放射状 |
| 21 | 本丸北腰石垣 | 34.2 | 14.8 | 8   |
| 22 | 本丸北腰石垣 | 29.6 | 13.6 | 6   |

### 石製品

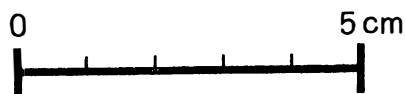
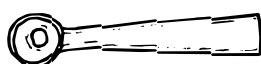
| NO | 出土地    | 直径   | 高さ   | 分割  |
|----|--------|------|------|-----|
| 23 | 本丸北腰石垣 | 23.0 | 12.0 | 5.7 |
| 24 | 本丸北腰石垣 | 16.3 | 8.6  | 4.5 |

### 五輪塔（火輪）

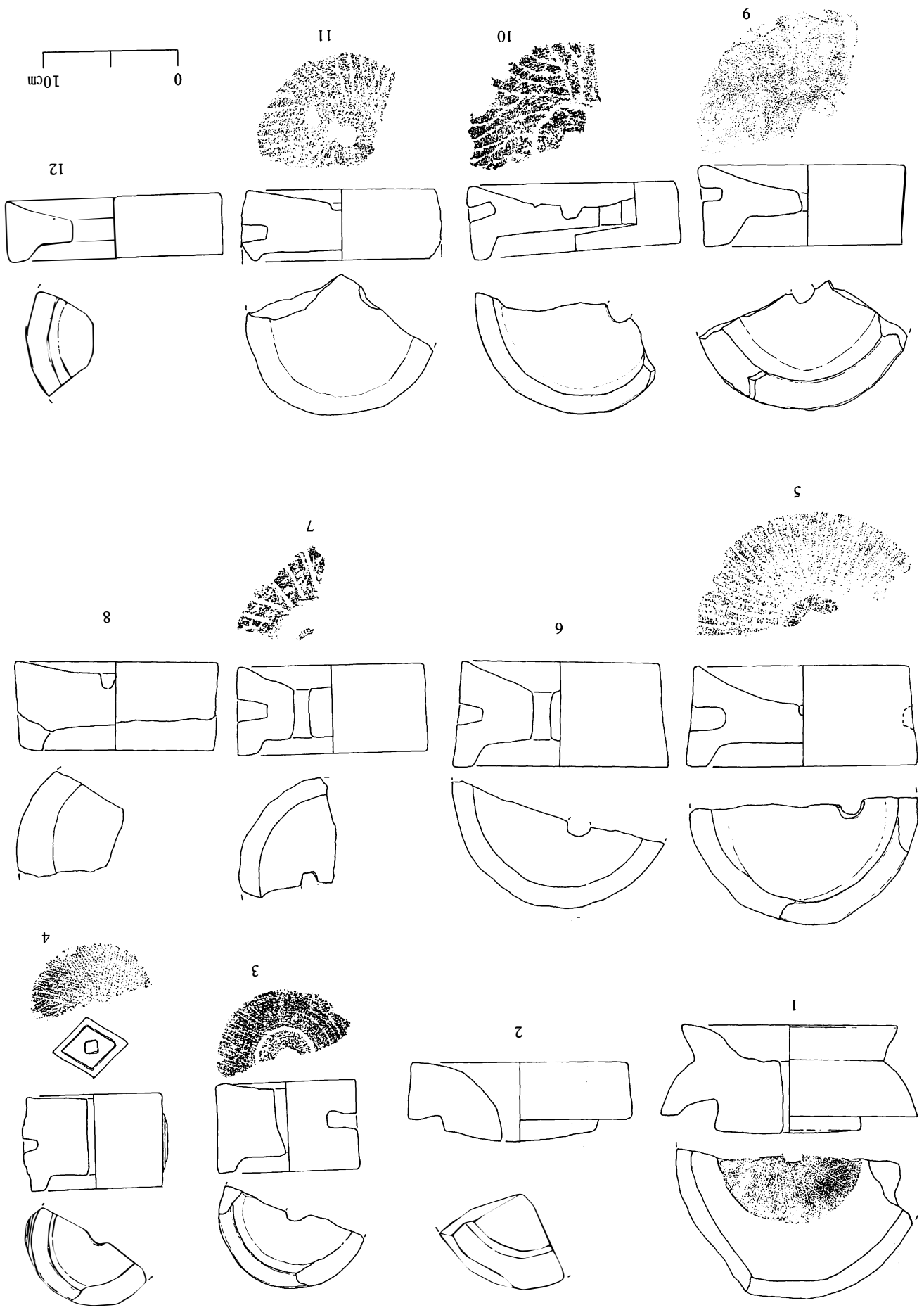
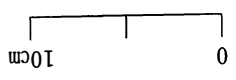
| NO | 出土地    | 縦    | 横    | 高さ   | 差込直径 | 差込深さ |
|----|--------|------|------|------|------|------|
| 25 | 本丸北腰石垣 | 19.7 | 19.0 | 10.8 | 5.7  | 4.8  |

### 五輪塔（地輪）

| NO | 出土地    | 縦    | 横    | 高さ   |
|----|--------|------|------|------|
| 26 | 本丸北腰石垣 | 19.2 | 18.6 | 13.6 |
| 27 | 本丸北腰石垣 | 18.2 | 17.6 | 8.8  |
| 28 | 本丸北腰石垣 | 17.8 | 16.8 | 9.4  |
| 29 | 本丸北腰石垣 | 16.9 | 16.0 | 10.4 |



55



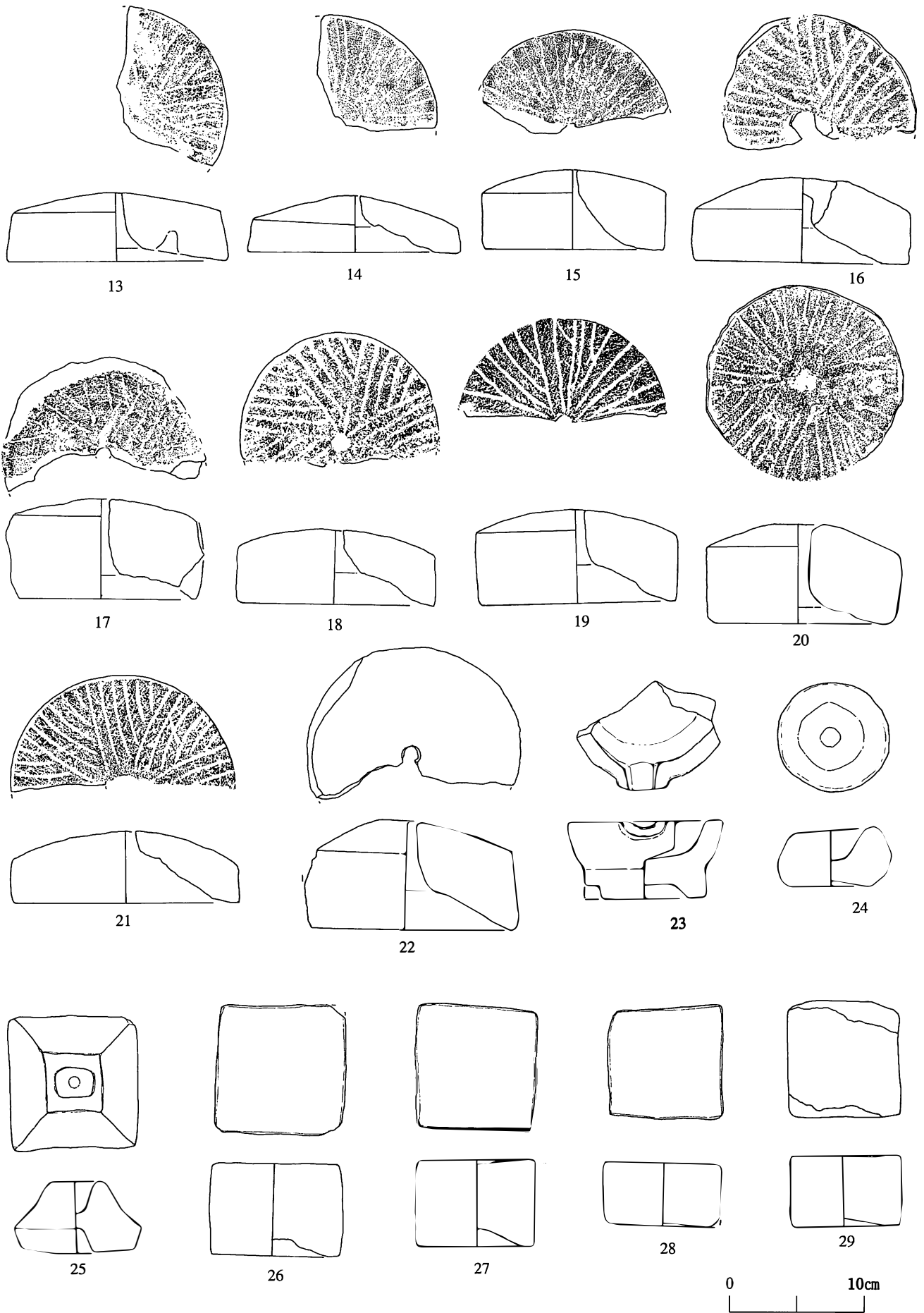
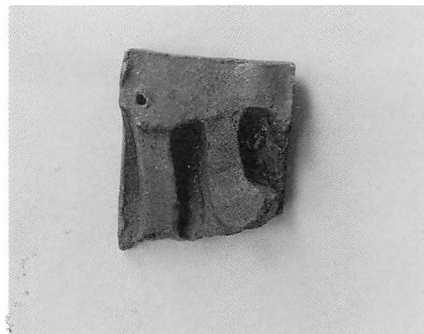
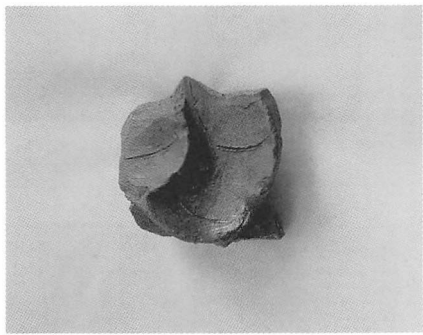
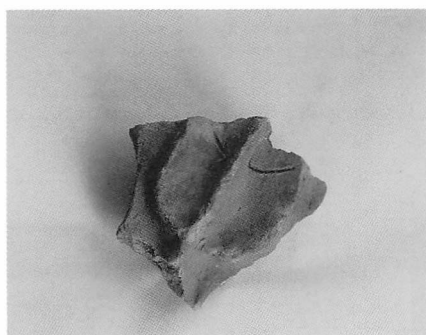
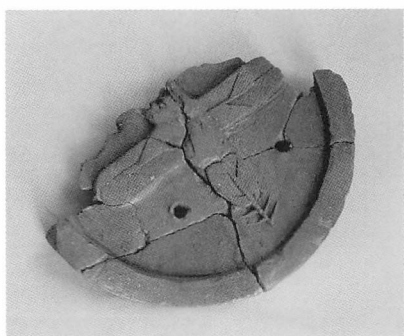
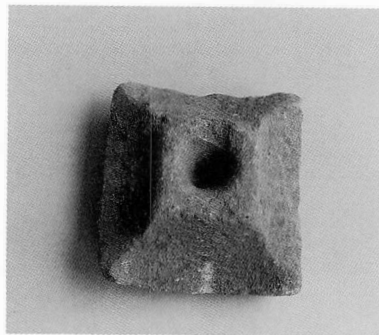
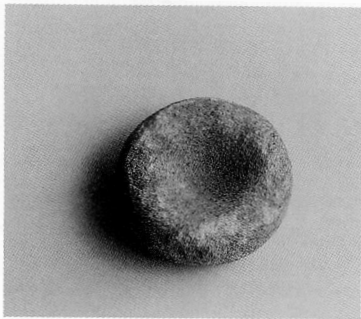
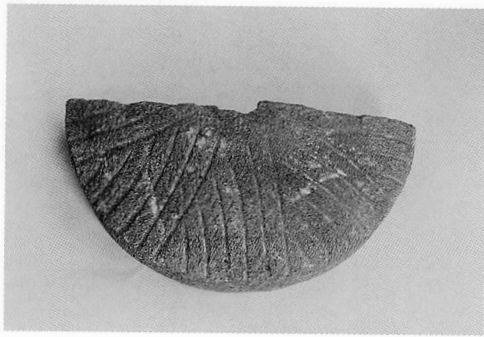
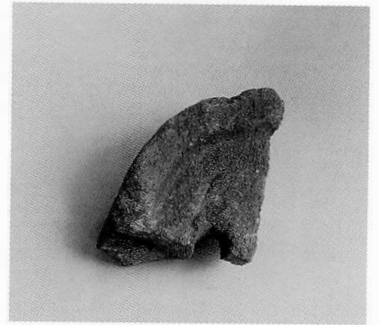
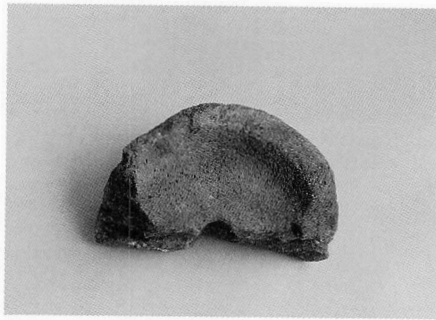
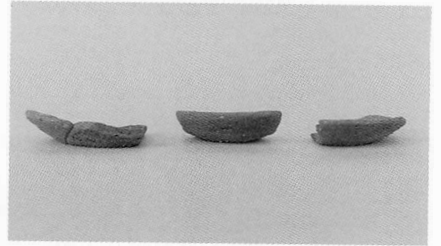
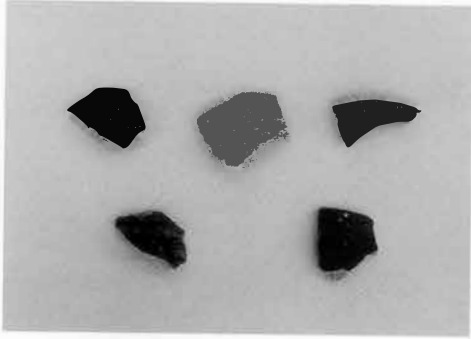


图56



主要出土遺物 (1)



主要出土遺物 (2)

## 第5章 線刻画

平成9年度から甲府城内から線刻画・点刻画の発見が相次いでいる。本章では現在までに確認されている線刻画・点刻画の資料を報告する。

まず、線刻画とは甲府城内で確認された記号・文様・抽象的図形・直線や曲線類あるいは文字が挙げられ、石材の表面に釘や鑿のような先端の尖った工具を使用し、石材表面を引っ搔くように作画しているものをいう。

ただし、特殊な事例として、唯一稲荷曲輪北東石垣で確認された記号と文字については作画手法が明らかに異なることから点刻画と呼称する。点刻画の作画方法は、先端がやや丸みを帯びた工具を使用し、打痕の集合体で1つの記号や文字が構成されている。以下に現状で確認されていることを記載する。

### 検出状況

現在までに確認されている線刻画は、検出状況で大きく3つに分類される。なお、表面とは石材の自然面のことで割れ面に作画された事例は確認されていない。

1. 石垣の表面と埋め殺にされた石垣の表面
2. 石切場で割り出されたが放置された石材の表面
3. 石切場で検出された岩脈あるいは加工痕跡がのこる自然岩脈の表面。

なお、石垣の表面以外の面については断言できないが、解体した石垣石材の表面以外での作画は確認されていないので、基本的には表面のみの作画である傾向が強い。

### 検出地点と数量

線刻画が確認された位置関係は、図57が示すとおりである。数量は本丸11点、数寄屋曲輪6点、稲荷曲輪東石垣A6点、稲荷曲輪東石垣B1点、稲荷曲輪東石垣C1点、稲荷曲輪東石垣D1点、稲荷曲輪北東石垣1点、鉄門2点である。特徴としては、石垣に作画されている事例としては稲荷曲輪東石垣のみで、ほかの地点については石切場での検出である。また、本丸・稲荷曲輪・数寄屋曲輪以外での検出事例は現在のところない。

### 絵柄

まず気が付くのが数種類の記号が多いことである。特に「×」「井」「𠄎」「△」「☆」、生物としては「魚」「鳥」が多く、各地点で豊富に確認されている。そのほかに「葉」や直線・曲線が観察でき、文字と判読できるのは稲荷曲輪東石垣Bの「七」しかない。

また、現在の傾向として魚は単体で作画されることは少なく、複数匹が集中的に見られることが多い。「☆」についても単体で描かれることもあるが、本丸から出土した事例では、約10点の「☆」が密集して描かれている。直線・曲線については今後も検討を加えるが、組み合わせによってはまた別の記号になることが予測される。

### 作画の推定時期

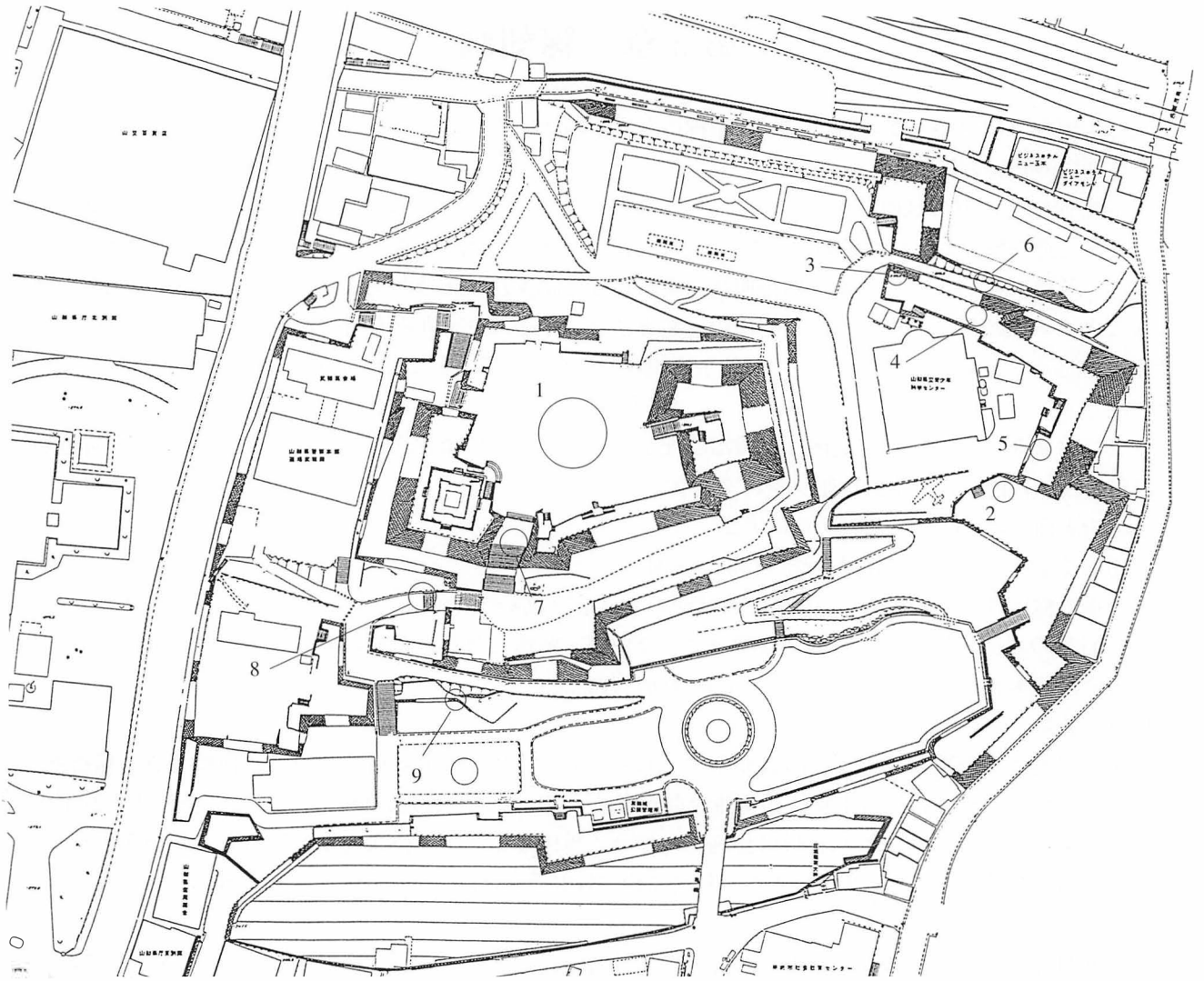
作画された石材や石切場の岩盤に矢穴の痕跡が残っていることが多い。矢穴の痕跡は、約四寸の大きさである。四寸矢穴の時的的位置付けは、築城期に積まれた野面積みの石垣に見られるものである。四寸矢穴と線刻画がセットになっている事例が多いことから時間的関連性が伺える。また、石切場では築城に携わった浅野家の家紋瓦が出土することが多い。このことから、築城期ないしは築城期から時間的経過が少ない段階に作画されたと考えられる。

### 作者者と意図

作画された道具や線刻画の種類と検出場所の傾向から、同じような作画行為が共通した意識のもとで繰り返し実践されてたと推測することができる。特に、その数の多さから、毎日ではないにしろ石を切り出すなどの大きな場面に際し、習慣的に行なっていたと想像できる。従って、直接石切場に携わる人物が最も想定しやすい。

また、線刻画の記号から陰陽道との関わりが指摘され、「×」「井」「𠄎」「☆」の記号などは陰陽道の呪符記号であるとの指摘が大阪成蹊大学名誉教授岡田保造氏によりなされている。





- |                                      |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1. 本丸 図59 1～11                       | 5. 稲荷曲輪東石垣南 図61 30      |
| 2. 数寄屋曲輪 図60 12～17                   | 6. 稲荷曲輪東石垣北東面 図61 31    |
| 3. 稲荷曲輪東石垣北面 図60 18～21 図61 25・26     | 7. 鉄門階段石 図61 32・33      |
| 4. 稲荷曲輪東石垣南面相坂 60 22～23 図61 24・27～29 | 8. 中の門石垣根石 図58 図61 写真11 |

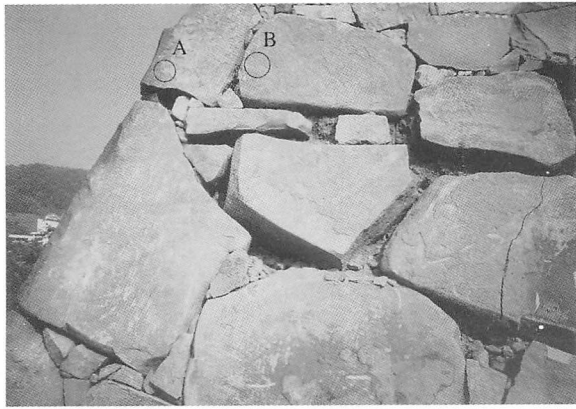


本丸で検出された石切場



数寄屋曲輪で調査中の石切場

図57 甲府城内の線刻画検出状況図



1

稲荷曲輪東石垣北面 大半の石材に線刻画が確認できる



2

稲荷曲輪東石垣北東面の点刻画



3

A部分拡大



4

B部分拡大



5

C部分拡大



6

数寄屋曲輪石切場の線刻画 (図60 12)



7

数寄屋曲輪石切場検出 (図59 7~8)

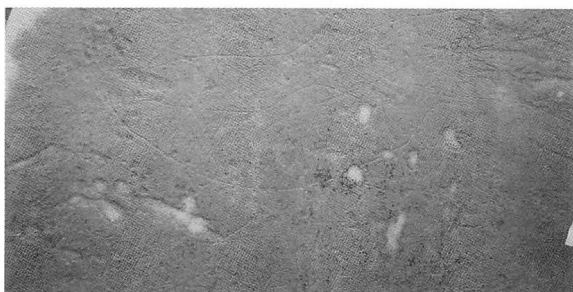


8



9

(第 図12)



10

稲荷曲輪東石切場の線刻画 (図60 20)



11

中の門石垣検出の線刻画

図58

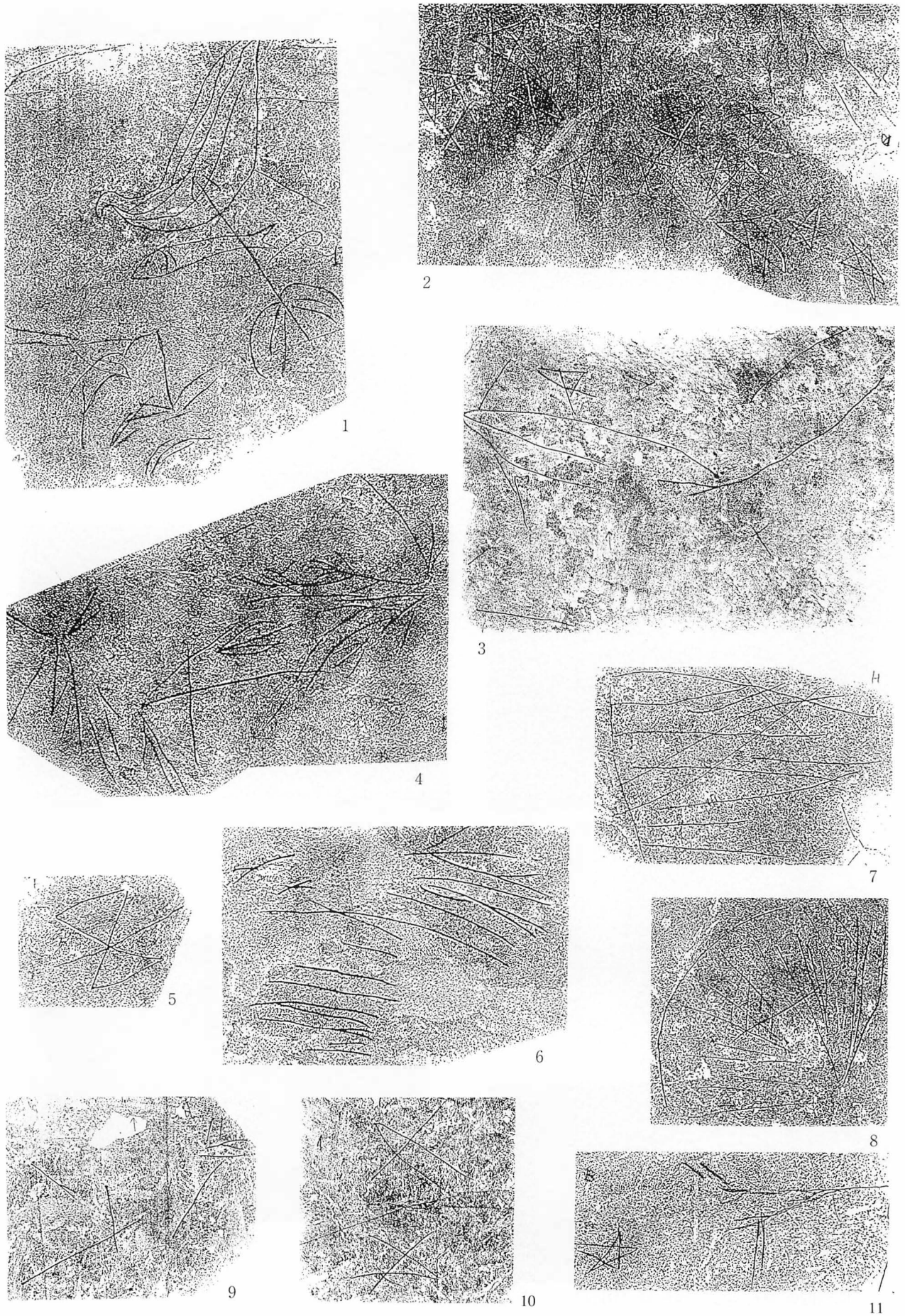
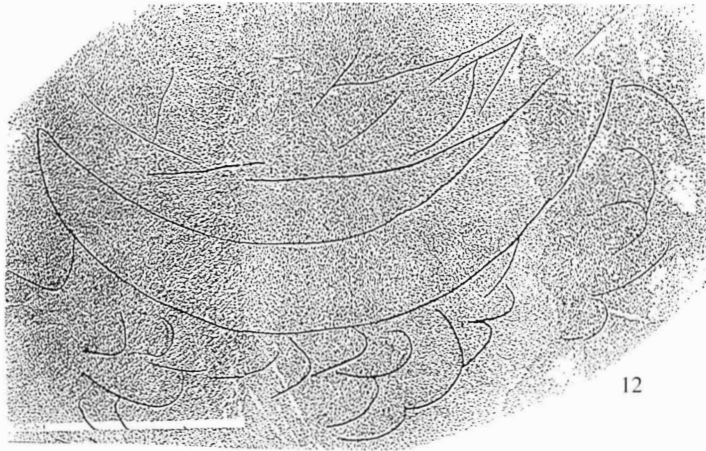


図59 甲府城内検出の線刻画 (S=1/3)





12



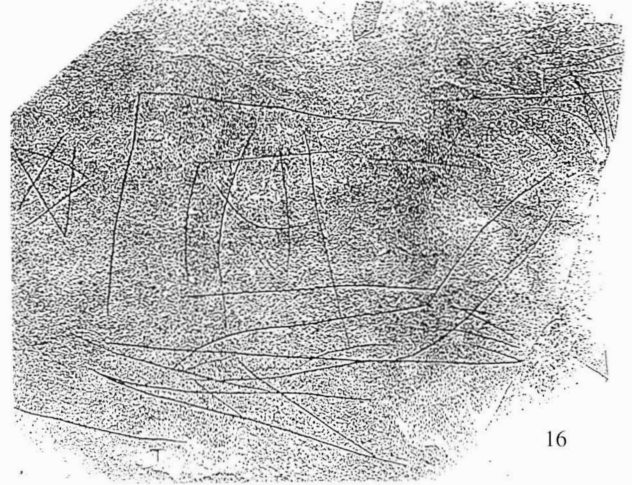
13



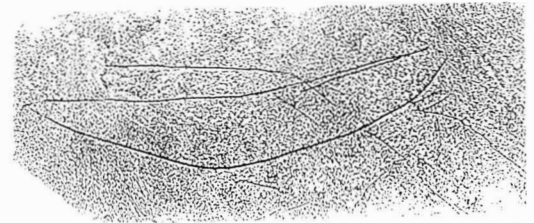
14



15

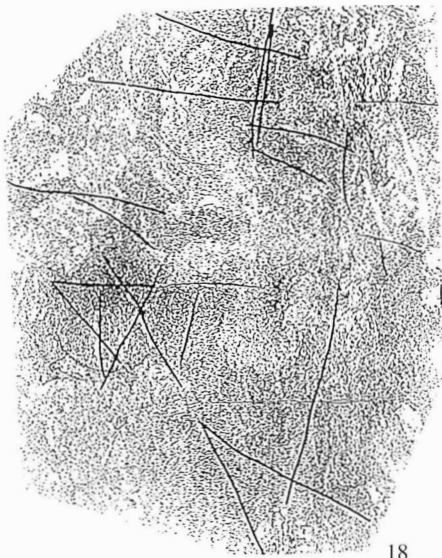


16



17

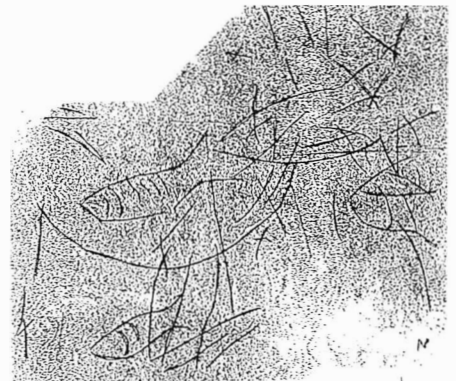
//////////////////////////////////// 稻荷曲輪 //////////////////////////////////////



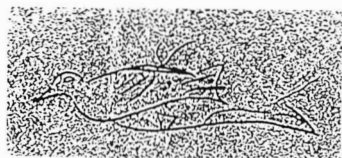
18



19



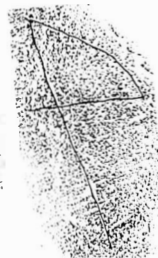
20



21



22



23

図60 甲府城内検出の線刻画 (S=1/3)

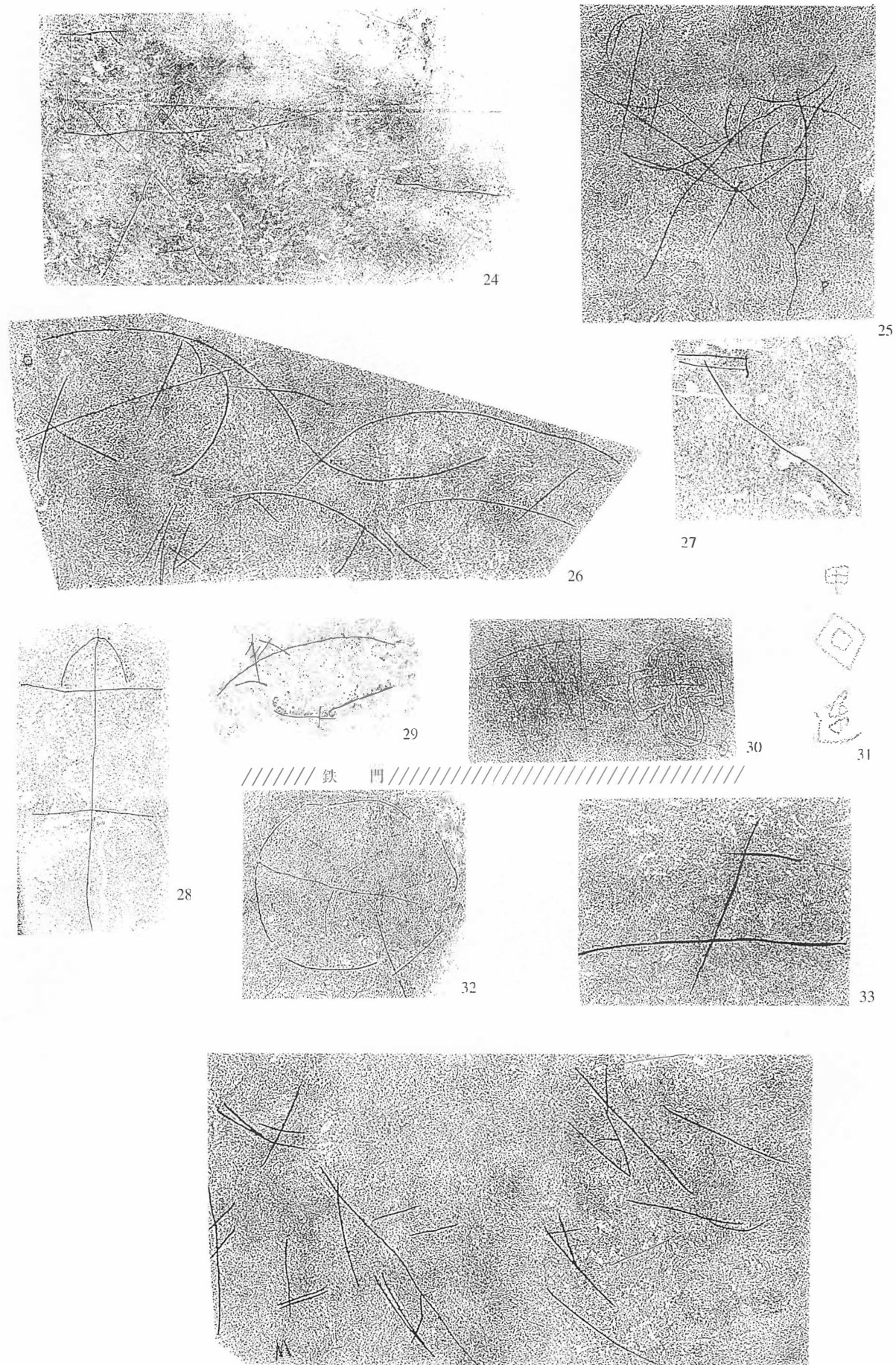


図61 甲府城内検出の線刻画 (S = 1/3)

## 報告書概要

|        |  |   |
|--------|--|---|
| フリガナ   | ヤマナシケンシテイシセキコウフジョウアト                   |   |
| 書名     | 山梨県指定史跡 甲府城跡Ⅶ                          |   |
| シリーズ   | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第156集                |   |
| 執筆者    | 八巻與志夫・深沢容子・宮里 学・大木丈夫                   |   |
| 発行     | 山梨県教育委員会 山梨県土木部                        |   |
| 編集機関   | 山梨県埋蔵文化財センター                           |   |
| 住所・電話  | 〒400-1508 東八代郡中道町下曾根923 電話0552-66-3016 |   |
| 印刷所    | 山梨県甲府市丸の内2-3-24 (株)少国民社                |   |
| 印刷・発行日 | 1998年3月25日 1998年3月31日                  |   |
| 概要     | 所在地                                    | 甲府市丸の内1丁目地内   |
|        | 地図名・位置                                 | 1/25000 「甲府」 北緯 35° 24' 39" 東経 138° 39' 39" 標高 304m |
|        | 主な時代                                   | 戦国～江戸時代   |
|        | 主な遺構                                   | 石垣・建物跡  |
|        | 主な遺物                                   | 瓦・石造物・土器類   |
|        | 特殊遺構                                   | 煙硝蔵   |
|        | 特殊遺物                                   | 金箔瓦(飾瓦・鯨瓦)  |
|        | 調査期間                                   | 1997年4月～1998年3月                                     |

### 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第156集

1998年3月25日 印刷

1998年3月31日 発行

## 甲府城跡Ⅶ

編集 山梨県埋蔵文化財センター  
山梨県東八代郡中道町下曾根923  
TEL 0552-66-3016

発行 山梨県教育委員会  
山梨県土木部

印刷 (株)少国民社



